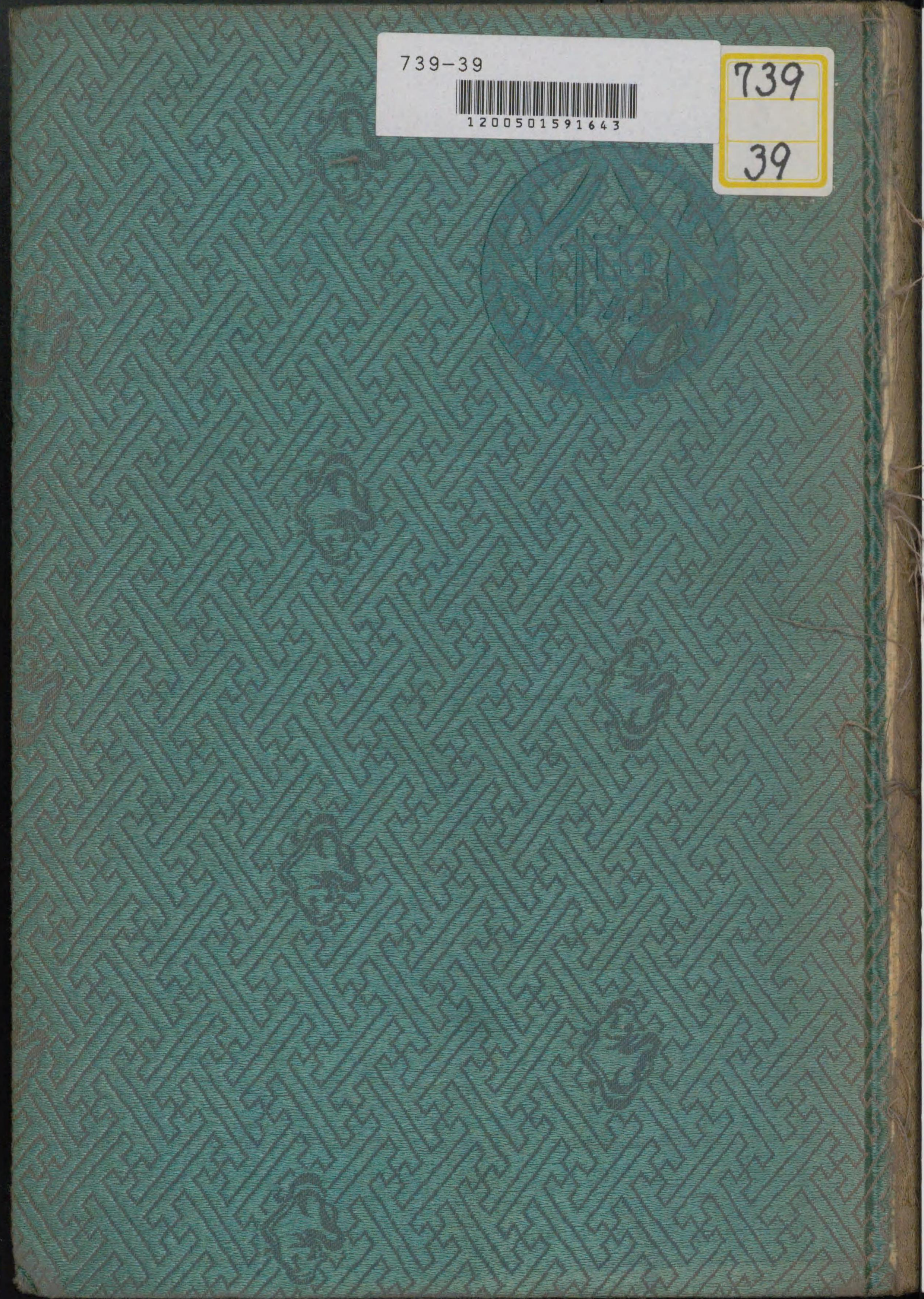
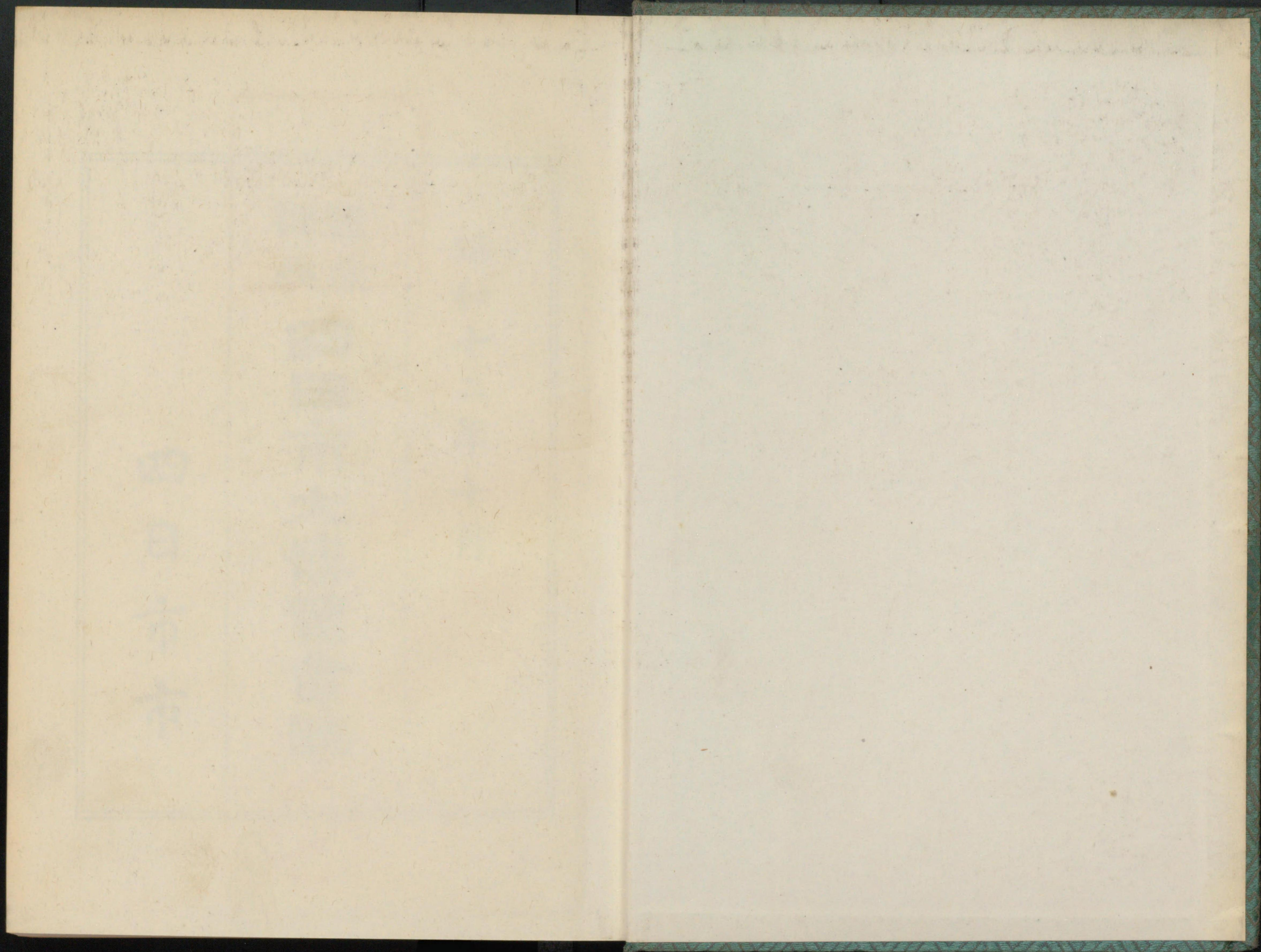


739
39

739-39
1200501591643



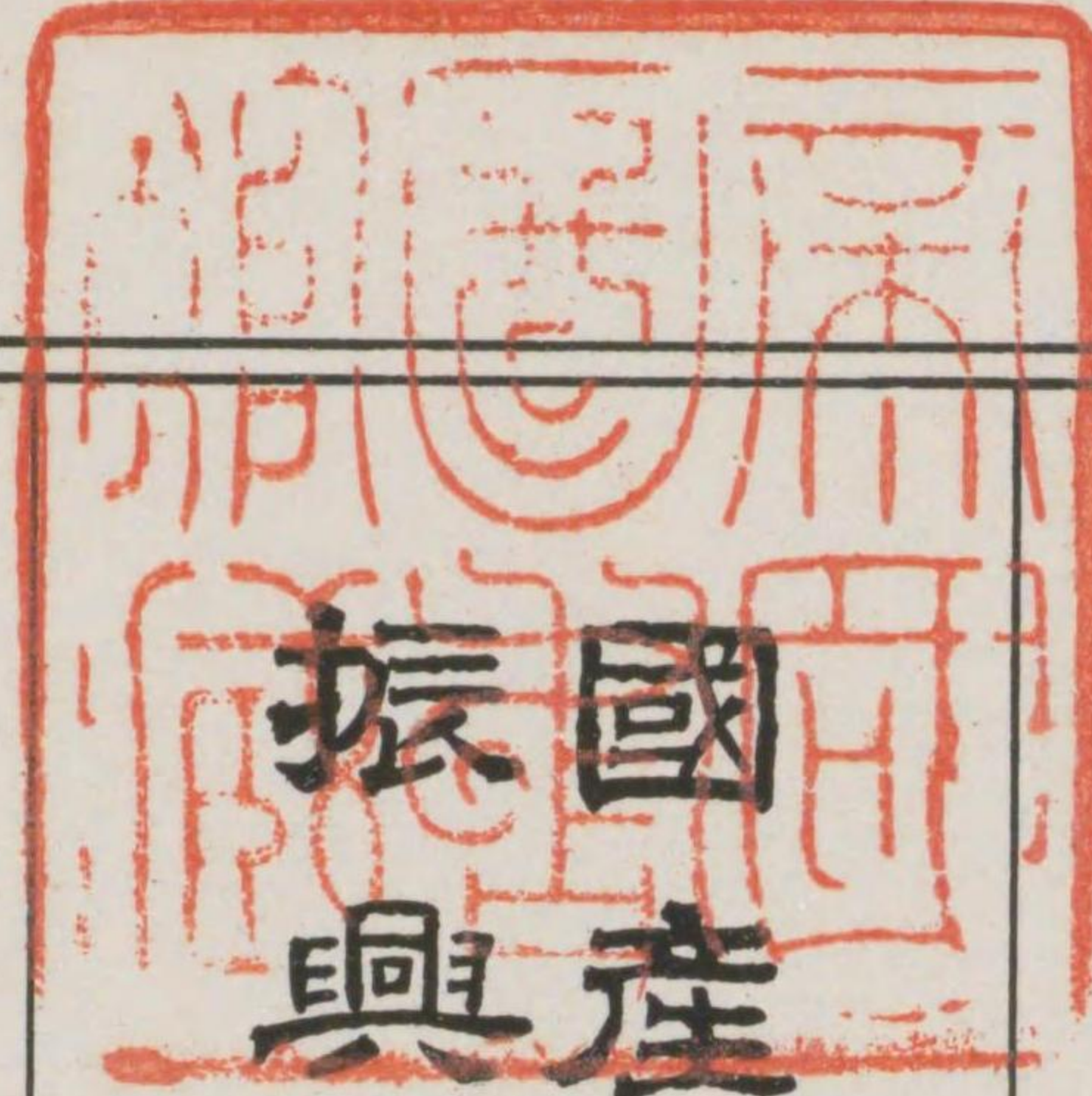


昭和十二年十月

振興國產

四日市大博覽會誌

四日市市



序

我四日市港は大廟の靈地に近く、東西交通の要衝に當り、波靜に水深く、天與の良港なり。慶長の始め、徳川家康陣屋を此地に置きしより、近海の交通上重要な位置を占めたりしが、明治の始め、當所東京間汽船航路の開通を見てより、更に隆盛を致し、近く貳拾六の星霜と壹千萬金を投じて前後二期の修築を行ひ、天與の良港に人工の斧鑿を加へ、以て益々工業の發達、商業の殷賑を見るに至れり。

昭和九年六月余は本市に職を奉ずるに至り、當所の生命たる港灣の開發に着眼し、先づ工場の誘致を策したるが、熟々本市の現勢に鑑み、本市を中外に宣傳するの急要なるを思ひ、當地先進の賛同を得て、

當所空前の事業たる國産振興四日市大博覽會を港頭に開催し、以て國産の振興と港灣の宣傳に資せんことに全力を傾注したり。

此の舉は、舉市一致絶大の好感を以て迎へられ、本縣内各郡市、全國各府縣、遠く臺灣、朝鮮、滿洲國、濠洲、南洋等江湖の官憲及び衆庶の懇切なる指導と熱烈なる後援と、關係同人協力一致の努力とにより、現代産業の精、近代科學の粹を鍾め、本市未曾有の偉觀を呈したり。

本博覽會は畏くも、久邇宮殿下の台覽を仰ぎ奉り、中外朝野の名士多數の來觀を得、入場總人員無慮六拾七萬餘を算し、正に國産振興と本市宣傳の大主眼を遺憾なく發揮し得たることは、余の寔に感激に堪へざる所なり。

爰に本博覽會の全貌を概説し、國産振興四日市大博覽會誌を上梓

する所以は、江湖先進の懇切なる指導と中外大衆の熱烈なる支援とに對し、感謝の誠意を捧げんとするに外ならず、若し夫れ之に由りて先賢の偉業を永く後昆に傳へ、報本反始の情操を涵養することを得ば、望外の幸なり。以て序とす。

昭和十二年十月

四日市市長 吉田勝太郎



下殿王女 下殿宮若兩 下殿妃 下殿王嘉多宮通久ノ臨台御=館賓迎



下殿王女 下殿宮若兩 下殿妃 下殿王嘉多宮邇久ノ臨台御=館賓迎

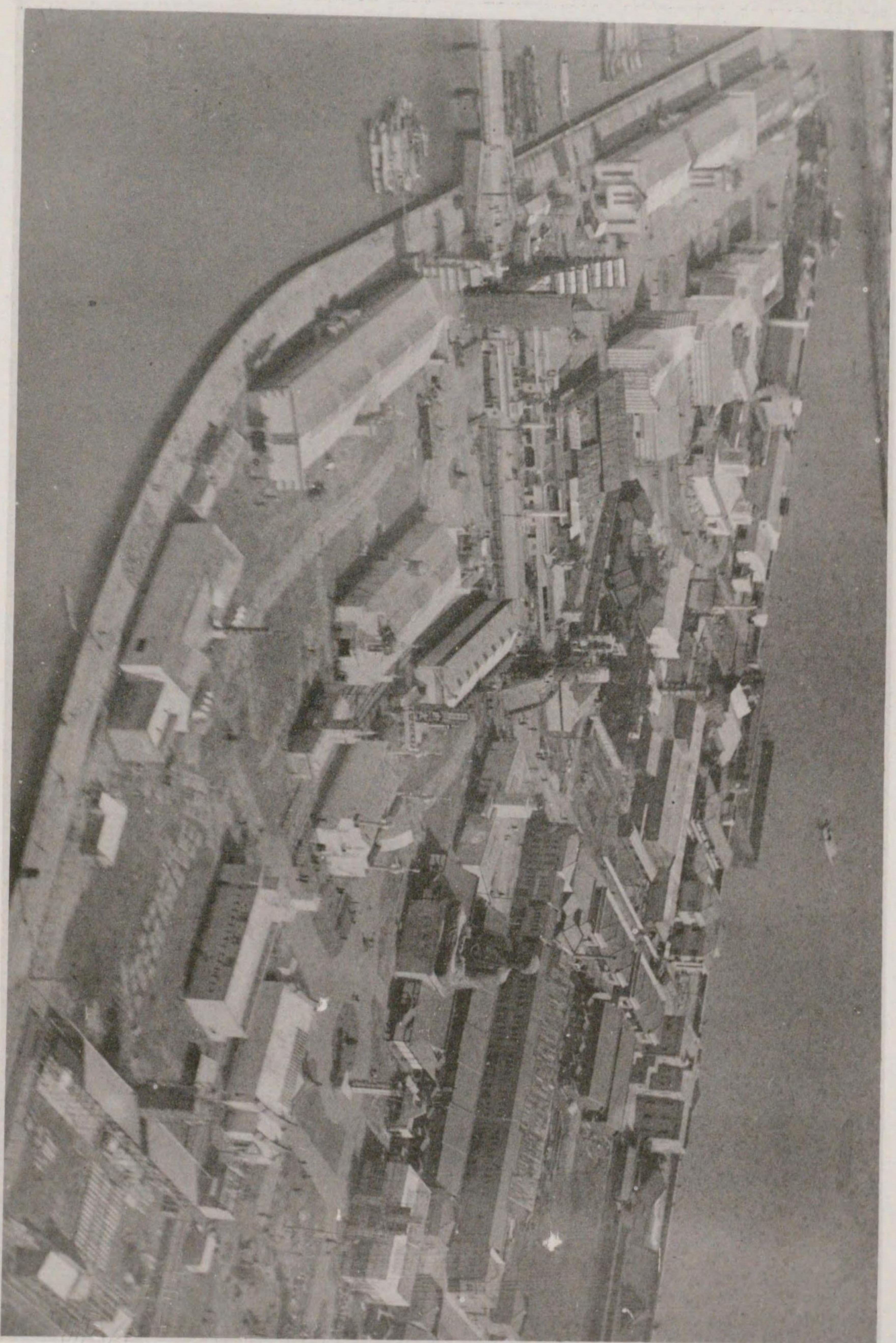


會覽博大市日四 振國興產
同日十五 日三十月五至 日五廿月三國 年一十和昭期去
市市日四 惟主 鎮港市日四 場合





會覽博大大市日四 振國興產
間日十五 日三十月五至 日五廿月三自 年一十和昭期会
市市日回 催主 頭港市日回 場会



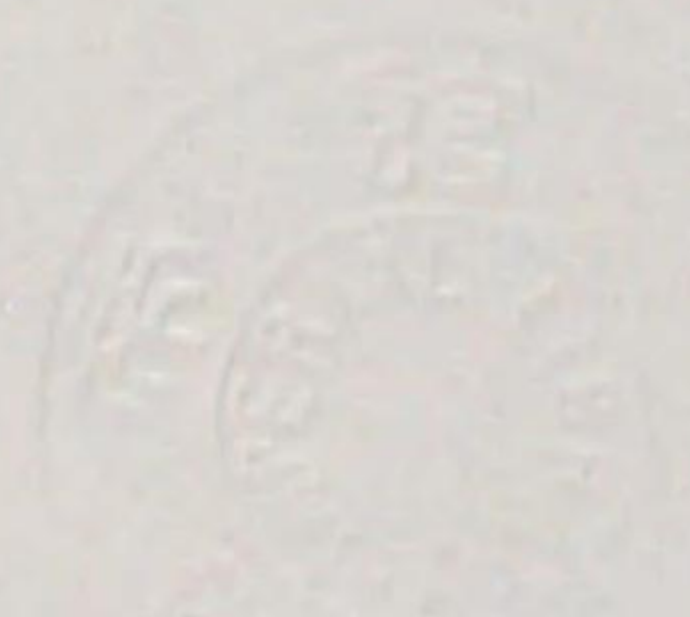
四日大市博覽會場鳥瞰寫真



裁 總



郎次愛田富 事知縣重三



副 總 裁



英 野 熊 長部務總縣重三



一 茂 木 松 長部濟經縣重三



會長



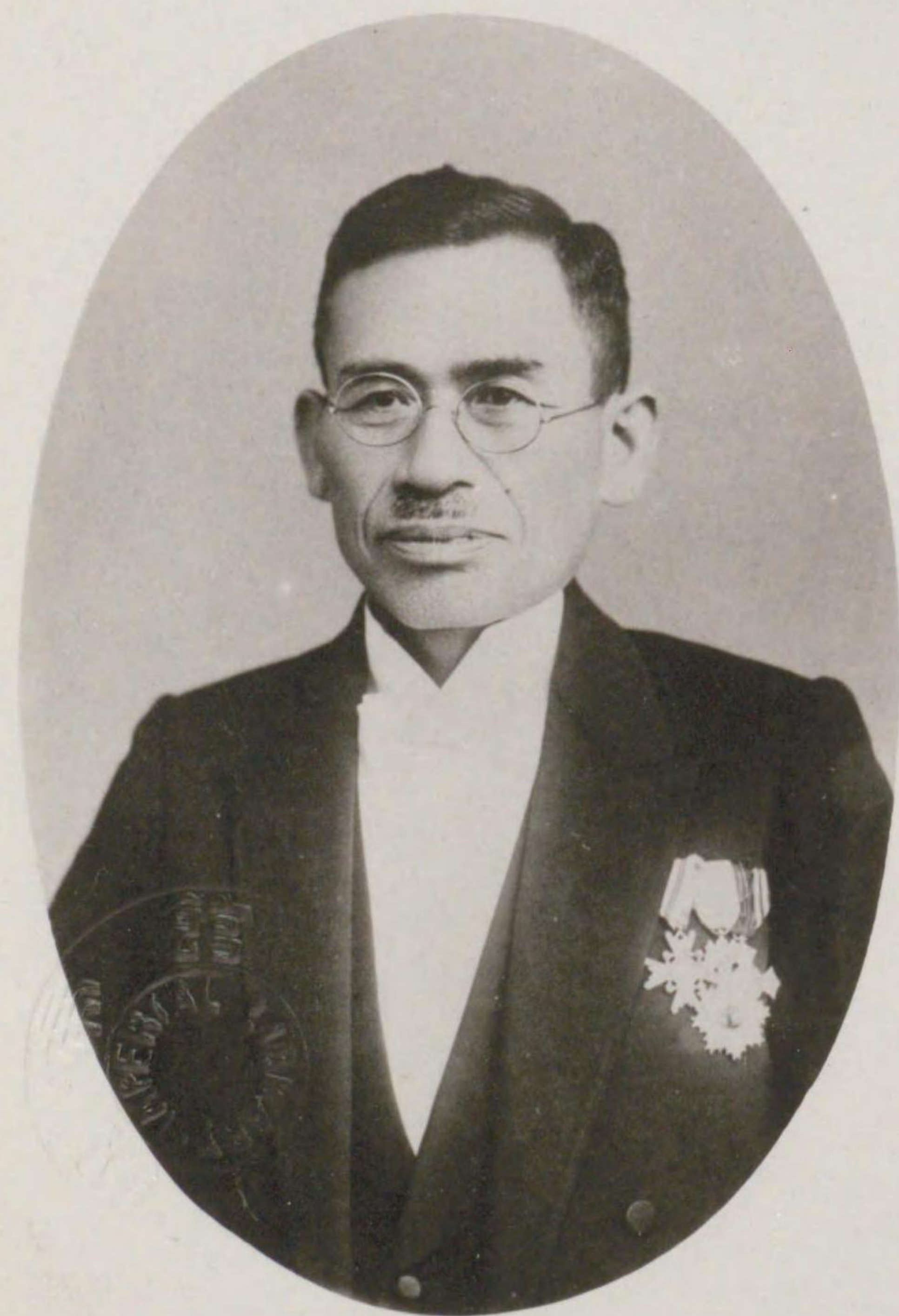
吉田勝太郎 四日市市長



副 會 長



平 金 鬼 九 長 議 會 市 市 日 四



郎 太 信 藤 加 役 助 市 市 日 四



與 參



伊藤 傳七 四日市工商會議所頭



九鬼 紋七 四日市工商會議所副頭



堀木 忠良 四日市工商會議所副頭



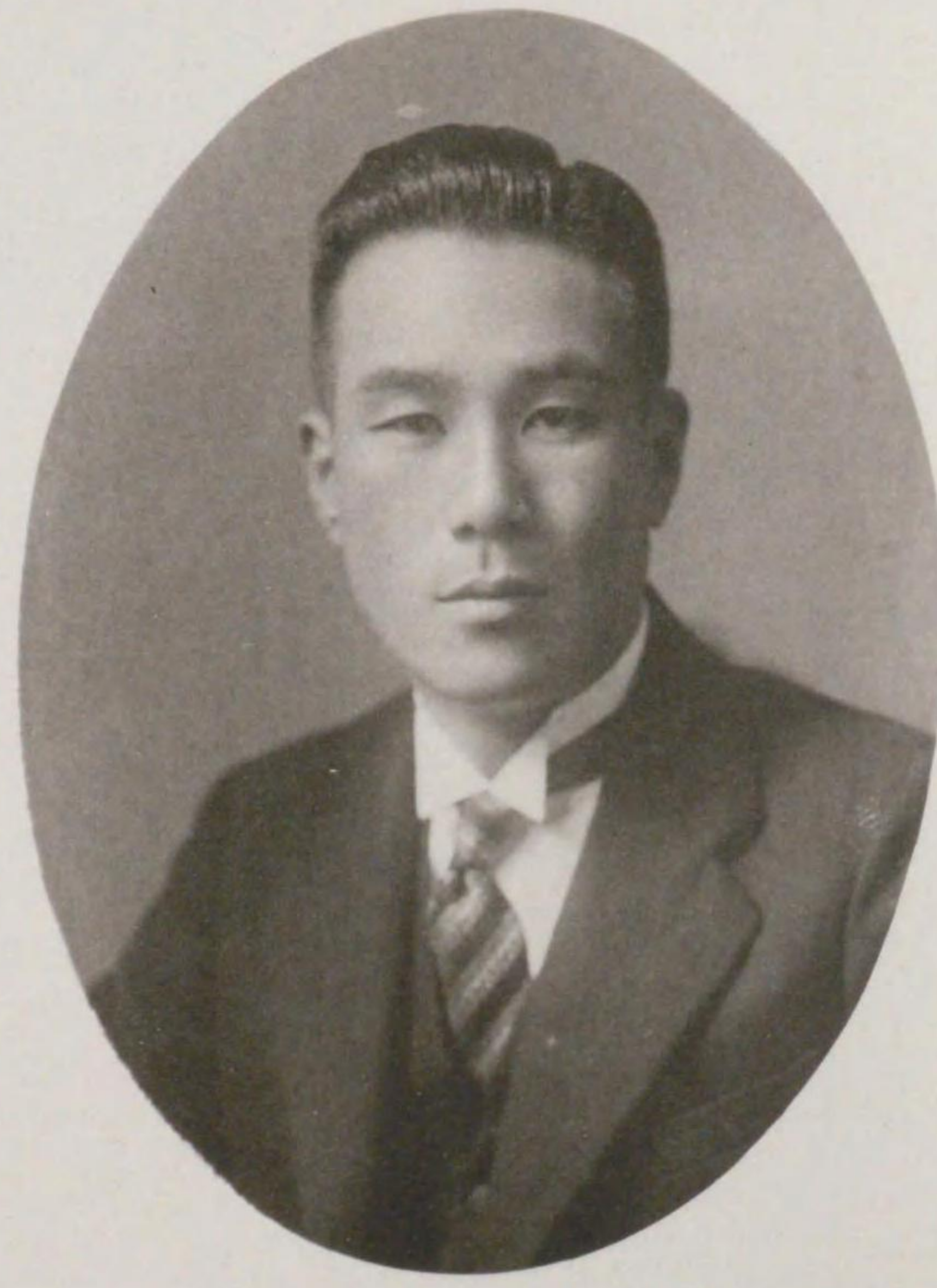
與 參



助之劍菅小 長會用利港築市日四



郎一貫達伊 長會代總町市日四



郎一健鬼九 長會工商市日四



常任評議員

(順は左より)



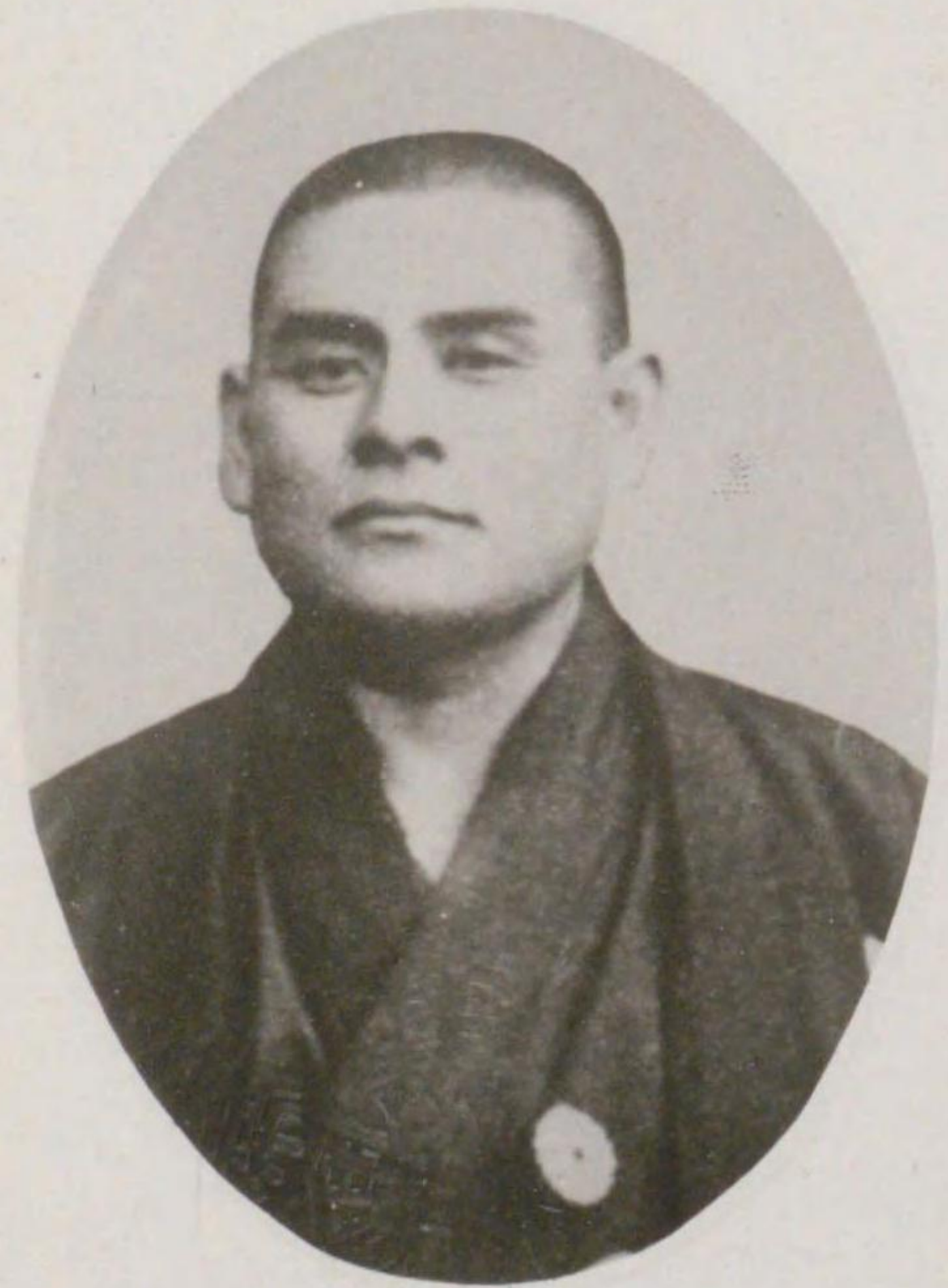
野野宗五郎 四日市市参事會員



鳥海善衛 四日市市参事會員



永田利一 四日市市参事會員



大森由松 四日市市参事會員



村山清八 四日市市参事會員



員 議 評 任 常



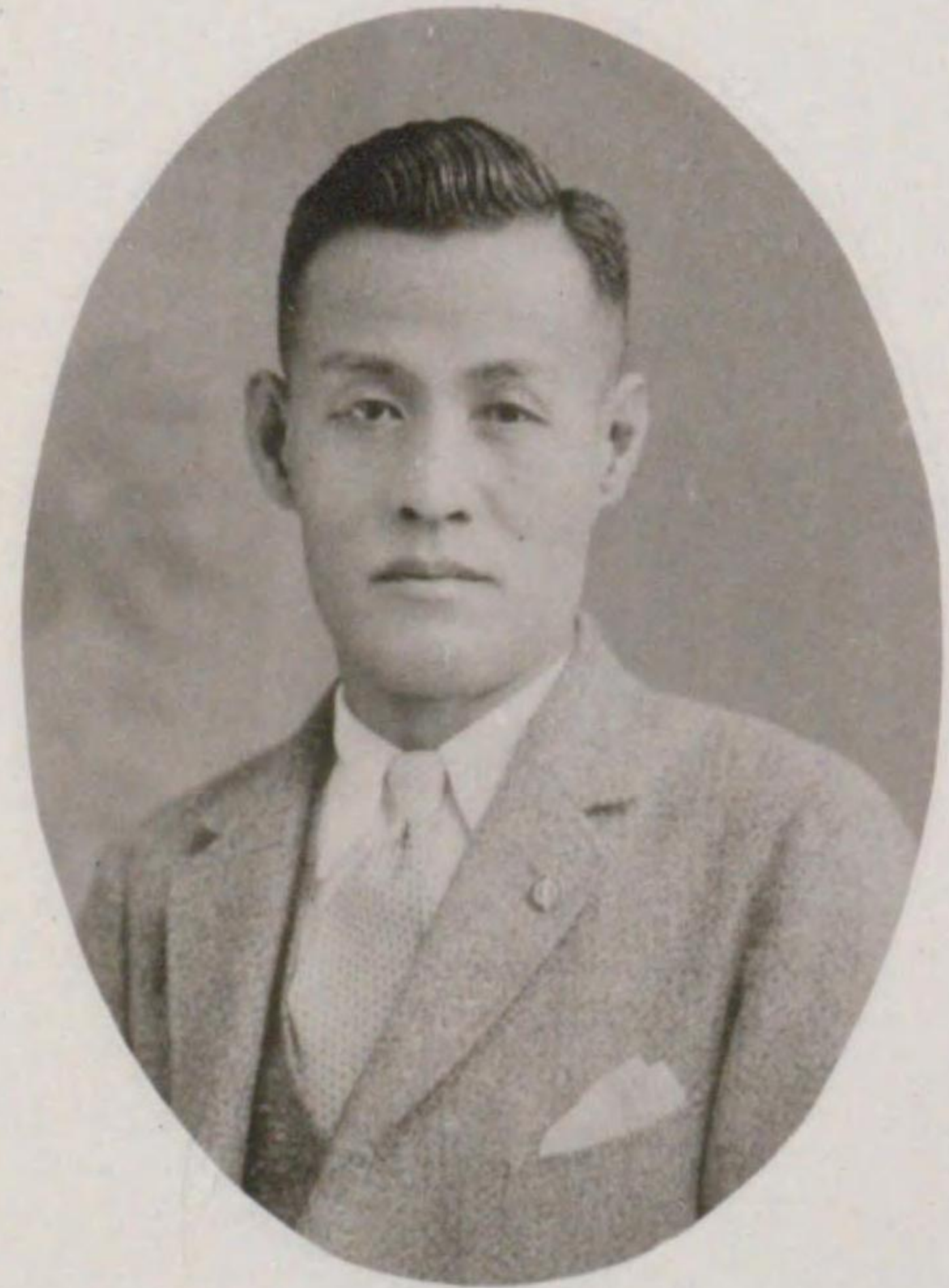
郎太助治鹽 員會事參市市日四



高濤村保久 員會事參市市日四



郎次竹島寺 員會事參市市日四



藏忠藤須 員會事參市市日四



郎三伊岡笹 員會事參市市日四



評 議 員

(順はろい)



石樽乘光 員議會市市日四



伊藤次郎 員議會市市日四



今井善三郎 員議會市市日四



西脇松次郎 員議會市市日四



石崎篤一郎 員議會市市日四



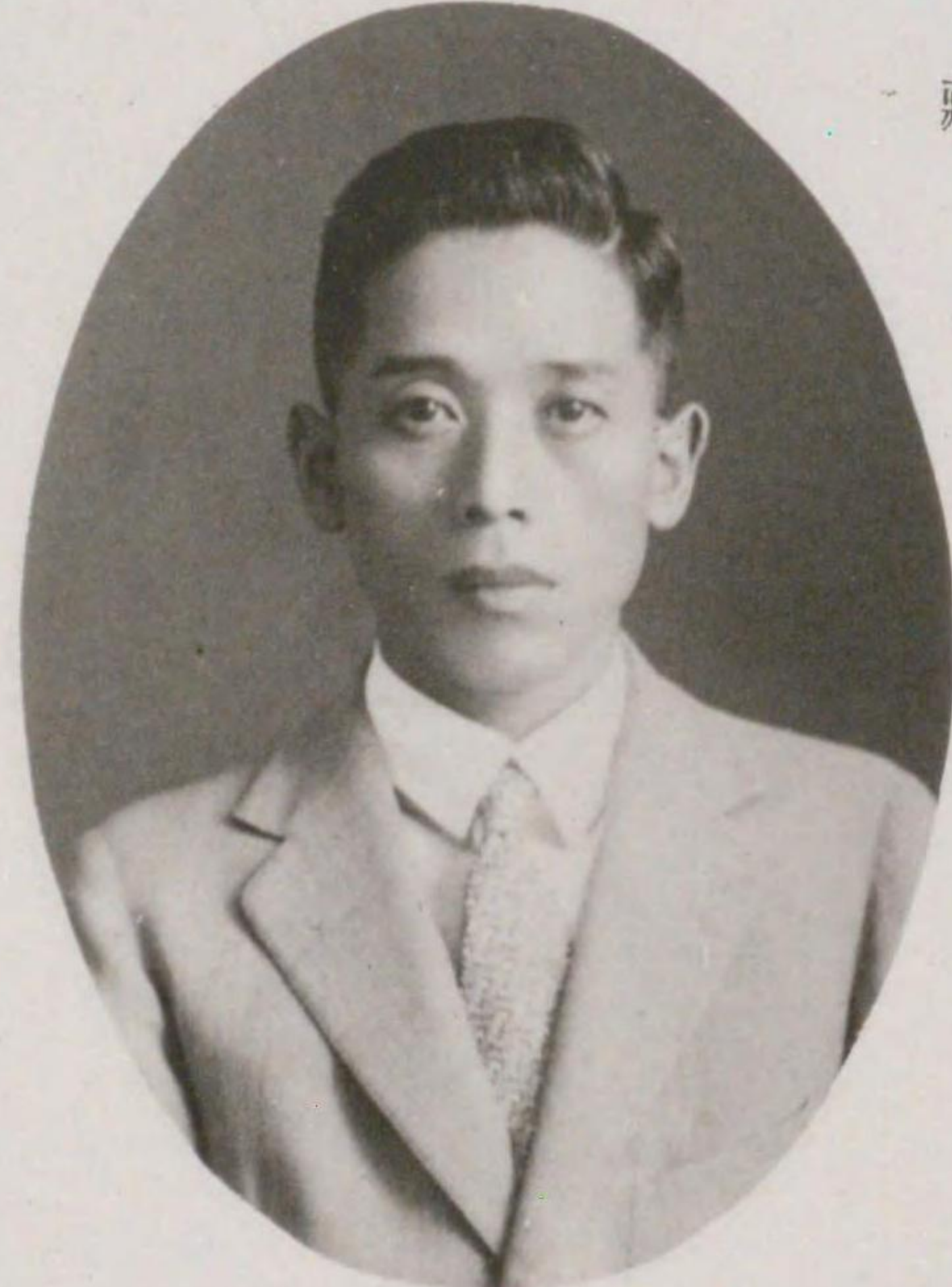
評 議 員



横田 市平 員議會市市日四



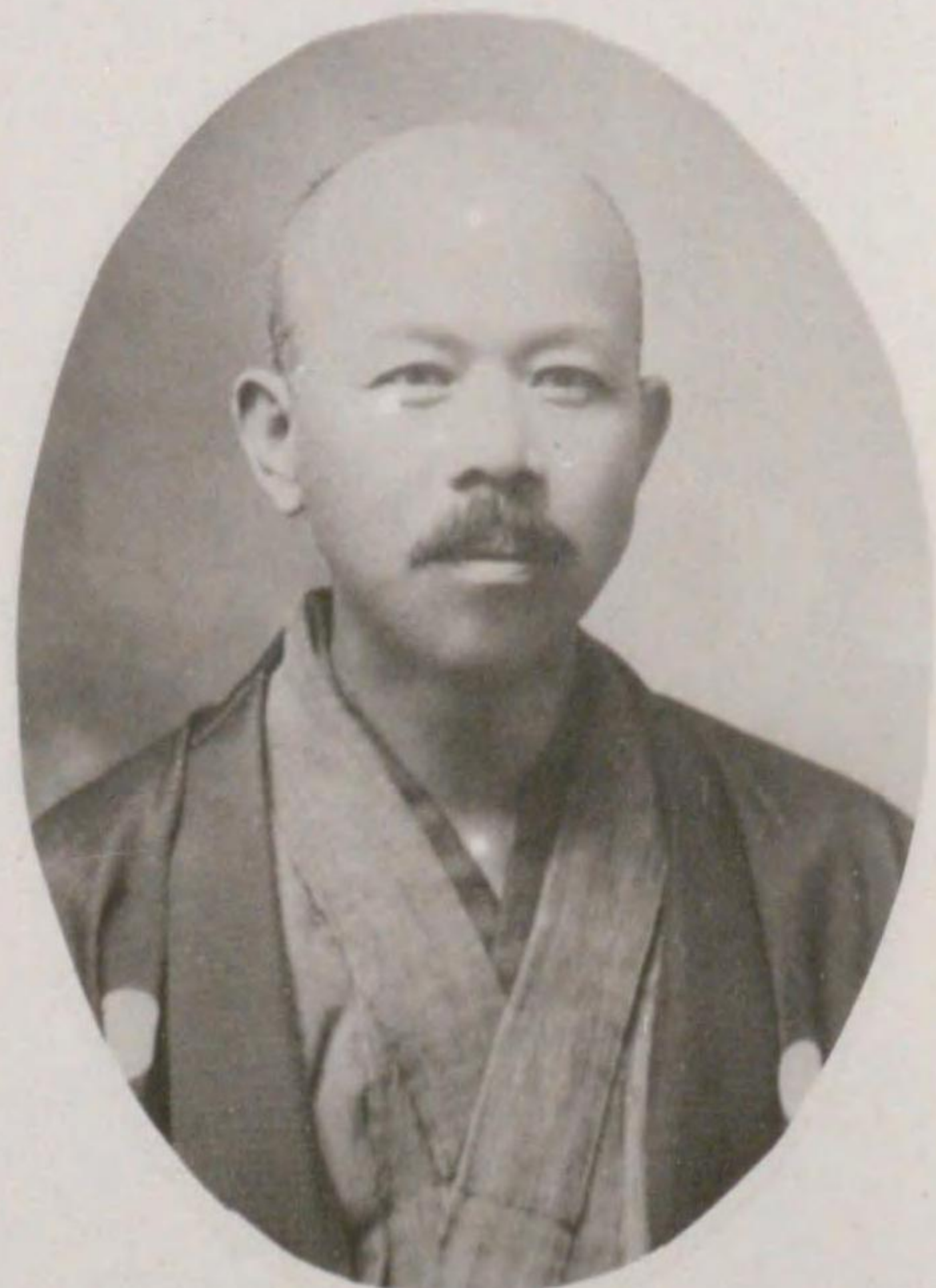
千種 繁藏 員議會市市日四



高 好士 員議會市市日四



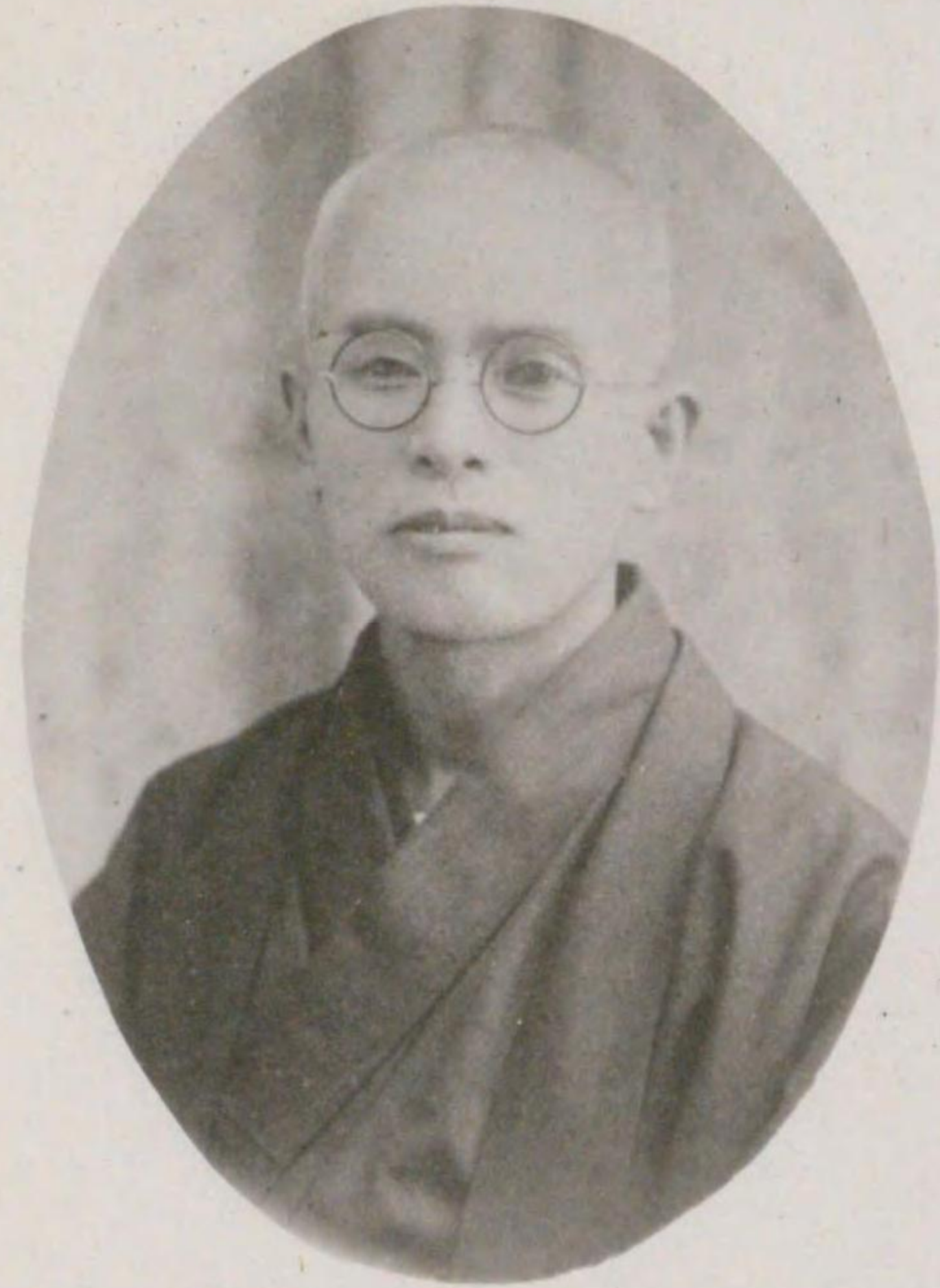
中島 庄太郎 員議會市市日四



中 西 林 助 員議會市市日四



評 議 員



野崎善三郎 四日市市議會員



井口長右衛門 四日市市議會員



大久保恒郎 四日市市議會員



熊澤龍太郎 四日市市議會員



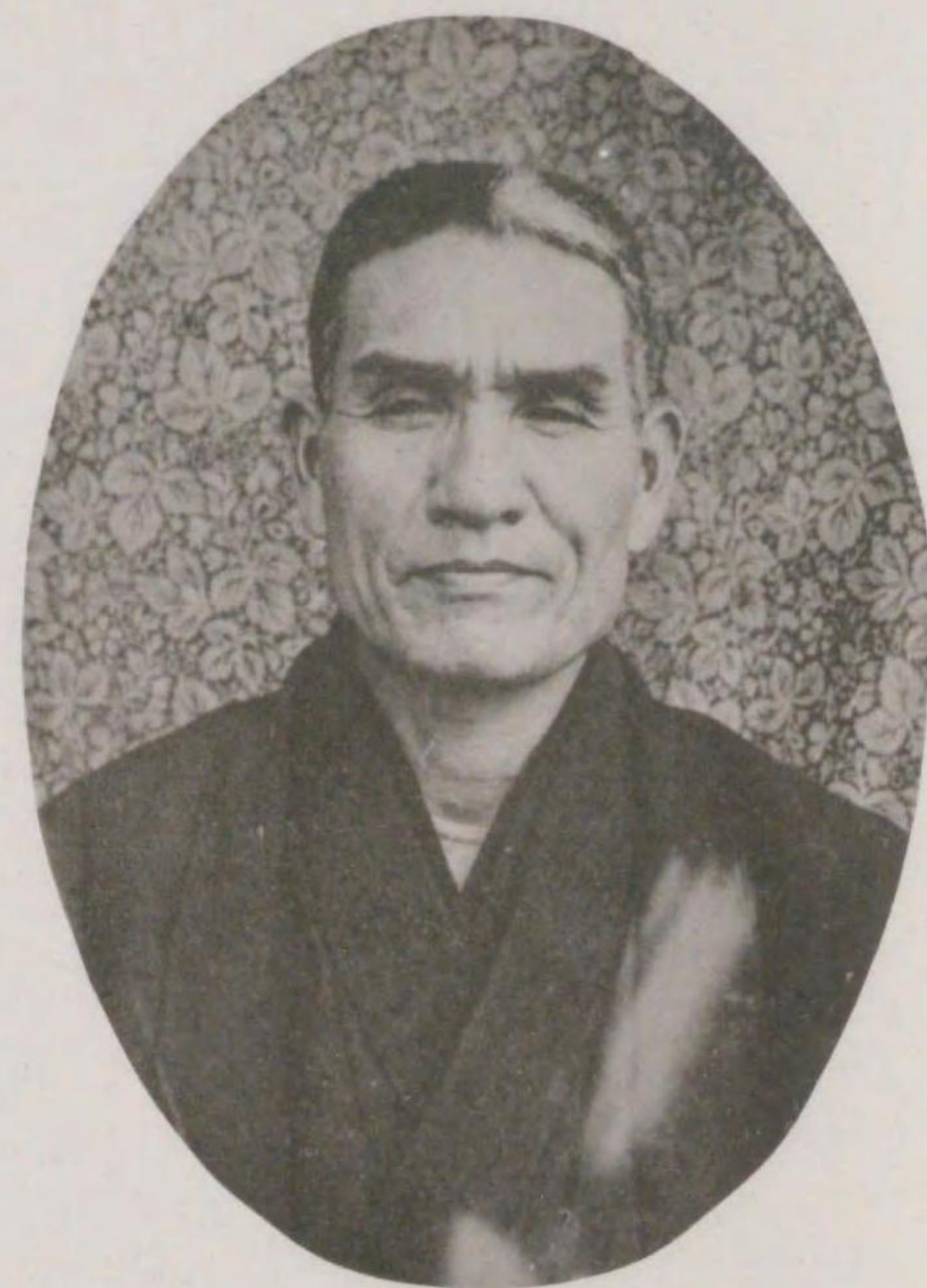
大森吉三郎 四日市市議會員



評 議 員



山本 源助 四日市市議會員



山本 義雄 四日市市議會員



山本 鐵松 四日市市議會員



淺野 太郎 四日市市議會員



古市 政吉 四日市市議會員



評 議 員



三輪藏之助 員議會市市日四



鬼頭彌一 員議會市市日四



水谷安治郎 員議會市市日四



伊濱吉次郎 員議所議會工商市日四



平野七太 員議會市市日四



評 議 員



吉野勇 員議所議會工商市日四



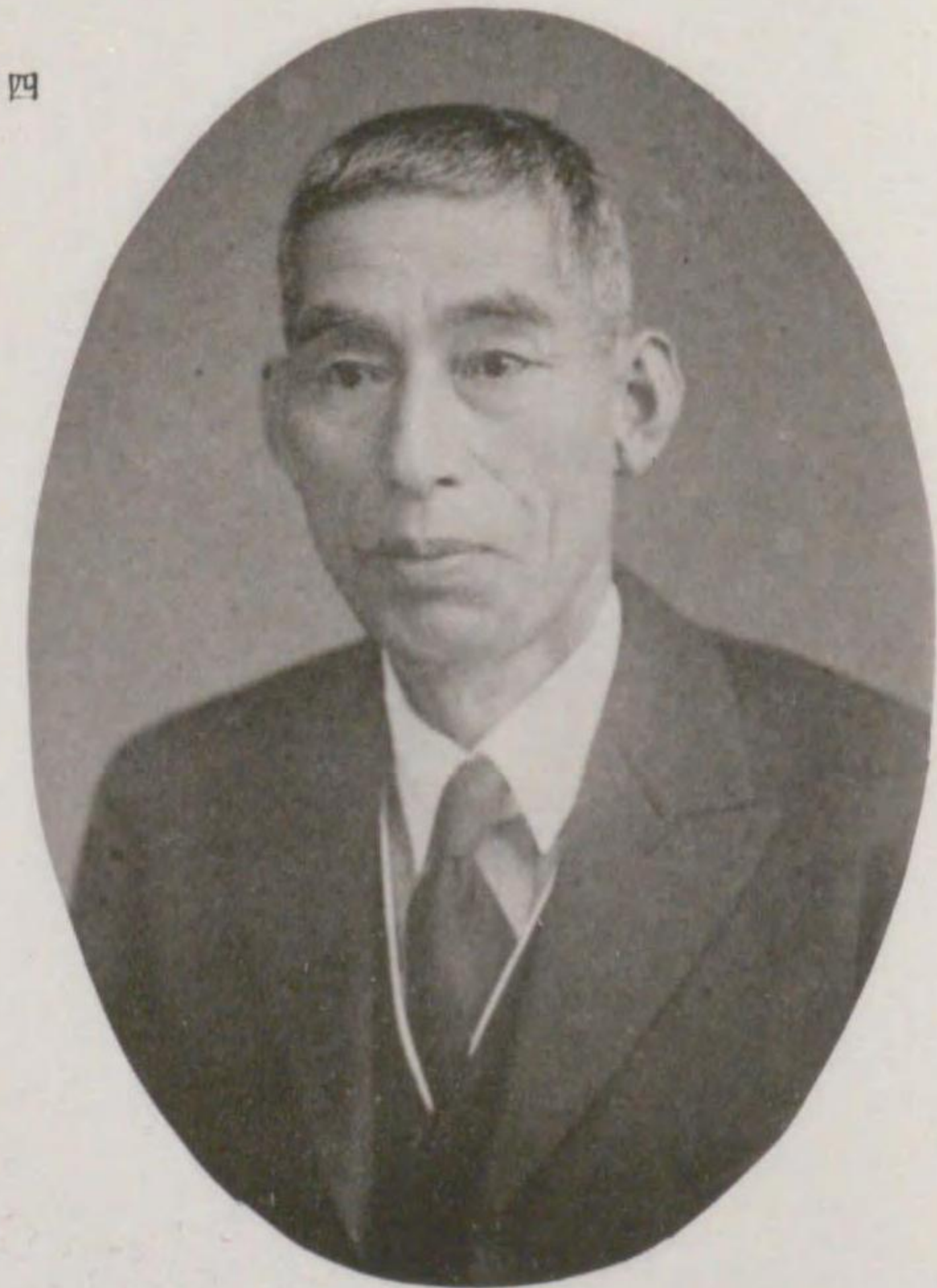
伊藤常吉 員議所議會工商市日四



川村又助 員議所議會工商市日四



加藤辰三郎 員議所議會工商市日四



川村松次郎 員議所議會工商市日四



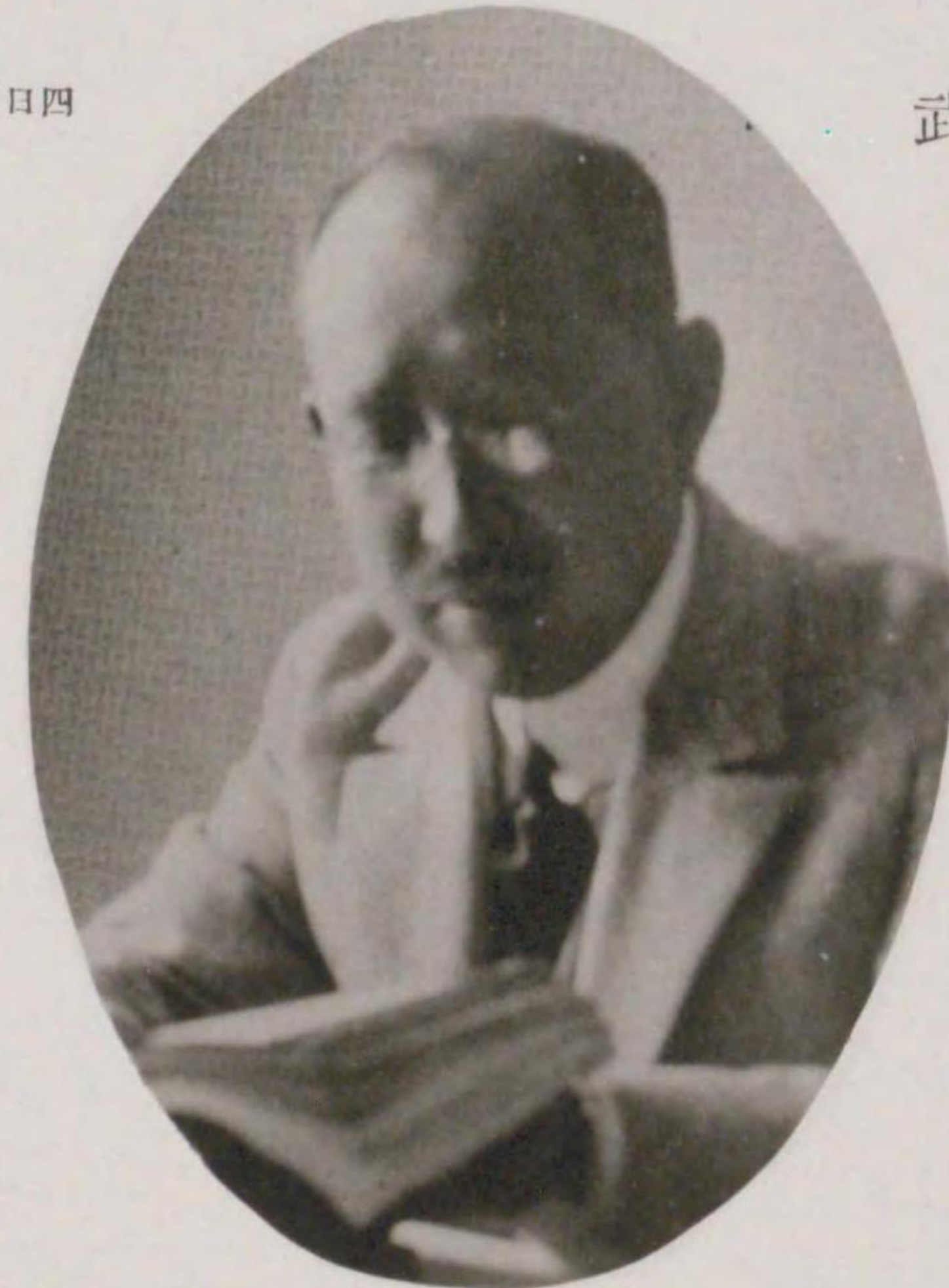
評 議 員



名坂 彌作 四日市市商工會議所議員



中田 武 四日市市商工會議所議員



井雲 二郎 四日市市商工會議所議員



山本 清兵衛 四日市市商工會議所議員



山本 治増 四日市市商工會議所議員

評 議 員



小菅 弘 員議所議會工商市日四



藤澤 常吉 員議所議會工商市日四



榎並 赴夫 員議所議會工商市日四



絹笠 清七 員議所議會工商市日四



鬼頭 新四郎 員議所議會工商市日四



評 議 員



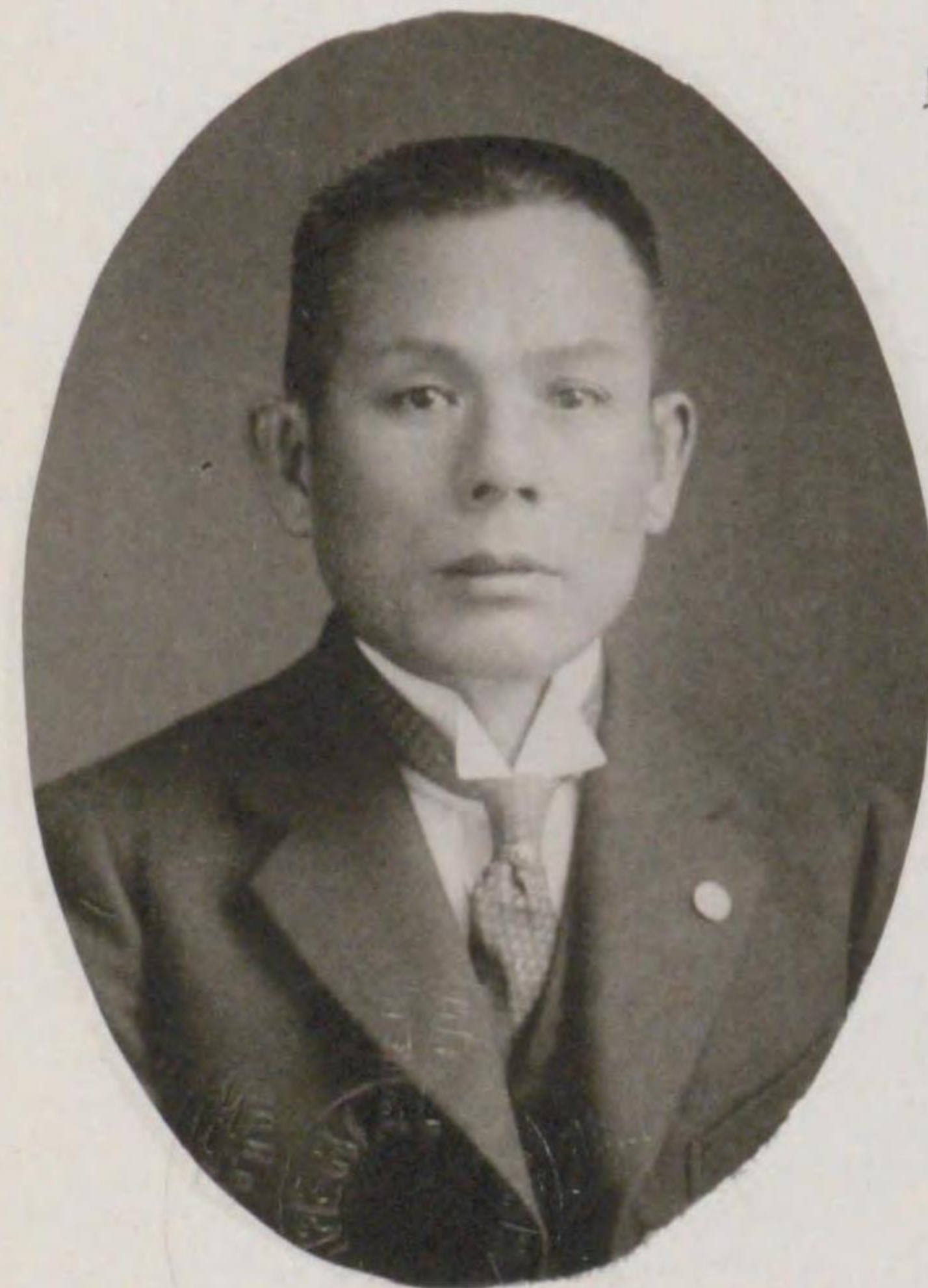
宮本小右門 員議所議會工商市日四



水谷源四郎 員議所議會工商市日四



日比義太郎 員議所議會工商市日四



鈴木庄松 員議所議會工商市日四



森 勇 員議所議會工商市日四

員職局務事



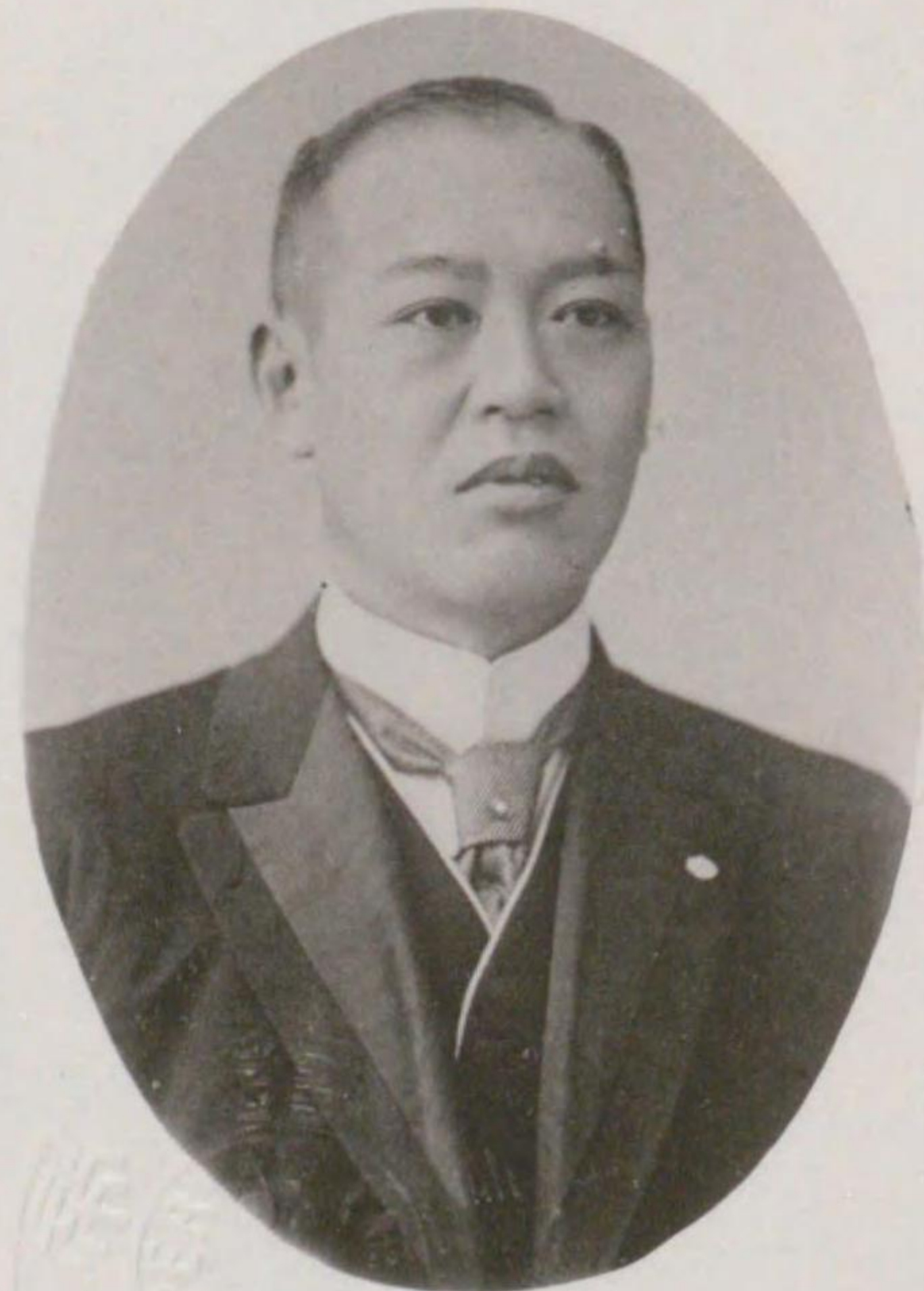
郎二浦義 長總務事



興保井酒 長部品出



介正生藤 長部務庶



郎佳木白 長部理經



郎一正西 長部傳宣



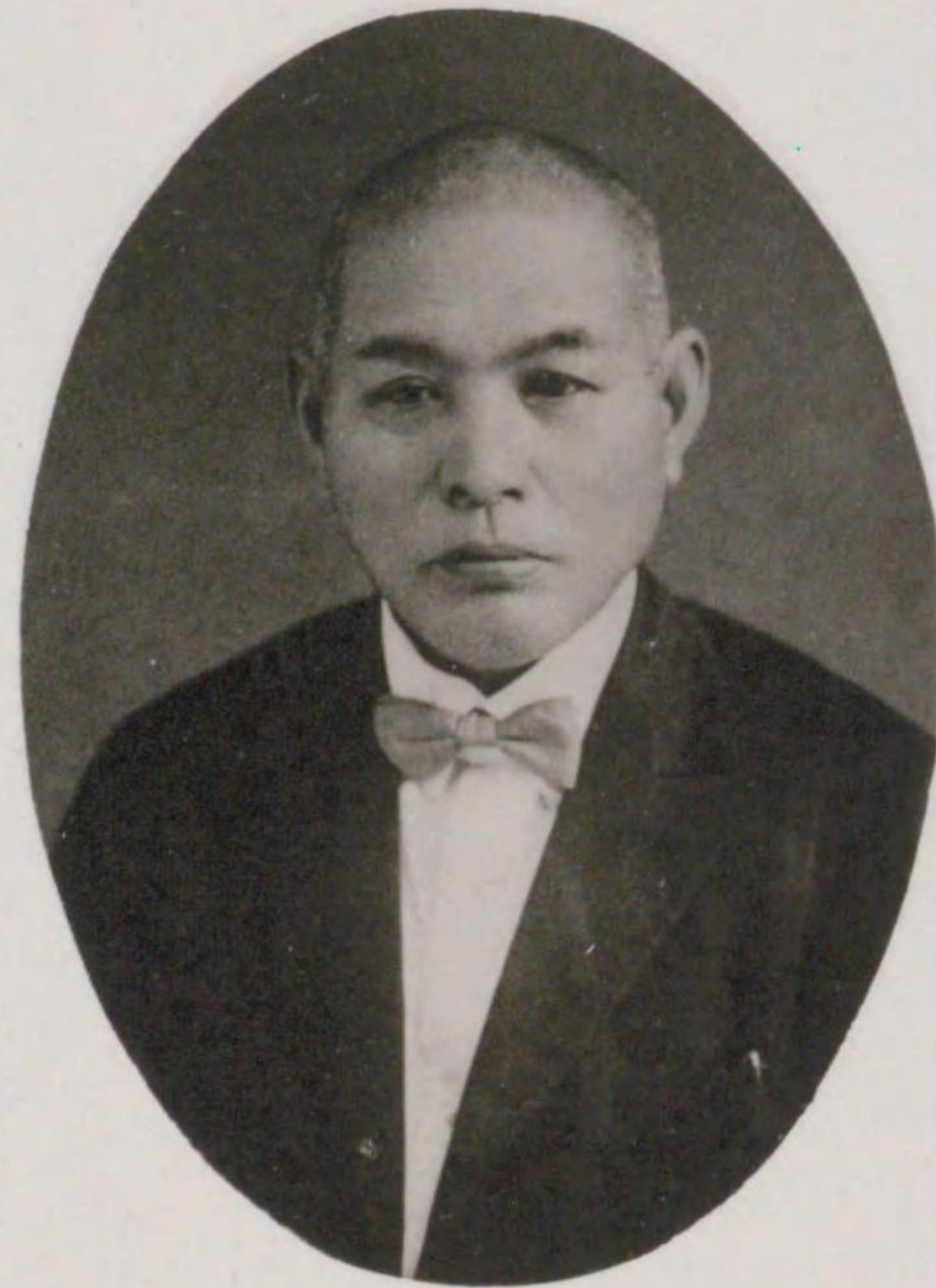
事 務 局 職 員



雄 猛 山 内 長 部 生 衛 備 警



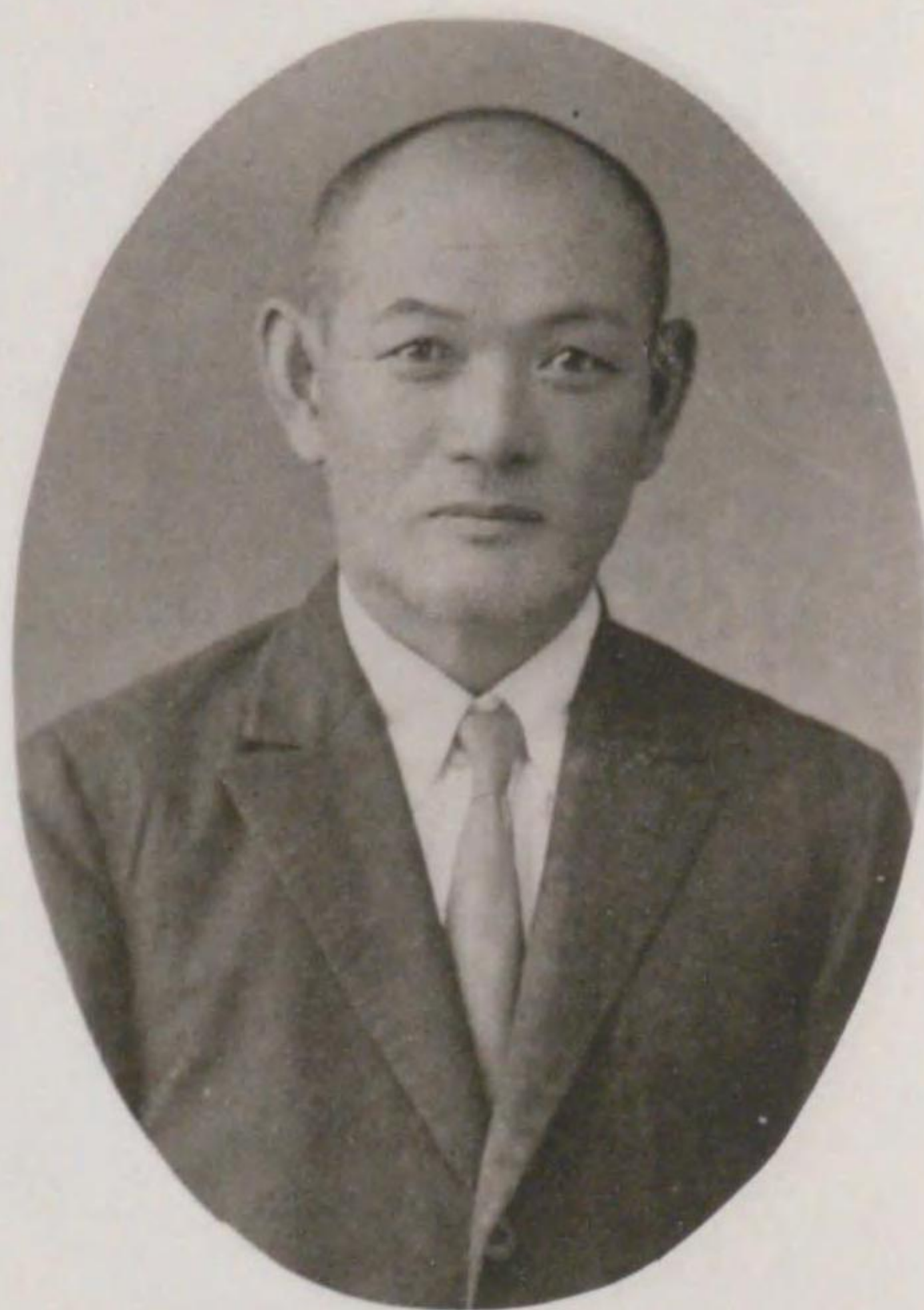
松 利 多 川 田 小 長 部 警 工



吉 兼 口 樋 長 部 待 接 式 儀



次 鐵 本 山 長 部 副 品 出



郎 三 榮 田 藤 長 部 副 務 庶

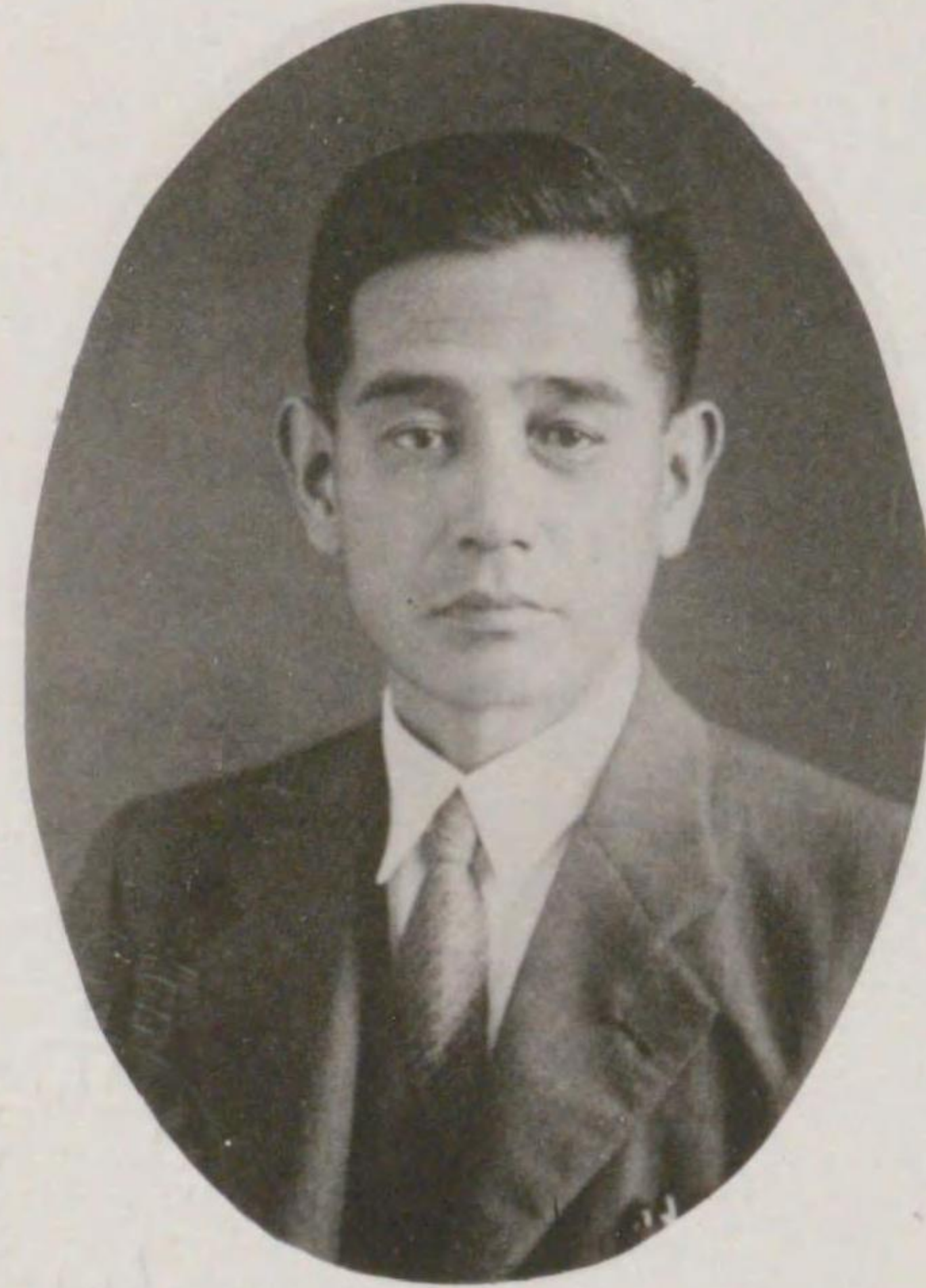
員 職 局 務 事



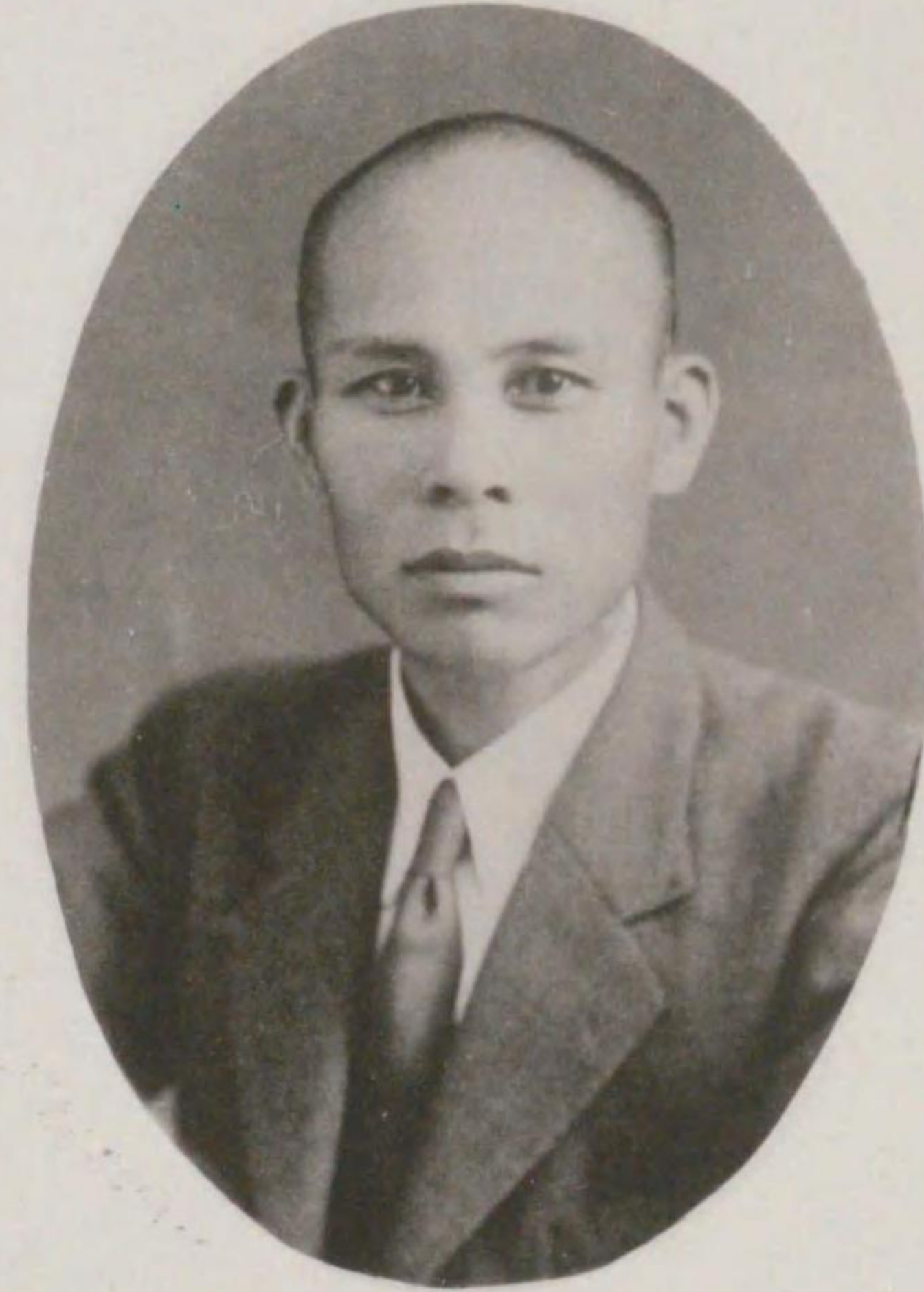
市喜田山 長部副理經



八新 森 長部副傳宣



信美木鈴 長部副生衛備警



吉春池夏 長部副營工



一周湖多 長部副營特



郎治蜜宅三 長部副待接式儀

新興四日市

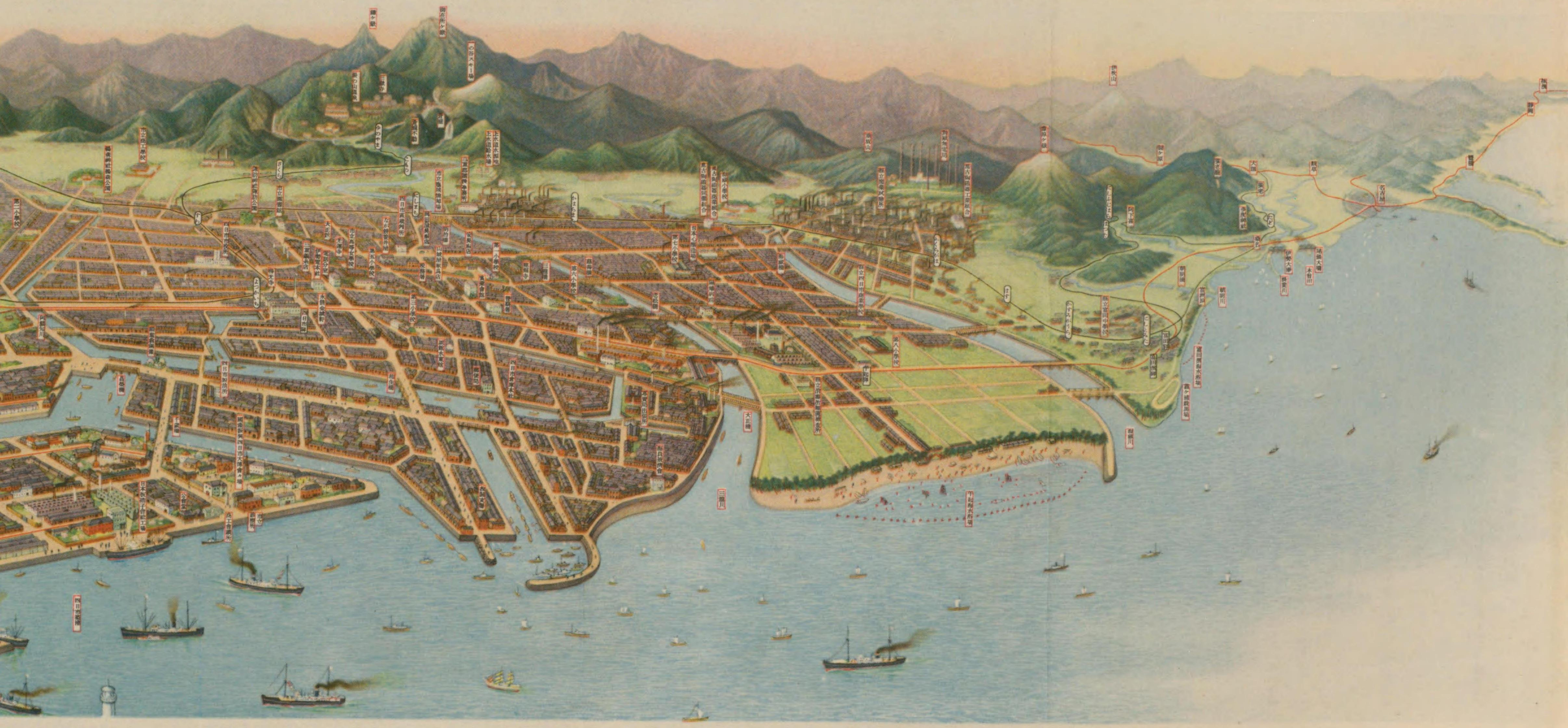


料理店旅館市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、蛭子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し蛭子屋は洋食牛肉商を兼營し何れも大廣間あり其の他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、櫻興旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

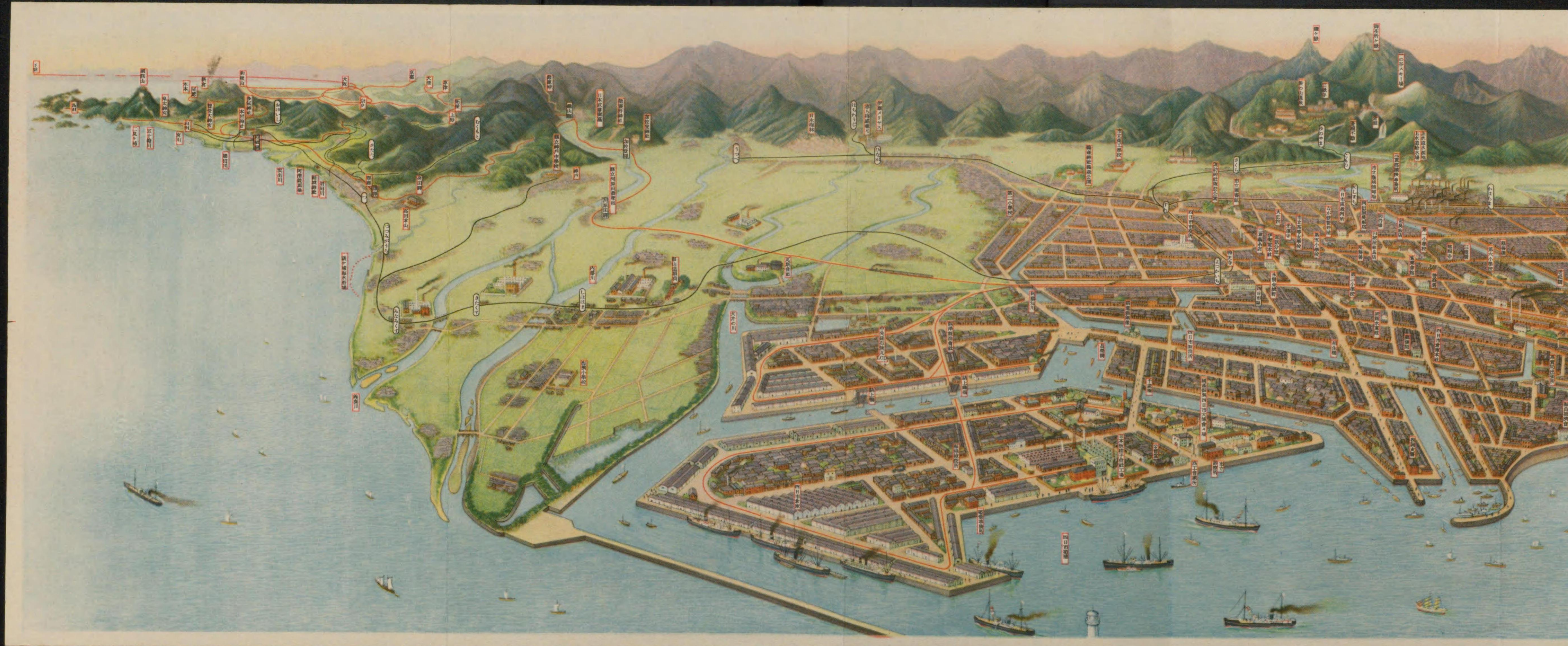


觀光の四日市

△諏訪神社 當市總產神縣社諏訪神社は今を距る七百年の昔建仁年間信濃國諏訪郡官幣大社諏訪神社より勧請せられたる神社にして氏子の崇敬愈々深く市民敬虔の中心なり、尙境内社として菅原神社、金比羅神社、稻荷神社、八幡神社、山津見神社、靖國神社遷拜所等あり。
△四日市祭 俗に四日市祭と稱するは諏訪神社の例祭にして毎年九月二十六、七日の兩日盛大に執行せらる。此兩日は市内二十六ヶ町より各種の練物を出し其の練物の高尙にして豪華なること其名全國に聞え、京都の祇園祭、近江の長濱祭と共に日本三大祭に數へらるゝと云ふ練物中唐子人形踊山車、つり物、大名行列、鯨船等は殊に有名なり兩日は遠近より参拜者群集し市内は雅俗を極む。
△諏訪公園 諏訪神社境内に接續してその西方にあり明治三十七、八年戦役記念として設置せられたるものにして、初めは保光苑と稱したるも大正五年御大典記念事業として千五百餘坪を擴張し諏訪公園と改稱せり、公園内に市立圖書館、誓の御柱、市民壇等あり市民散策の好適地たると共に城内大廣場は市民大衆の會合場所として利用せらるゝこと多し。
△鶴ノ森公園 鶴ノ森公園は濱田城址なる鶴ノ森神社の境内にあり、昭和三年同地方耕地整理に際し、神苑を擴張し造成したるものにして雅客の杖を曳くもの四時絶ゆることなし。
△午起海岸 「那古の渡が霞に消へて夏が来る来る伊勢の海」と四日市小唄にある午起海岸は本市三瀧川以北の海濱で白砂青松水清く波靜に、且遠淺なるがために理想的海水浴場として近年浴客遠近より翹集す、市は昭和初年以來海陸各種の設備を整へて廣く之を宣傳したるに、京都、大阪、岐阜、名古屋等より毎年多數の學生及一般浴客を迎へて非常なる好評を博し普く世上に海水浴場として眞價を認めらるゝに至れり、次で昭和六年省線關西線に午起驛開設せらるゝに及び一段と盛況を呈するに至れり、本市は海水浴期間特に海岸に事務所を置き、一般浴客の斡旋に努むると共に無料休憩所、臨時診療所、海濱圖書館、其の他の海陸施設を爲し海濱一帯に數百の電燈を點じ不夜城を現出す、此の他郊外の海水浴場としては白子濱富田濱等有名なり。
△垂阪山と無電 本市西北方の小丘、垂阪山は伊勢内海の風光を一瞬に集め眺望絶佳にして一日の清遊好適地たり。垂阪山の麓に東洋一を誇る對歐無線電信局四日市受信所あり十數本の鐵塔高く九天に聳え一偉觀を呈す。
△湯の山温泉 全国的に有名なる湯の山温泉は四日市市の西方四里餘鹿山脈の一つなる御在所ヶ嶽の中腹に在り本市よりは三重鐵道に依り湯の山驛に下車、同驛より自動車の便あり温泉場は海拔二千五百尺の高所にして三瀧川の上流にあり山紫水明の地にして清流白玉を噴むあたり自ら深山幽谷の清趣に満ち眞に仙境にある思ひあらしむ然も東方は一瞬千里木曾栞斐の二大川擬々として伊勢灣に走り遠く知多半島を雲煙縹渺の間に望む雄大なる景趣に筆舌の及ぶ所にあらず、春の櫻花、夏の清流、秋の紅葉、冬のスキーと四季を通じて大自然の風光に恵まれたる湯の山は眞に觀光客の樂天地たるを失はず、旅館の主なるものに香雪軒、壽亭、杉屋、湯の山ホテル等あり何れも宏壯にして優雅なる設備を整へ觀光客、浴客の接待に萬全を期しつゝあり此の外三重鐵道株式會社の直營になる大衆浴場も亦一般の好評を博しつゝあり。



會場を中心とする鳥瞰圖





市産物、市産物、市産物、市産物、市産物

△毛糸米織 羊毛を原料とする毛糸紡績及び毛織工業は最近本市を中心として勃興せる工業にして昭和七年本市に敷地五萬坪を以て設立したる東洋毛糸紡績株式會社を嚆矢とし隣村補村に中央毛糸紡績株式會社、東洋毛織工業株式會社、同日永村に東洋モスリン株式會社相前後して設立せられたるに採業を開始し、三重製織所は同常磐村に其の敷地を選定し着々建設工事を進めつつあり、何れも本市接續地帯にして四日市港の利用を旨とするものなり、其他此の種系統の大工場は敷地二萬餘坪最新化學の尖端を行く東洋一を誇る大工場にして港頭を飾る一大偉觀なり。

△電線 東海電線株式會社に依り生産せられた近時電氣工業時代を迎へて益益業務を擴張し本邦電線工業界に重きをなす年産額百萬圓を算す。

△板硝子 築港第二號地埋立地に建設せられたる日本板硝子工業株式會社四日市工場は敷地二萬餘坪最新化學の尖端を行く東洋一を誇る大工場にして港頭を飾る一大偉觀なり。

△其他の大工業 前記の外大工場に三菱飼料工場を始めとして護製製品を生産する蒲田調製株式會社豆粕製造と大豆油製造と一石二鳥の業務を営む四日市豆粕製造株式會社は滿洲國と本市とを結びつける重要工業として本市製肥工業界に重きをなす。此の外製材會社、製糖會社、肥料製造會社等枚舉に遑なく前途洋々たる本市産業界は全國企業家の頻りに注目するところなり。

△會社の狀況

株式會社	五〇	二八、二二四、九八二圓
合資會社	七九	二、一〇九、八三〇圓
合名會社	一九	五二一、〇〇〇圓
計	一四八	三〇、八五五、八一二圓

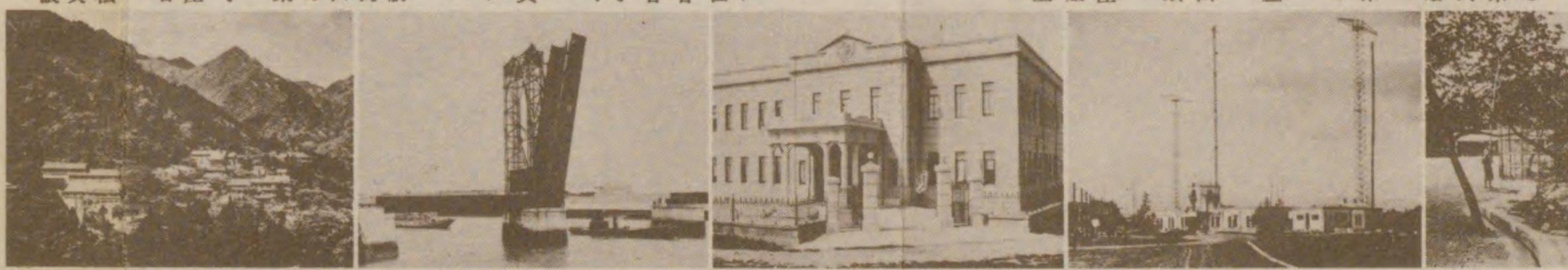
△四日市商工會議所 明治二十六年五月四日市商工會議所として市内濱町に創設し昭和二年商工會議所法の公布に依り四日市商工會議所と改稱せらるる現在屋舎を昭和五年四月御大典記念事業として築港第二號埋立地に新築、市の公會堂と共に本市小菅劍之助氏の寄附に係る、議員定數三十五名、會頭一名、副會頭二名、常議員六名の外顧問七名を置く理事一名書記數名にて一切の事務を處理し事業の向上進歩を期するため庶務、會計、商業、工業、理財、交通、港灣の七部に別ち各關係事項の調査審議に任ず。

△四日市商工會 四日市商工會は市内商業者及び之に關係ある有志者を會員とし事務所は四日市商工會議所内に置かれ商業工業調査の三部を置き毎年末には「歳の市」を催し六月十日には盛大なる商品祭を執行し新築の發展に資するところ大なり。

△同業組合 本市市内多數の商工業者は何れも同業組合を組織し各業者の統制ある繁榮を期し就中本市商取引中最も盛なる肥料商組合、米穀商組合、萬古同業組合等は夫々々々たる事務所を置き相互の繁榮を圖りつつあり米穀商組合は最近同業組合法に基き四日市米穀商組合を設立し着々其の成績を挙げつつあり、此の外牛乳商組合、墨商組合等何れも合理的經營方法により新築の改良發達に努力しつつあり。

△金融 金融機關として四日市銀行は本市に本店を有し第一銀行、愛知銀行、百五銀行、三重銀行、不動銀行、日本貯蓄銀行等各其の支店を置く殊に産業組合法に依り創立せられたる四日市金庫は創立以來日尙淺きも中小商工業者の金融機關として前途を闊達せらる。

△料理店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、蛭子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し蛭子屋は洋食牛肉南を兼營し何れも大廣間あり其の他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。



市産物、市産物、市産物、市産物、市産物

觀光の四日市市

△諏訪神社 當市總產縣神社諏訪神社は今を距る七百年の昔建仁年間信濃國諏訪郡官幣大社諏訪神社より勸請せられたる神社にして氏子の尊敬愈々深く市民敬虔の中心なり、尙境内社として菅原神社、金比羅神社、稻荷神社、八幡神社、山津見神社、靖國神社遙拜所等あり。

△四日市祭 俗に四日市祭と稱するは諏訪神社の例祭にして毎年九月二十六、七日の兩日盛大に執行せらる。此兩日は市内二十六ヶ町より各種の練物を出し其の練物の高尙にして豪華なること其名全國に聞え、京都の祇園祭、近江の長濱祭と共に日本三大祭に數へらるると云ふ練物中唐人形踊山車、つり物、大名行列、鯨船等は殊に有名なり兩日は遠近より参拜者群集し市内は難香を極む。

△諏訪公園 諏訪神社境内に接続してその西方にあり明治三十七、八年戦役記念として設置せられたるものにして、初めは保光苑と稱したるも大正五年御大典記念事業として千五百餘坪を擴張し諏訪公園と改稱せらる。公園内に市立圖書館、誓の御柱、市民壇等あり市民散策の好適地たると共に城内大廣場は市民大衆の會合場所として利用せらるること多し。

△鶴ノ森公園 鶴ノ森公園は濱田城址なる鶴ノ森神社の境内にあり、昭和三年同地方耕地整理に際し、神苑を擴張し造成したるものにして森の杖を曳くもの四時絶ゆることなし。

△午起海岸 「那古の波が霞に消へて夏が来る来る伊勢の海」と四日市小唄にある午起海岸は本市三瀧川以北の海濱で白砂青松水清く波靜に、且遠淺なるがために理想的海水浴場として近年浴客遠近より群集す、市は昭和初年以來海濱各種の設備を整へて廣く之を宣傳したるに、京都、大阪、岐阜、名古屋等より毎年多數の學生及一般浴客を迎へて非常なる好評を博し普く世に海水浴場として眞價を認めらるゝに至り、次で昭和六年省線開通に午起開通せらるるに及一段と盛況を呈するに至り、本市は海水浴期間特に海岸に事務所を置き、一般浴客の幹旋に努むと共に無料休憩所、臨時診療所、海濱圖書館、其の他の海濱施設を爲し海濱一帯に數百の電燈を點じ不夜城を現出す、此の他郊外の海水浴場としては白子濱富田濱等有名なり。

△垂阪山と無電 本市西北方の小丘、垂阪山は伊勢内海の風光を一瞥に集め眺望絶佳にして一日の清遊好適地たり。垂阪山の麓に東洋一を誇る對歐無線電信局四日市受信所あり十數本の鐵塔高く九天に聳え一偉觀を呈す。

△湯の山温泉 全國的に有名な湯の山温泉は四日市市の西方四里餘鹿山脈の一つなる御在所ヶ嶽の中腹に在り本市より三重鐵道に依り湯の山驛に下車、同様より自動車あり温泉場は海拔二千五百尺の高所に三瀧川の上流にあり山紫水明の地にして清流白玉を噴むあり自ら深山幽谷の清趣に満ち眞に仙境にある思ひあらしむれども東方は一陣千里木曾掛妻の二大川懸々として伊勢灣に走り遠く知多半島を雲煙縹渺の間に望む雄大な景趣は筆舌の及ぶ所にあらず、春の櫻花、夏の清流、秋の紅葉、冬のスキーと四季を通じて大自然の風光に恵まれたる湯の山は眞に觀光客の樂天地たるを失はず、旅館の主なるものに香雪軒、壽亭、杉屋、湯の山ホテル等あり何れも宏壯にして優雅なる設備を整へ觀光客、浴客の接待に萬全を期しつつあり此の外三重鐵道株式會社の直營になる大衆浴場も亦一般の好評を博しつつあり。

四日市大博覽會

三月二十五日より五月十三日迄當市空前の大事業たる海港完成記念國產振興四日市大博覽會を開催す其要領を摘記すれば
豫算總額七拾萬圓 縣市空前の大計畫

大博覽會の内容

從來の此種計畫に比し極めて斬新効果的!! 各地優良物産と世界的最新學術の應用展覽

- △産業本館、三重縣館、海港館、萬古陶磁器館、農林機械館、近代科學館、肥料館、蠶絲館、羊毛工業館、
- △國防館、三重縣歴史館、佛教館、觀光館、ラヂオ館、
- △朝鮮館、臺灣館、滿洲館、南洋館等の特設館
- △餘興、其他最新奇なる外國諸演技、生きた大鯨魚、等絶贊を博すべき諸施設

附帶事業

三重縣教育四日市市教育會共催 縣下各中小學校學生教職員及青年
 △三重縣教育作品大展覽會 三月三十日より
 △三重四日市大講主催 四月二十三日まで 學生、教育者、一般人士の見通す事の出来ない教育豪華版
 △一光三尊佛御開扉 四月十四日より
 △其他史蹟、名勝、學術、秘物、等に關する諸種の展覽會開催 十八日まで 是非御參詣を! 此機を逸すると十七年拜めません

市内の協賛

△市民舉つて熱意の表現!! 各種の作り物 其他各町考案の餘興・煙火・氣球等の
 △神社の臨時大祭 遺物行列等の行事 以上の如く 厭倒的大景氣計畫
 △全市街の裝飾 各商店の大賣出し

新興四日市

四日市は三重縣の北部に位置し、東は伊勢灣に面して知多半島と相對し、西は鈴鹿山脈の翠峰を負ふ市の四周は北勢の平野を繞らし、南は沃野遠く濃尾平野に連り、港灣都市として天恵の後方地域を擁する市街は平坦にして三浦、海蔵、大井の諸川市中を貫流し、海に良港あり、陸には鐵路四通八達し、名古屋、大阪、京都の大都市と相呼應して東海に於ける海陸の要衝を占む。

四日市港

東しや横濱西行きや神戸、海の關所の四日市と唄はる。我が四日市港は天恵の良港にして遠く徳川時代より伊勢灣沿岸に於ける海陸交通の要津として知られ、既に明治三年四日市東京間に汽船航路の開通を見、爾來神戸横濱の中間に位置する東海唯一の物資集散港として異常の發展を遂げ、明治三十二年には開港場に指定せられて本邦重要貿易港となり、明治四十一年來國航路開始せられたる歐洲航路も亦港灣に活況を呈し、貿易額も年々著しく増加して、現今に於ては全國第六位を占むるに至る。...

交通運輸

海上に對外的極要なる地位を占むる四日市は陸に於ても鐵路四通八達し、海陸連絡の焦點として物資の集散は逐年激増する情勢に在り、鐵道は省線關西線に依り名古屋大浜磯町を連絡し、本市に本社を有する伊勢電氣鐵道は桑名、宇治山田市間を本線とし、更に養老線に連絡せり、本鐵道は參宮急行電鐵株式會社との共同經營に成る桑名、名古屋間の延長線實施の曉は本市の産業開發に寄與すること尠なからざるべく、更に本市を起點とし、關ヶ原を経て江洲木ノ本に達する三岐鐵道は既に一部開通して、員辨郡西濃原に達し、近く全線開通の曉は中部日本に於ける太平洋と日本海を結び付く最短距離の鐵道線となり、造詣の産業を助長するのみならず、延ては敦賀清津間の航路を経て新與滿洲國との交通を促進すると共に、本市は益々國際的重要性を加ふるに至らん。

産業

△綿糸紡績 東洋紡績株式會社の前身三重紡績株式會社の本社所在地たりし關係上本市を中心として伊勢灣の沿岸各地には綿糸紡績の大工場多數に設置せられ、現在本市には同社の新舊二大工場あり、之が爲に綿糸紡績の産額は本市産業の首位を占め、年産額約壹千萬圓を突破するに至る。

△製油業 古來「伊勢の水」と呼ばれて稱讃を博せる本市の菜種油は其の製油家の集團する點に於て本邦新界に冠絶し、古くより東京を中心として主に東北地方に販賣せられ、引き續き現在に至りたるものにして、純潔新鮮なる水壓式搾油機を設備し、多量に生産するに及び、販路は内地のみに止まらず、北米合衆國其の他の海外諸國に輸出せらるるもの逐年増加の趨勢にあり、且又製油は單に菜種油のみならず、麻實、胡麻、棉實等の各種原料を使用し、業績大に上り、其の生産額は副産物たる肥料用油粕と合して年額四百萬圓を超過する盛況にあり。

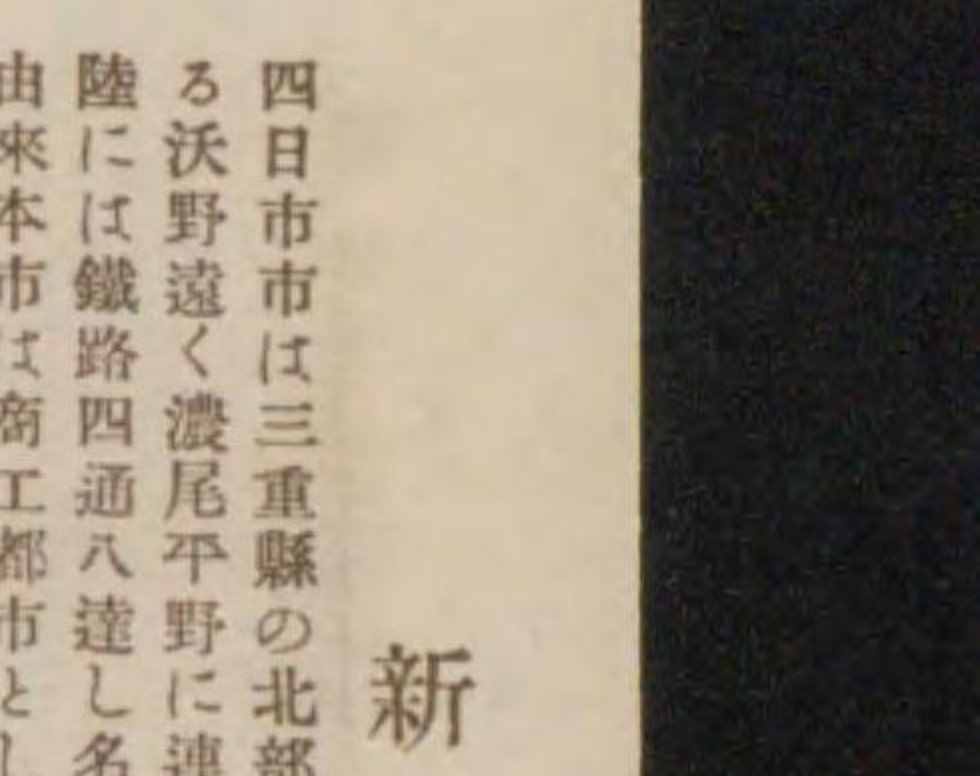
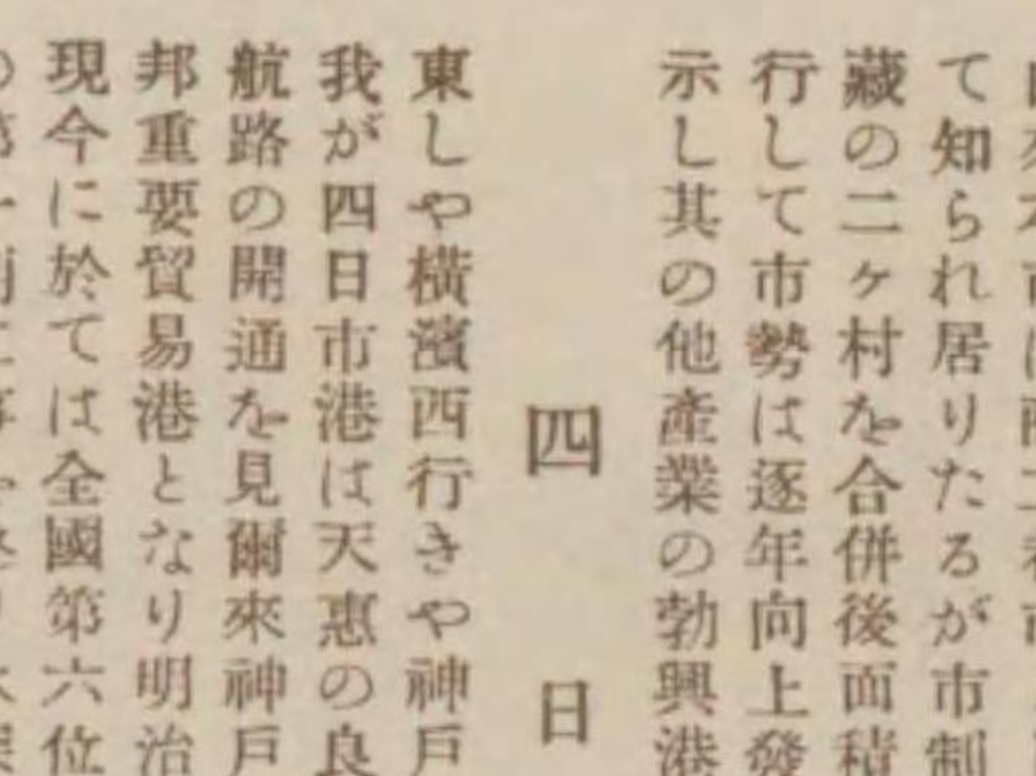
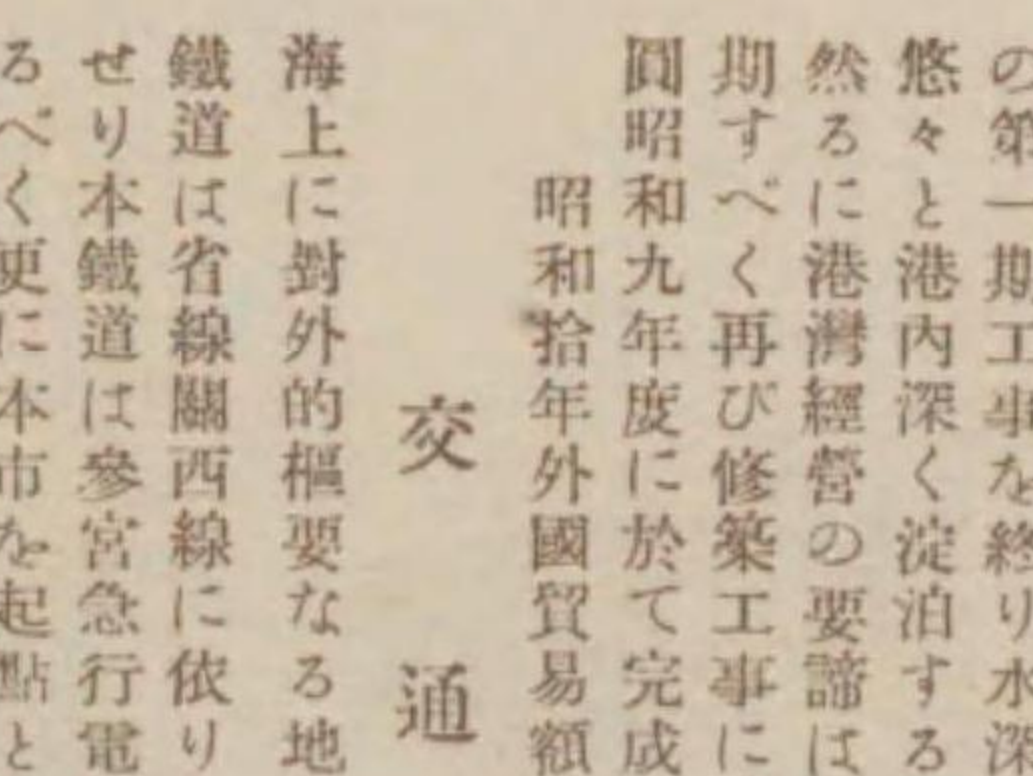
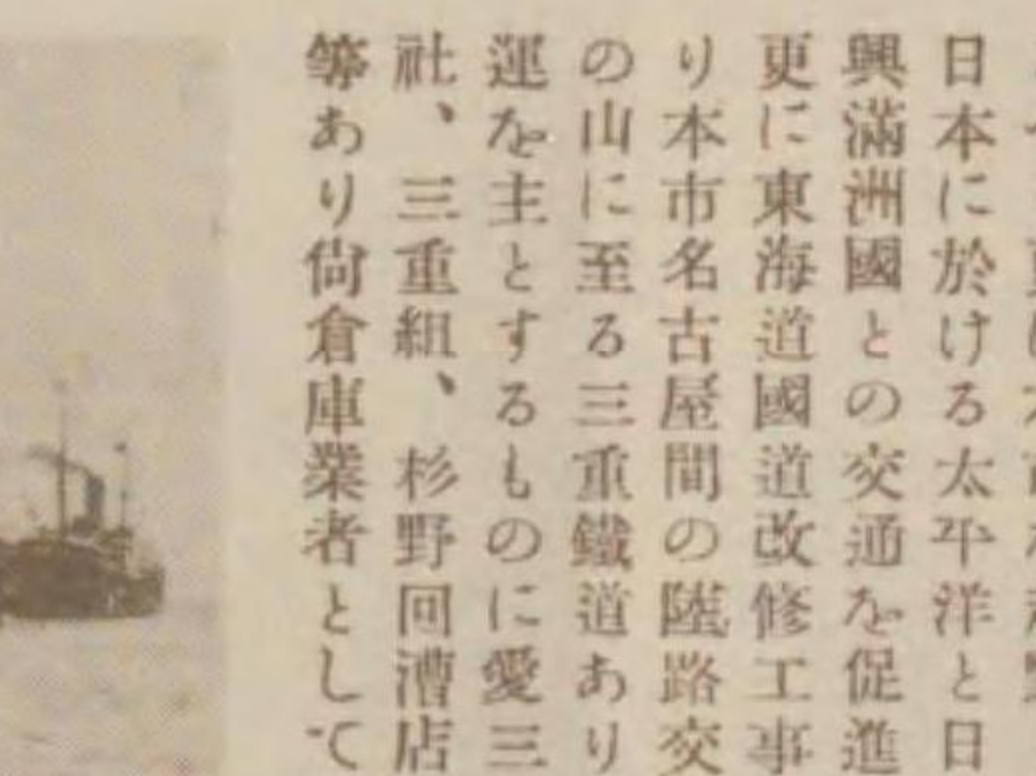
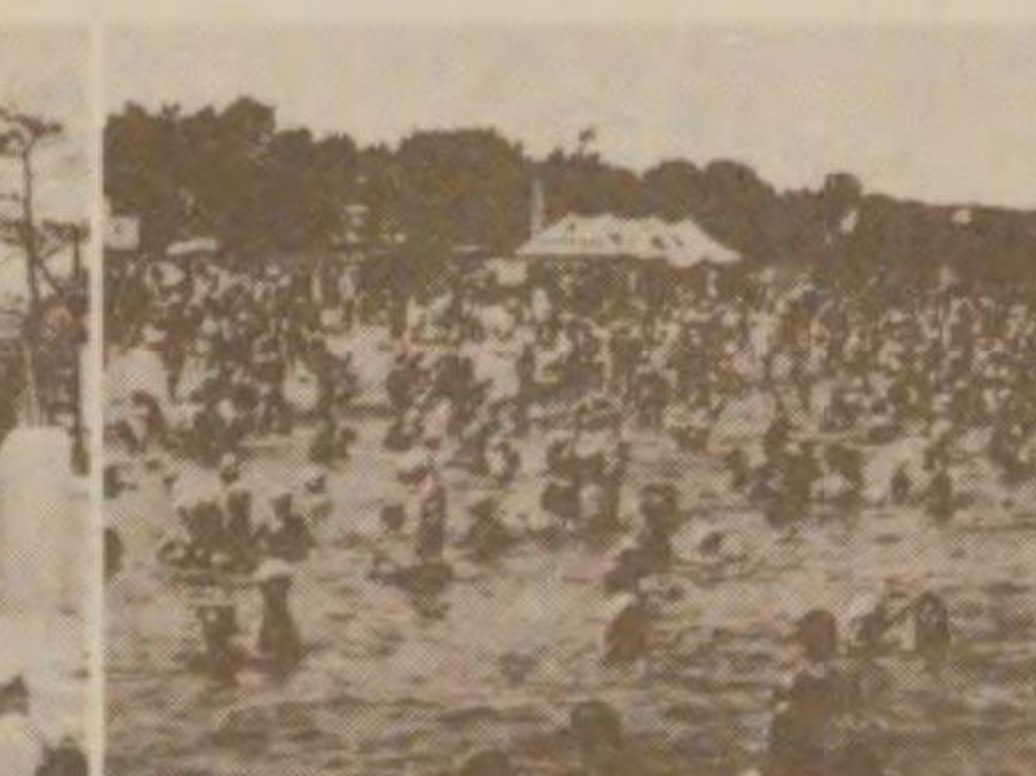
△漁網 漁網も亦本市重要産物にして、三重製網合資會社は元同社故西口利平氏の努力研鑽に依り優秀なる編網機を發明完成して、明治三十七年頃より急激なる發展を致し、遠く海外に進出して販路を求め、漁網界にも貢獻する所尠なからず、年産額百萬圓を突破し、世界的好評を博しつゝあり。

△毛糸紡績 羊毛を原料とする毛糸紡績及び毛織工業は最近本市を中心として勃興せる工業にして、昭和七年本市に敷地五萬坪を以て設立したる東洋毛糸紡績株式會社を嚆矢とし、隣村桶村に中央毛糸紡績株式會社、東洋毛織工業株式會社、同日水村に東洋モリヤ株式會社相前後して設立せられ、既に採業を開始し、三重製網村に同常務村に其の敷地を選定し、着々建設事を進めつつあり、何れも本市接續地帯にして、四日市港の利用を旨とするものなり、其他此の種系統の大工場は本市を繞り、今後陸續設置せらるる情勢にあり、本市羊毛工業の將來は實に刮目して見るべきものあることを疑はず。

△板硝子 築港第二號地理立地に建設せられたる日本板硝子工業株式會社四日市工場は敷地二萬餘坪最新化學の尖端を行く東洋一を誇る大工場にして、港頭を飾る一大偉觀たり。

△其他の大工業 前記の外大工場に三菱飼料工場を始めとして、護謄製品を生産する蒲田調帯株式會社大豆製造と大豆油製造と一石二鳥の業務を営む四日市豆粕製造會社は滿洲國と本市とを結びつける重要工業として本市製肥工業界に重きをなす。此の外製材會社、製給會社、肥料製造會社等枚舉に遑なく前途洋々たる本市産業界は全國企業家の傾りに注目するところたり。

△同業組合 本市市内多數の商工業者は何れも同業組合を組織し、各業者の統制ある繁榮を期し、就中本市商取引中最も盛なる肥料商組合、米穀商組合、萬古同業組合等は夫々堂々たる事務所を置き、相互の繁榮を圖りつつあり、米穀商組合は最近商業組合法に基き、四日市米穀商業組合を設立し、其の成績を擧げつつあり、此の外牛乳商業組合、墨商業組合等あり、何れも合理的經營方法により、斯業の改良發達に努力しつゝあり。



社神森ノ島

場浴水海通ケ設

地園水直水上

場浴水海紀午

堂會公

社神訪諏

場埠海市日四

△綿糸紡績

△製油業

△漁網

△毛糸紡績

△四日市商工會議所 明治二十六年五月四日市商業會議所として市内濱町に創設し、昭和二年商工會議所法公布に依り四日市商工會議所と改稱せらるる現在、屋舎を昭和五年四月御大典記念事業として築港第二號地理立地に新築、市の公會堂と共に本市小菅劍之助氏の寄附に係る、議員定数三十五名、會頭一名、副會頭二名、常議員六名の外顧問七名を置く職員は理事一名、書記數名にて一切の事務を處理し、事業の向上進展を期するため庶務、會計、商業、工業、理財、交通、港灣の七部に別ち各關係事項の調査審議に任ず。

△四日市商工會 四日市商工會は市内商業者及び之に關係ある有志者を會員とし、事務所は四日市商工會議所内に置かれ、商業工業調査の三部を置き、毎年末には「歳の市」を催し、六月十日には盛大なる商品祭を執行し、斯業の發展に資するところ大なり。

△同業組合 本市市内多數の商工業者は何れも同業組合を組織し、各業者の統制ある繁榮を期し、就中本市商取引中最も盛なる肥料商組合、米穀商組合、萬古同業組合等は夫々堂々たる事務所を置き、相互の繁榮を圖りつつあり、米穀商組合は最近商業組合法に基き、四日市米穀商業組合を設立し、其の成績を擧げつつあり、此の外牛乳商業組合、墨商業組合等あり、何れも合理的經營方法により、斯業の改良發達に努力しつゝあり。

△金融 金融機關として、四日市銀行は本市に本店を有し、第一銀行、愛知銀行、百五銀行、三重農工銀行、不動銀行、日本貯蓄銀行等各其の支店を置く、殊に産業組合法に依り創立せられたる四日市金庫は創立以來日尙淺きも中小商工業者の金融機關として前途を闊大せらる。

△料理店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

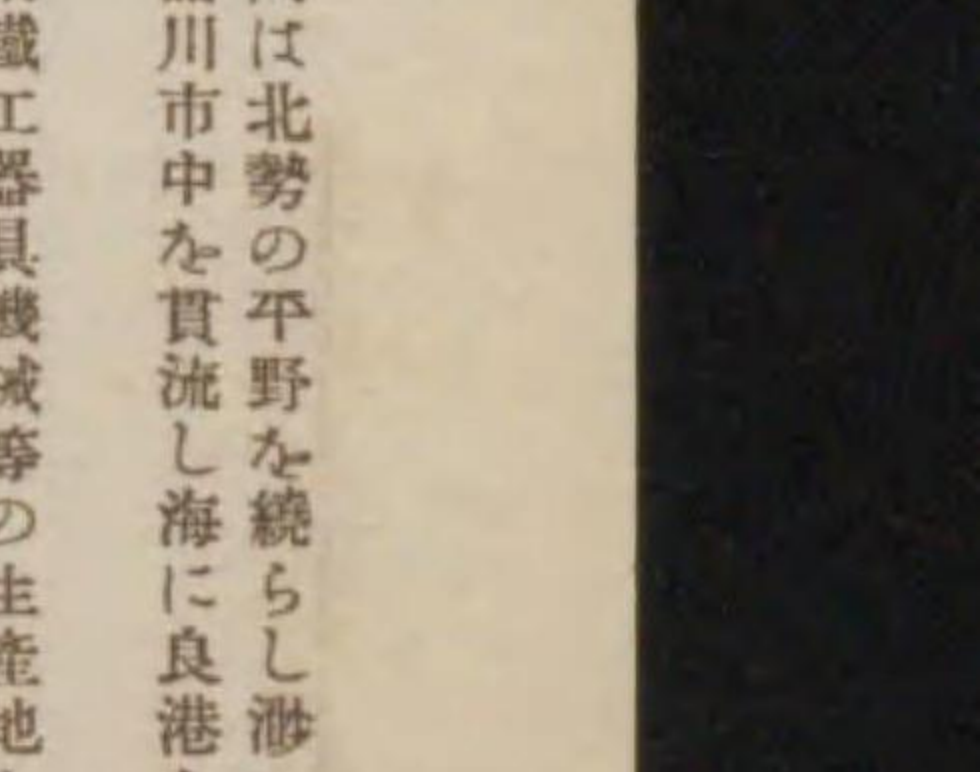
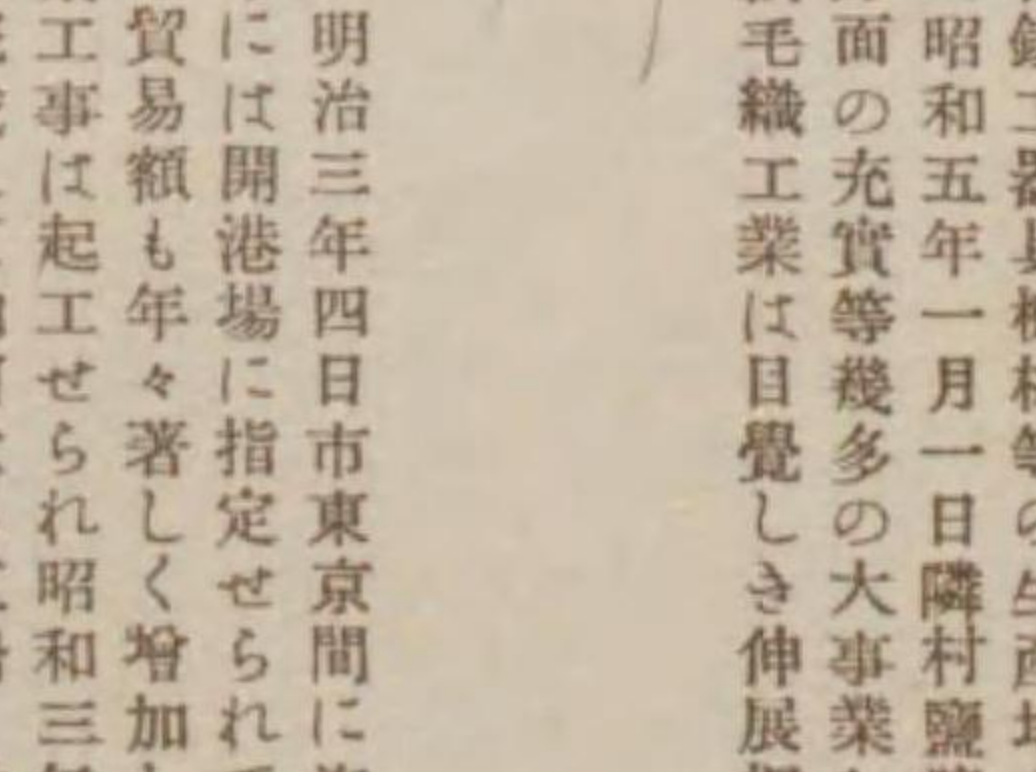
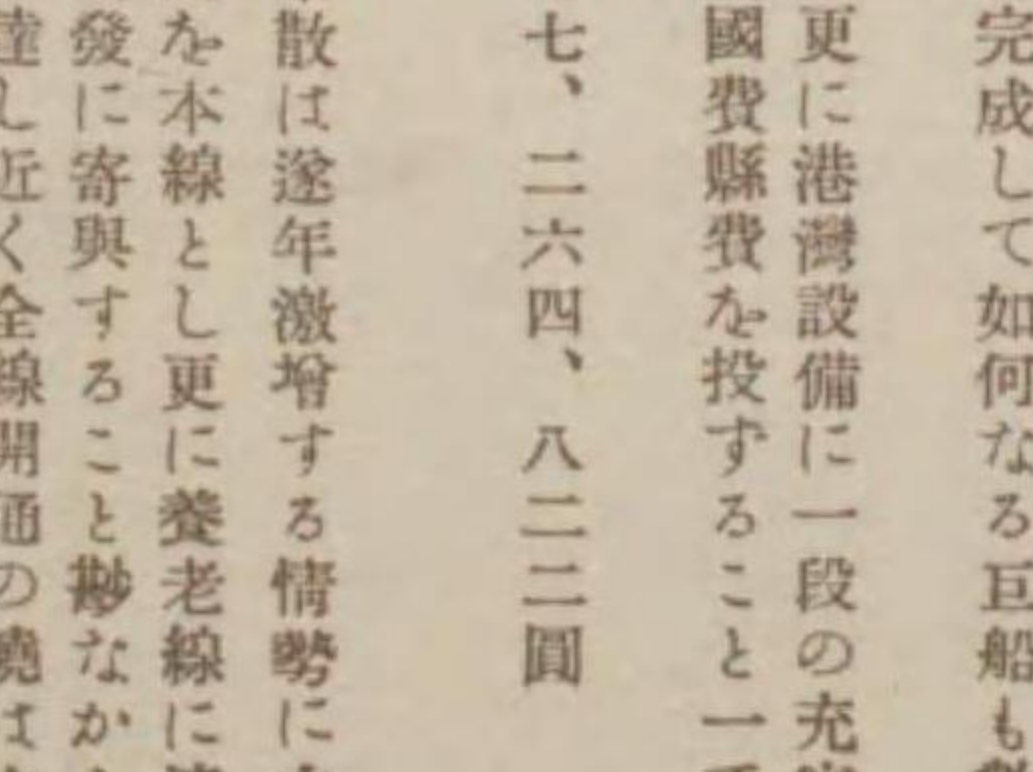
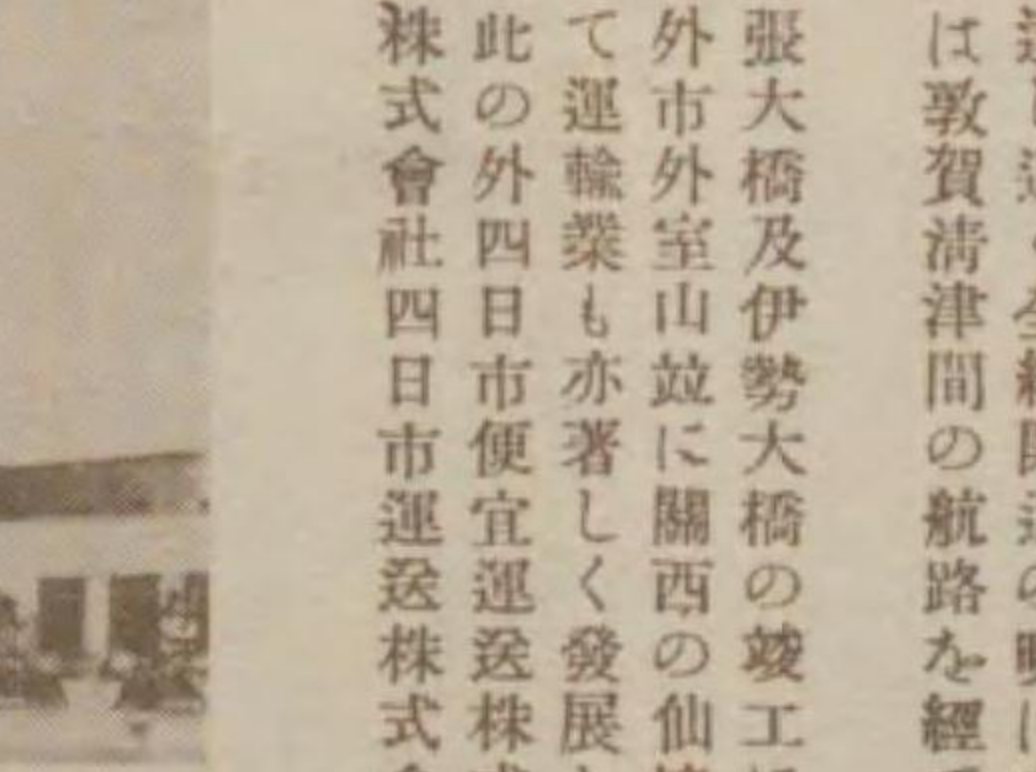
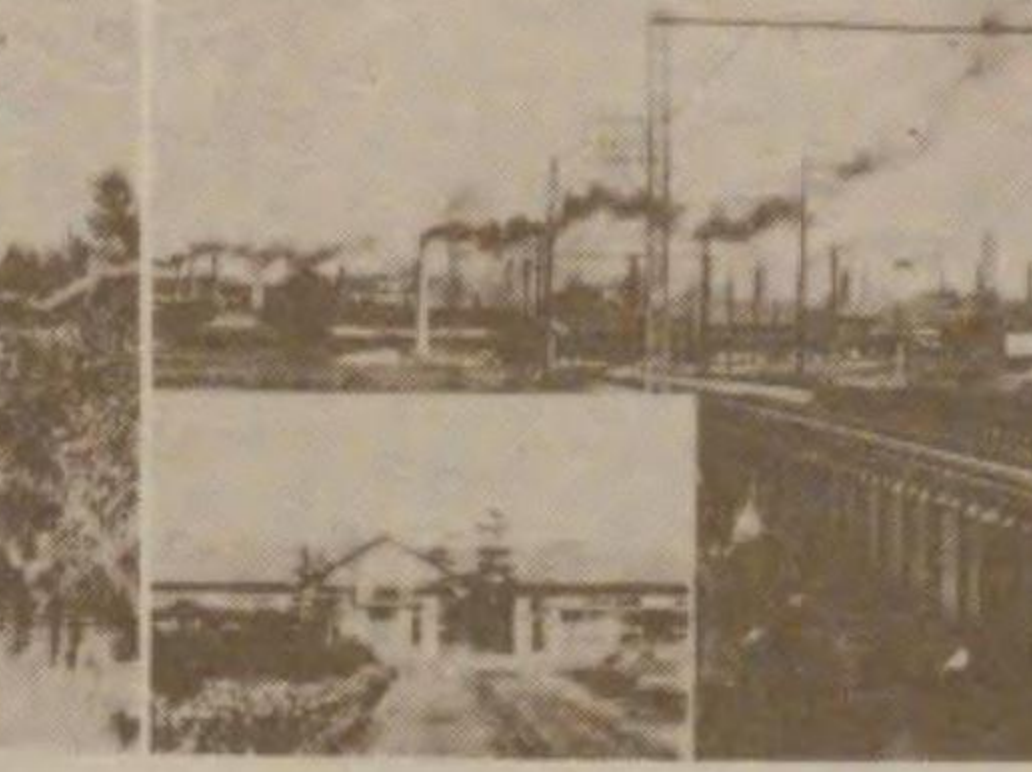
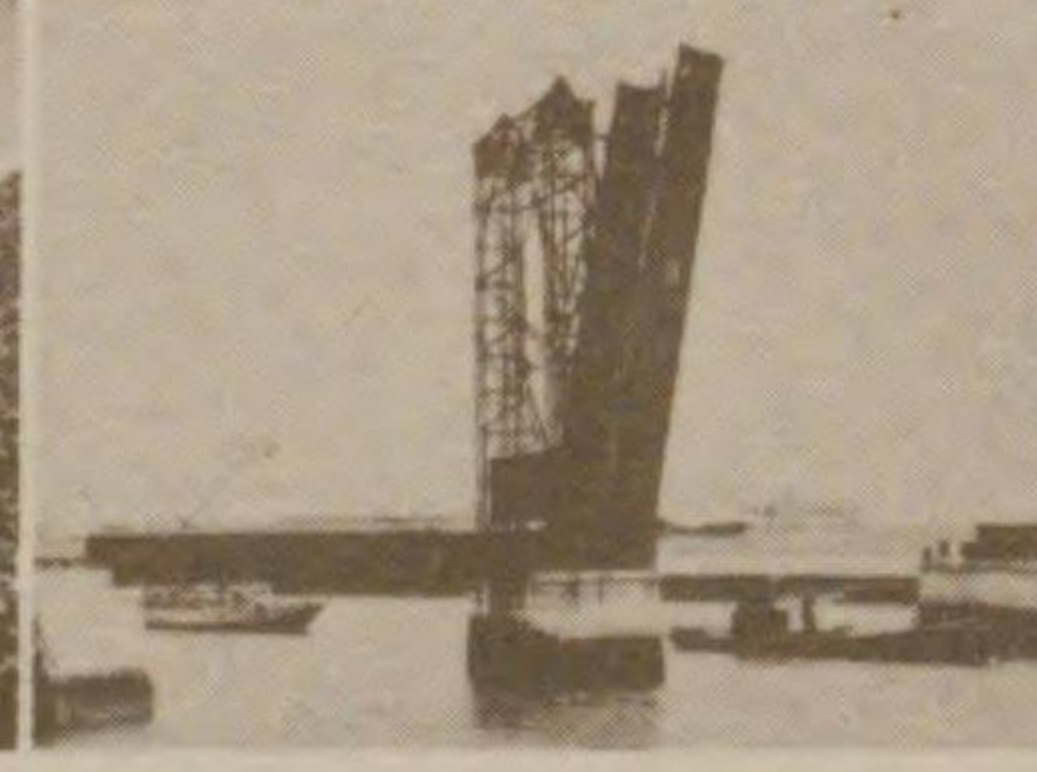
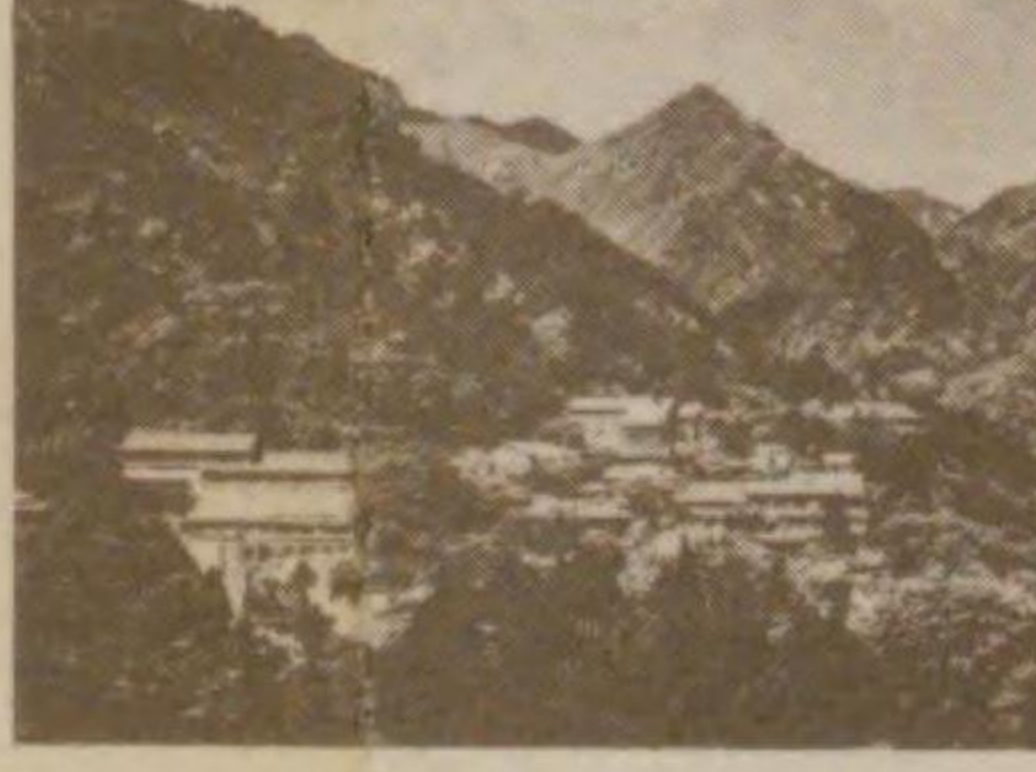
△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。



場築風山ノ場

橋鐵上鉄

所議會工商

局電無限對

園公訪諏

場地築築古萬

會議市日四

△同業組合

△金融

△料理店旅館

△料店旅館

△同業組合 本市市内多數の商工業者は何れも同業組合を組織し、各業者の統制ある繁榮を期し、就中本市商取引中最も盛なる肥料商組合、米穀商組合、萬古同業組合等は夫々堂々たる事務所を置き、相互の繁榮を圖りつつあり、米穀商組合は最近商業組合法に基き、四日市米穀商業組合を設立し、其の成績を擧げつつあり、此の外牛乳商業組合、墨商業組合等あり、何れも合理的經營方法により、斯業の改良發達に努力しつゝあり。

△金融 金融機關として、四日市銀行は本市に本店を有し、第一銀行、愛知銀行、百五銀行、三重農工銀行、不動銀行、日本貯蓄銀行等各其の支店を置く、殊に産業組合法に依り創立せられたる四日市金庫は創立以來日尙淺きも中小商工業者の金融機關として前途を闊大せらる。

△料理店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

△料店旅館 市内料理店の主なるものに松茂樓、大正館、姪子屋等あり、松茂樓、大正館は旅館を兼營し、姪子屋は洋食牛肉商を兼營し、何れも大廣間あり、其他旅館の主なるものに吉高屋、水東館、橋與旅館、十九村屋、白木屋、美濃喜、千葉館、ふじ屋、濱の屋等あり。

四日市大博覽會
 三月二十五日より五月十三日迄當市空前の大事業たる海港完成記念國產振興四日市大博覽會を開催す其要領を摘記すれば
 豫算總額七拾萬圓 縣市空前の大計畫
 國產振興 四日市大博覽會 催主 四日市市

會期 昭和十一年三月二十五日より五月十三日まで五十日間
 入場料 四日市港頭 四萬圓
 團體大割引 大人四拾錢 小人貳拾錢
 一般三拾人以上 學生特別割引

◎大博覽會の内容

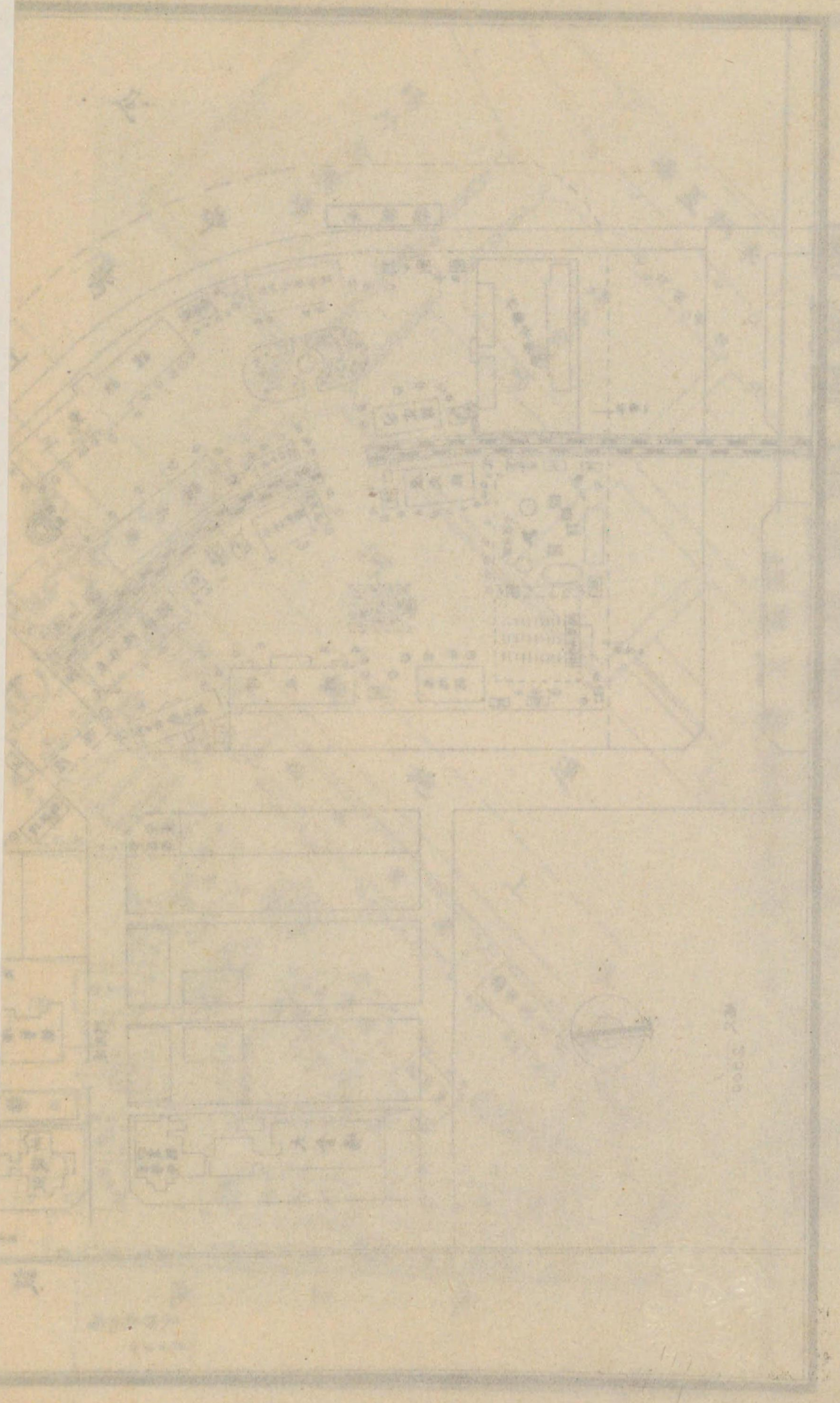
從來の此種計畫に比し極めて斬新効果的!! 各地優良物産と世界的最新學術の應用展覽
 △産業本館、三重縣館、海港館、萬古陶磁器館、
 農林機械館、近代科學館、肥料館、蠶絲館、羊毛工業館、
 △國防館、三重縣歷史館、佛教館、觀光館、ラヂオ館、
 △朝鮮館、臺灣館、滿洲館、濠洲館、南洋館等の特設館
 △東京、愛知、名古屋等大都市特設館
 △水族館、海女館、外國餘興館、野外劇場
 △軍艦、潜水艦の拜觀、文部省練習船日本丸・海王丸の操帆作業
 △特に新趣向を凝せる子供樂園
 演藝館に於ける新演藝並に各地郷土藝術の紹介
 △餘興 其他最新奇技なる外國諸演技
 生きた大鯨館、等絶贊を博すべき諸施設

◎附帶事業

三重縣教育會四日市市教育會共催 縣下各中小學校學生教職員及青年
 △三重縣教育作品大展覽會 三月三十日より 學生、教育者、一般人士の見通す事の出来ない教育豪華版
 三重四日市大講主催 四月二十三日まで
 △一光三尊佛御開扉 四月十四日より 是非御參詣な! 此機を逸すると十七年拜めません
 △其他史蹟、名勝、學術、秘物、等に關する諸種の展覽會開催
 △各種の作り物 其他各町考案の餘興・煙火・氣球等の放揚
 以上の如く 厭倒的大景氣計畫

◎市

△市民學つて熱意の表現!!
 △神社の臨時大祭 遺物行列等の行事
 △全市街の裝飾 各商店の大賣出し



三月二十五日より五月十三日迄當市空前の大事業たる海港完成記念國産振興四日市大博覽會を開催す其要略は豫算總額七拾萬圓 縣市空前の大計畫

國産 四日市大博覽會 催主 四日市市

●大博覽會の内容

從來の此種計畫に比し極めて嶄新効果的!! 各地優良物産と世界的最新學術の應用展覽

- △産業本館、三重縣館、海港館、萬古陶磁器館、農林機械館、近代科學館、肥料館、蠶絲館、羊毛工業館、
- △國防館、三重縣歴史館、佛教館、觀光館、ラザオ館、
- △朝鮮館、臺灣館、滿洲館、濠洲館、南洋館等の特設館

各地優良物産と世界的最新學術の應用展覽

- △東京、愛知、名古屋等大都市特設館
- △水族館、海女館、外國餘興館、野外劇場
- △軍艦、潜水艦の拜觀、文部省練習船日本丸・海王丸の操帆作業
- △特に新趣向を凝せる子供樂園
- △演藝館に於ける新演藝並に各地郷土藝術の紹介
- △餘興 (其他最新奇技なる外國諸演技 生きた大鯨魚、等絶贊を博すべき諸施設)

●附帶事業

縣下各中小學校學生教職員及青年

- △三重縣教育會四日市市教育會共催 三月三十日より
- △三重縣教育會作品大展覽會 四月二十三日まで
- △三重四日市大講主催 四月十四日より
- △一光三尊佛御開扉 四月十八日まで

是非御參詣な！ 此機を逸すると十七年拜めません

●市の協賛

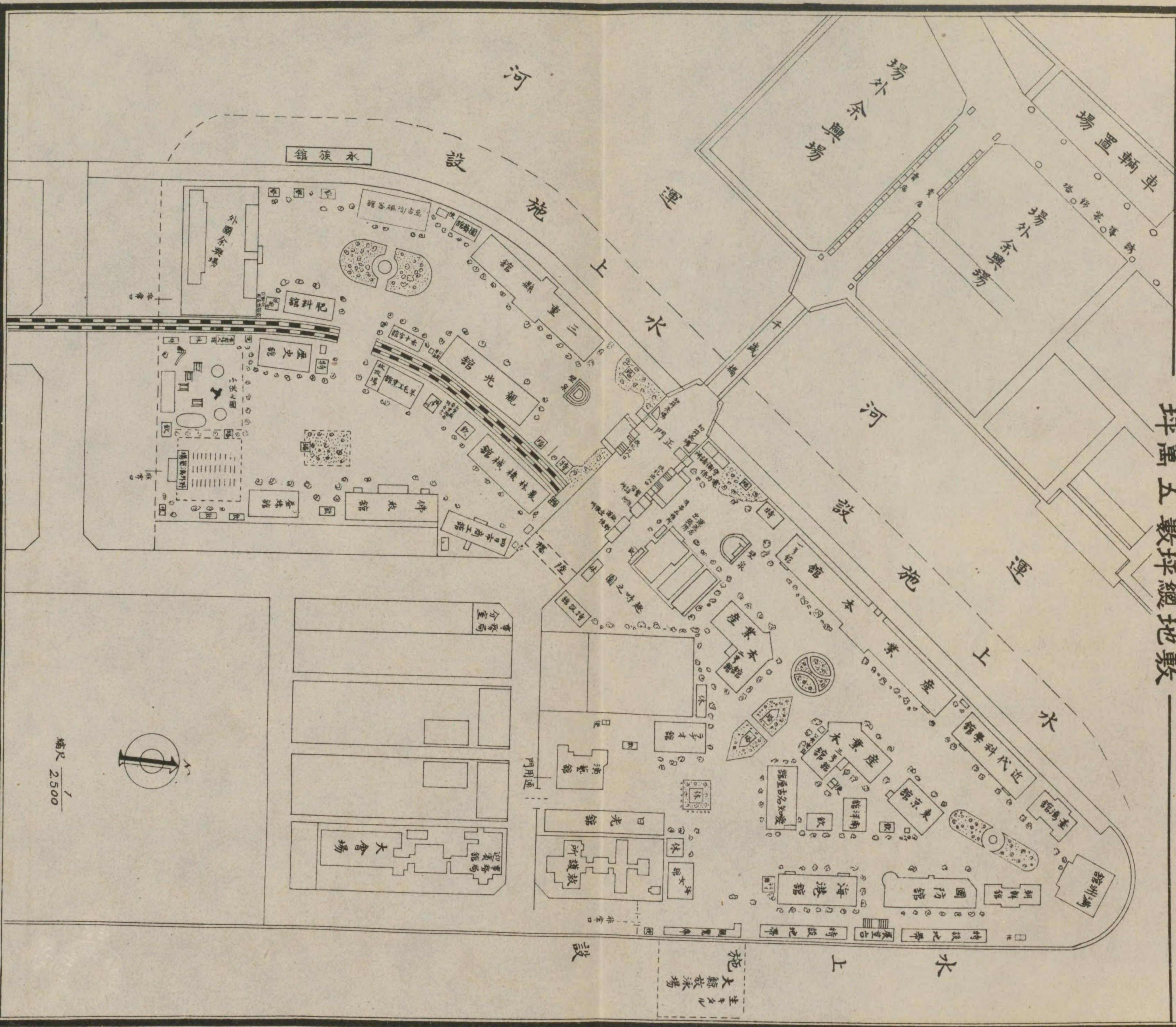
全市民學つて熱意の表現!!

- △神社の臨時大祭 遷物行列等の行事
- △全市街の裝飾 各商店の大賣出し

△各種の作り物 其他各町考案の餘興・煙火・氣球等の放揚

以上の如く 朕倒的大景氣計畫

國産振興四日市大博覽會會場配置圖 敷坪總數五萬坪





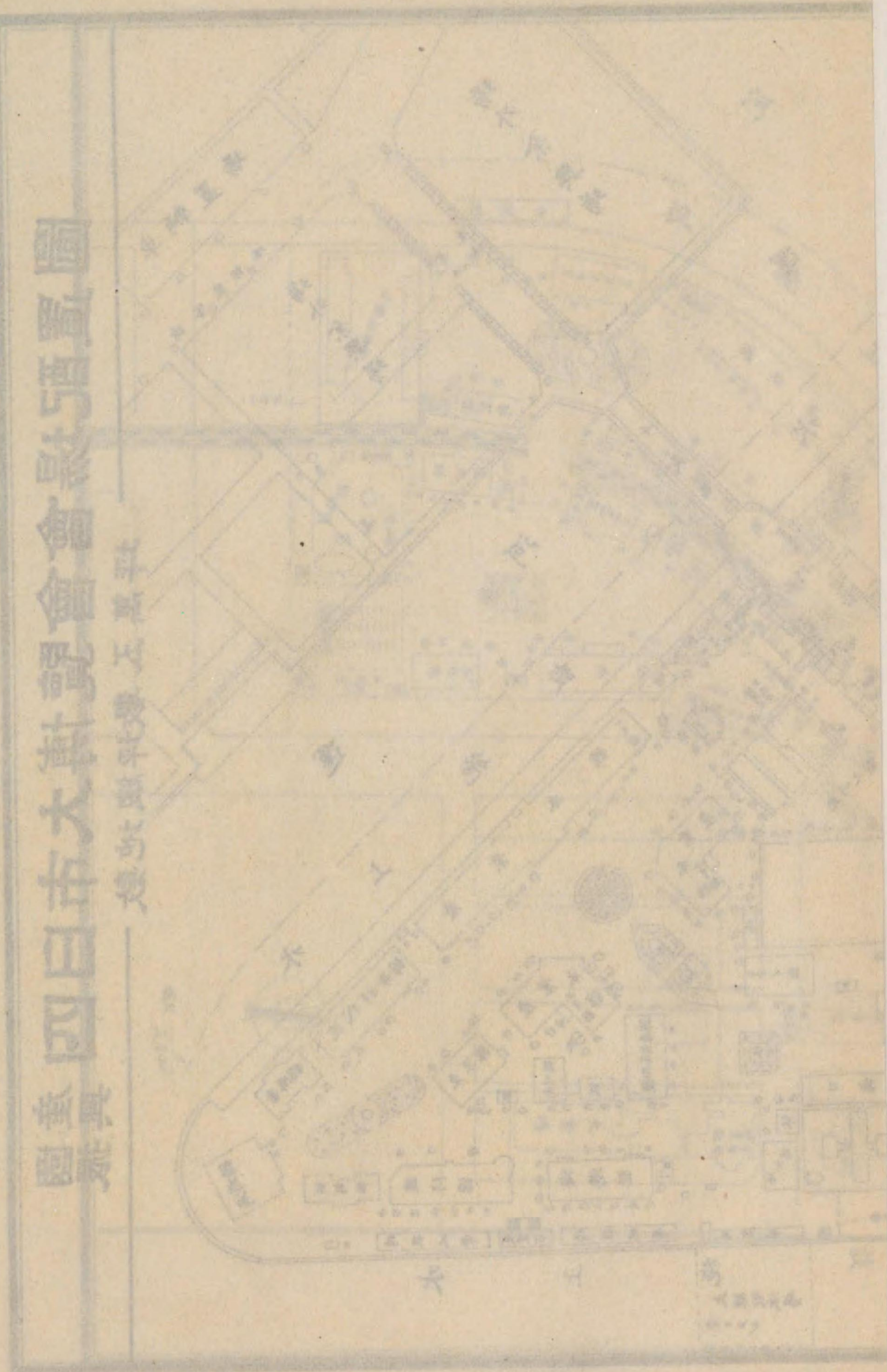
門正るな賑般



む望を館本業産りよ口入場會東

圖畫眞四日市大軒覽會影寫置圖

五萬千





第一會場りよ陸橋を望む



佛教館と四日市館(遙見ゆるはる陸橋なり)





場興餘國外と館料肥



衆大るれと見に藝演外野・館絲蠶

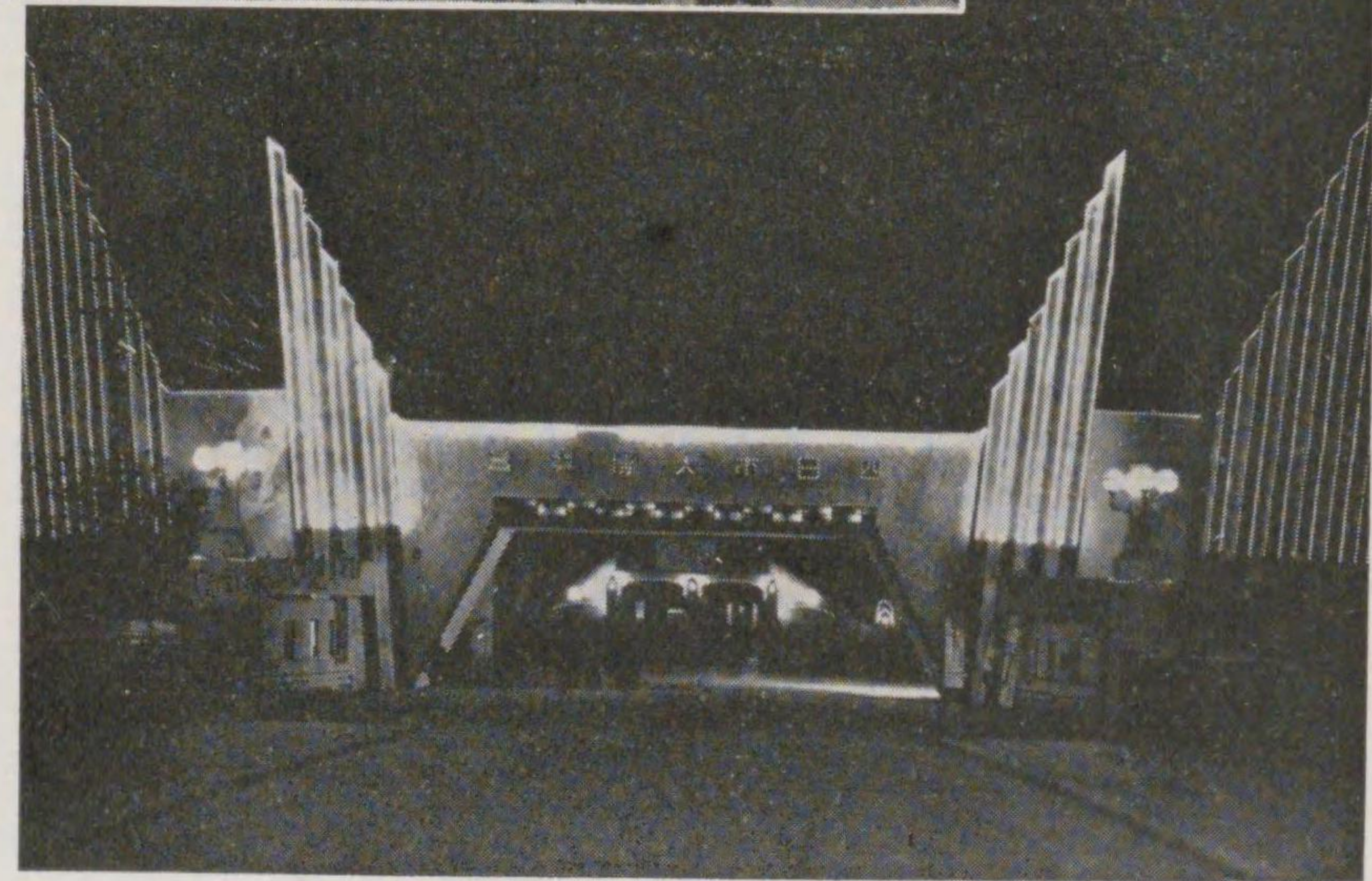


赤十字館、観光館、三重縣館



雨にひるまぬ一般観覧者
羊毛工業館、三重縣歴史館

正門ネオンの美観



國防館と海港館



近代科學館、滿洲館、朝鮮館



南洋館、愛知名古屋館





全國出品主任者協議會場



產業本館



振興國產 四日市大博覽會誌總目次

目次	第十二編	第十一編	第十編	第九編	第八編	第七編	第六編	第五編	第四編	第三編	第二編	第一編	緒圖	版
	役成警特各附觀台儀出宣工企	備衛	種大	帶事								畫準論	圖	版
	員	果	生	營	會	業	覽	覽	式	品	傳	營	備	論

	四〇四	三六一	三七二	三五八	三四四	三三〇	三一八	三五五	二九六	三〇	五	三〇	二	一



國產振興 四日市大博覽會誌目次

圖 版

卷 頭

久邇宮多嘉王殿下・第一等當選ポスター・會場鳥瞰圖・役員肖像總裁以下八三名・當市を中心としたる鳥瞰圖・會場配置圖・股賑なる正門・東會場入口より産業本館を望む・第一會場より陸橋を望む・佛教館と四日市館・肥料館と外國餘興場・蠶絲館・野外演藝に見とれる大衆・赤十字館・觀光館・三重縣館・雨にひるまぬ一般觀覽者・羊毛工業館・三重縣歴史館・正門ネオンの美觀・國防館と海港館・近代科學館・滿洲館・朝鮮館・南洋館・愛知名古屋館・全國出品主任者協議會出席者・事務局職員

工 營 編

産業本館・近代科學館・東京館・國防館・觀光館・海港館・佛教館・三重縣館

宣 傳 編

四日市西驛前大宣傳塔・暑中見舞用繪葉書(甲)・同上(乙)・年賀用繪葉書・宣傳枝折(表)・同上(裏)・博覽會案内(表)・同上(裏)・公德宣傳貼札・宣傳マツチ・セロファンマーク(大)・同上(小)・宣傳ビラ・飲酒無料引換券・同上大佛開眼供養・同上飛行機上よりのチラシ・スタンプ四種・ウインド利用廣告板

出 品 編

全國出品主任者會議・同上出席者の參宮・出品荷物貼付紙

産業本館第一號館Ⅱ第一號館平面圖・滋賀縣・金澤市・京都府・和歌山縣・兵庫縣・沼津市・濱

松市・松本市・千葉縣・岩手縣・松江市・山梨縣・千葉縣・大阪府・松江市・

大津市・大阪府・新潟縣・廣島市・吳市・兵庫縣・岡山縣・沼津市・四日市吳

服商組合 産業本館第二號館Ⅱ第二號館平面圖・愛媛縣・沖繩縣・福助足袋・香川縣・徳島縣・四日市製

油・山口縣・沖繩縣・高知縣・長崎縣・鹿兒島縣・熊本縣・福岡縣

目 次

目次

産業本館第三號館 東京電氣・網劔製網 第三號館平面圖・北海道・宮城縣・酒田市・鶴岡市・米澤市・山形市・埼玉縣・茨城縣・栃木縣

三重縣 館 三重縣產業現勢・三重縣重要物産陳列所・三重縣館平面圖・宇治山田市・松阪市・桑名町・西桑名町・富田町・富洲原町・熊澤の製品・津市・四日市市・三重縣藤商組合・三重縣酒造組合聯合會・松阪市

愛知名古屋館 愛知名古屋館全景・其の内部

東京 館 東京館内部・東京館平面圖

近代科學館 川崎造船所・鳥羽電氣製作所・三菱商事・旭硝子・合同電氣・近藤寫眞館・近代科學館平面圖

國防 館 現代戰・都市防衛・陸軍部平面圖・軍艦旗揚揚・東郷侯爵家御出品・海軍部平面圖

海・港 館 四日市港の現勢・三井物産船舶部・日本海員救濟會・大阪商船・海港館平面圖

臺灣 館 臺灣館全景・パイワン族の舞踊

滿洲 館 滿洲館と高脚踊の整列・滿洲館平面圖

朝鮮 館 朝鮮館全景

南洋 館 南洋館全景・其の内部

四日市 館 四日市館全景・岡田屋呉服店・山城屋家具店

萬古陶磁器館 萬古陶磁器館全景・萬古陶磁器同業組合・萬古燒賣店

農林機械館 農林機械館の内部・農林機械館平面圖

羊毛工業館 羊毛工業館全景・羊毛工業館の内部・四日市洋服商組合・羊毛工業館平面圖

蠶絲 館 皇室の蠶絲業御獎勵・蠶絲館平面圖

肥料 館 肥料館の内部・四日市肥料商業組合

目次

儀式編 三重縣歷史館 第一御木曳の景・第二御遷宮渡御の儀・第三倭姫命・第四日本武尊・第五北畠顯能卿・第六結城宗廣卿・第七本居宣長大人・第八薩摩義士・第九松尾芭蕉翁・第十明治天皇行在所・遷宮御料の撤下物・明治天皇幼時の御物・三重縣歷史館平面圖

佛教 館 佛教館全景・御化導の一夜・各宗寺院御寶物・佛教館平面圖

觀光 館 奇良縣・三重縣觀光協會出品・觀光祭・觀光館平面圖

ラデオ 館 ラデオ館全景・ラデオ館平面圖

赤十字 館 赤十字館全景

ミイラ 館 ミイラ館全景

地鎮祭式場・閉會式・大佛開眼供養式・謝大使の祝辭を代讀する辻靜遠・閉會式總裁告辭・同上賞狀授與

久邇宮殿下台覽

各種入場券・普通入場券と徽章・福引賞品引換所

各種大會編 三重縣教育品展覽會教員作品・同中等學校生徒作品・同小學校兒童作品・一光三尊佛御開扉會所・郷土植物展覽會・海王丸

全國商業組合大會 吉野商工次官の講演・商工大臣の告辭

國民教育研究大會 會長開會の辭・大島正徳先生の講演

國防婦人會 三重縣本部總會・南納屋の鯨船・北納屋の鯨船・四日市可祝連の出演・四日市南北連の舞踊・員辨デーの丸山踊・山田伊勢音頭・試酒デー

小供の國・趣味の園・大歡迎門・賣店前の股賑

優良品に貼付したる金紙・賞狀と感謝狀

特 營 編

成 果 編

目次

四日市市長序……………一頁

緒論……………一

趣意書……………三

泗港大觀……………五

四日市築港施設概要・四日市港入港船舶數・四日市港輪移出貨物・四日市港輪移入貨物・四日市港現況

第一編 企畫準備

博覽會開設の要望……………二

築港の完成と伸び行く四日市、博覽會開設の要望、市長の決意と準備費の可決、市長の活動

經營の大綱と豫算……………三

趣意書と開設要項の決定……………三

博覽會開設要項・計畫の研究と會名決定・博覽會豫算諸規程滿場一致可決・經費豫算書・會則・處務規程

補助と後援……………二六

國庫補助……………二六

懸費補助……………二六

協贊會組織……………三〇

協贊會役員

事務局設置……………三

事務局職員……………三

守衛看守女事務員の採用……………三五

守衛看守女事務員採用内規・看守人の配置

第二編 工 營

會場……………三七

敷地……………三七

會場の配置……………三七

建築……………四〇

設計の概要……………四〇

工事の施行……………四一

賃貸借契約書

起工及竣工……………四三

建設物工程一覽

主要建物の構造……………四四

目次

目次

産業本館第一號館・産業本館第二第三號館・三重縣館・海港館・近代科學館・國防館・觀光館・赤十字館・三重縣歷史館・佛教館・正門

水道敷設及び道路排水工事.....四

水道敷設.....四

道路.....四

排水設備.....四

電氣設備.....四

施設の概要.....四

電氣工事.....四

定額電燈料並電球紛失破損辨償代金・従量電燈料

場内出張所.....五〇

第三編 宣傳

宣傳計畫と其の目標.....五

宣傳事項の豫定、宣傳部員執務内規

宣傳ポスター.....五

第一回ポスター.....五

ポスター圖案の懸賞募集.....五

ポスター圖案懸賞募集規程・應募圖案の審査長及審査員・ポスター審査内規・應募圖案審査報告・懸賞ポスターの入選作並解説

第二回ポスターの發行.....五

第三回ポスターの發行.....五

鐵道用ポスターの發行.....五

懸賞應募ポスター優作品展覽會.....五

歌謠宣傳.....五

小唄懸賞募集.....五

小唄懸賞募集規程・懸賞小唄審査員・懸賞小唄審査發表・審査概況・一、二等當選歌詞

港小唄「躍進四日市」.....六

レコード發賣・小唄舞踊振付

新聞宣傳.....六

宣傳に盡力せられたる新聞名

宣傳看板.....六

宣傳塔.....六

景品付前賣券の發行.....六

文書宣傳並團體勸誘.....六

宣傳繪葉書.....七

目次

目次

宣傳印刷物……………七五
 萊博覽會案内・市島瞰圖・躍進四日市・會場案内・博覽會計畫宣傳紙・公德宣傳ビラ
 宣傳マツチ……………七九
 宣傳提燈……………八〇
 煙火の打揚……………八〇
 セロファンマーク……………八一
 交通機關利用宣傳……………八二
 自動車利用宣傳・名古屋市内バス利用・私設鐵道に於ける宣傳・車内宣傳・驛ホーム宣傳
 飛行機宣傳……………八六
 氣球宣傳……………八七
 スカイサイン……………八七
 スタンプ宣傳……………八八
 福引宣傳……………八九
 其他の宣傳……………九〇
 ラヂオに依る宣傳・チンドンヤ廣告・貼付紙に依る宣傳・驛賣品の包裝・各商店の包裝紙
 又はマーク等に依る宣傳・神都案内の利用・市内商店ウインドを利用する宣傳・臨時事
 項を利用する宣傳・附帶事業を利用する宣傳

第四編 出品

出品蒐集の方針……………九二
 出品勸誘……………九三
 第一回出品依頼狀・評議員全國出品勸誘分擔表・事務局職員全國出品勸誘分擔表
 出品規程……………九七
 全國出品關係主任者會議……………一〇三
 協議會日程・出席者芳名・協議事項・開議
 出品決定……………一〇八
 産業本館出品小間割當表・三重縣館出品配當小間數表
 運賃乗車賃關稅免除……………一一三
 鐵道省運輸局長の通牒・大藏省主稅局長の回答
 陳列裝飾……………一二六
 出品物の搬入出……………一二六
 出品概観……………一三三
 産業本館各府縣出品團體小間割・特設館經營一覽表
 産業本館第一號館……………一三三
 目次

目次

京都市・大阪府・兵庫縣・奈良縣・滋賀縣・和歌山縣・濱松市・沼津市・清水市・岐阜縣・松本市・神奈川縣・千葉縣・山梨縣・福島縣・岩手縣・秋田縣・新潟縣・福井縣・金澤市・富山縣・島根縣・岡山縣・廣島縣・吳市・福山市・尾道市・四日市・吳服商組合・東洋紡績株式會社
 產業本館第二號館……………一五
 山口縣・愛媛縣・德島縣・香川縣・高知縣・長崎縣・福岡縣・熊本縣・鹿兒島縣・那霸市・三重縣・名古屋市
 產業本館第三號館……………一七
 北海道・宮城縣・山形縣・埼玉縣・茨城縣・栃木縣・尾道市・樺太廳・桑名町・四日市市・伊藤メリヤス株式會社
 三重縣……………一九
 四日市市・津市・宇治山田市・松阪市・桑名町・西桑名町・富田町・富洲原町・上野町・白子町・龜山町・尾鷲町・久居町・神戸町・更生課・三重縣藤商組合・北勢浴布工業組合・北勢織物組合・伊勢織物同業組合・伊勢輸出タオル工業組合・松阪織物組合・高北農具製作所・三重縣實業學校・三重縣茶業組合聯合會・三重酒造組合聯合會・三重縣醬油組合・三重縣農會・三重縣工藝協會・三重縣菓子商組合・三重縣水產試驗場・白石工業株式會社・三重縣清涼飲料水組合・三重縣水產會・三重縣廳林務課・名張町・田丸町・四鄉村・三重縣種畜場・三重高等農林學校・守谷建材株式會社・小林製塲所・三重縣瓦工業組合・三重縣農事試驗場・重要物產(三重縣商工課)
 愛知 名古屋館……………二〇
 東京 館……………二五

近代科學館……………二七
 國防館……………三二
 陸軍部……………三三
 陸軍兵器本廠・陸軍被服本廠・陸軍化學研究所・陸軍糧秣本廠
 海軍部……………三六
 吳海軍々需部・廣海軍工廠・海軍潛水學校・吳海軍工廠・東郷侯爵家
 海 港 館……………三二
 臺 灣 館……………三四
 滿 洲 館……………三六
 朝 鮮 館……………三九
 南 洋 館……………四一
 四 日 市 館……………四四
 萬古陶磁器館……………四七
 農林機械館……………五一
 羊毛工業館……………五四
 蠶絲館……………五九
 目次……………六〇

目次

肥料館……………二六一

三重縣歴史館……………二六四

御木曳の景・御遷宮渡御の儀・倭姫命・日本武尊・北畠顯能卿御出陣・結城宗廣卿・鈴屋書齋・木曾川治水工事・松尾芭蕉翁・明治天皇御行在所・遷宮御料撤下物竝 明治天皇御幼時御物

佛教館……………二七一

親鸞聖人御一代パノラマ

聖人伊勢大廟御參拜・御幼時の御有様・御得度・聖德太子御靈告・六角堂の御參籠・信行

兩座・京都御出發・板敷山の辨圓濟度・枕石寺・立教開宗根本道場御建立・聖人御遷化

各宗寺院寶物

淨土宗智恩院・高田派專修寺・大谷派本願寺・本願寺派本願寺・黃檗山萬福寺

觀光館……………二七九

ラヂオ館……………二八一

赤十字館……………二八三

ミイラ館……………二八五

出品物の管理……………二八六

各館係員並看守人配置表・販賣係員及看守人服務規程

第五編 儀式

地鎮祭……………二八九

開會式……………二九〇

開會式次第・會長式辭・總裁式辭・總理大臣其他朝野名士の祝辭祝電

大佛開眼供養式……………三〇五

日滿交歡會……………三〇六

謝介石の祝詞

賞狀授與並閉會式……………三〇八

式次第・會長式辭・總裁告辭・縣會議長其他ノ祝辭祝電・受賞總代答辭

第六編 台覽

久邇宮多嘉王殿下御成……………三二五

殿下御成係員・御成御豫定表・御成當日の概況

第七編 觀覽

觀覽施設と誘致……………三三八

觀覽規程

目次

目次

團體入場者の勧誘と優待……………三九

團體入場料割引規程……………三九

通門と徽章各種觀覽券……………三〇

徽章觀覽券其他種類・徽章通門券發行規程……………三〇

前賣券の發行……………三一

普通前賣券・入場券前賣規程……………三一

景品附前賣券の發行……………三三

景品付入場券前賣要項・各郡市前賣擔當者・縣外前賣擔當者・第一回景品付入場券前賣規程……………三三

福引……………三七

第一回福引・第二回福引・第三回福引・第四回福引……………三七

觀覽入場人員……………三〇

有料入場券發賣一覽・抽籤券付前賣入場券發賣一覽・同上發賣方法・普通前賣入場券發賣一覽・同上發賣概況・一光三尊佛內陣入場券付前賣入場券・博覽會入場者日計表……………三〇

第八編 附帶事業

三重縣教育品展覽會……………三四

出品者の資格・出品物種類・出品點數……………三四

全國書道大展覽會……………三六

役員・受賞者……………三六

一光三尊佛御開扉……………三六

靈佛の由來……………三六

郷土植物展覽會……………三四〇

伊勢參宮資料展覽會……………三四一

橘守部大人遺著遺墨展覽會……………三四一

畠違ひ作品展覽會……………三四一

海の珍客大成丸・海王丸と軍艦愛宕……………三四二

元善光寺御座光日開扉……………三四二

種鶏共進會……………三四四

四日市港史の發行……………三四四

第九編 各種大會

第四回全國商業組合大會……………三四五

小川商工大臣告辭・大會建議案……………三四五

國民教育研究大會……………三四八

國防婦人會三重縣本部總會……………三四九

愛國婦人會創立三十五週年記念祝典……………三五〇

目次……………三五〇

各種大會一覽……………三〇〇

目次

第十編 特 營

子供園……………三六九

趣味の園……………三六九

海女館……………三六〇

日光館……………三六〇

日産振興館……………三六〇

國産振興館……………三六〇

無料休憩所……………三六〇

三重日々新聞社・四日市商業新聞社・勢州毎日新聞社・三重茶業組合聯合會・愛國婦人會
三重支部・其他……………三六一

大 歡 迎 門……………三六一

誘 導 廣 告 塔……………三六一

廣 告 塔……………三六三

飲 食 店 及 賣 店……………三六三

館外土地使用規程・賣店使用規程……………三六三

飲 食 店 一 覽 表……………三六八

賣 店 一 覽 表……………三六九

第十一編 警 備 衛 生

警 備 施 設……………三七二

守 衛 職 務 規 程……………三七二

會 場 取 締……………三七五

宮殿下御成に付處理事項・閉會後の警備方法・當市消防組の活動・會場取締規程……………三七五

衛 生……………三七八

救 護……………三七九

第十二編 成 果

出 品 物 の 販 賣……………三八一

出品物賣約及即賣取扱手續・出品物賣上金額表……………三八一

鑑 査……………三八五

出品鑑査規程・鑑査委員長並鑑査委員・出品鑑査幹事並事務員・鑑査中間報告・鑑査報告・
出品人員點數類別表・鑑査成績表・優良國產賞狀有効狀・感謝狀・出品物貼付の鑑査金紙……………三八五

殘 務 整 理……………三九三

會長の挨拶狀・會場の整理・事務局閉鎖・會誌編纂・收支精算・感謝狀贈呈……………三九三

目 次……………三九三

目次

成果…………… E01

國産 四日市大博覽會役員…………… E02

國産 振興 四日市大博覽會誌目次(終)

國産 振興 四日市大博覽會誌

緒論

我四日市は其の創立古く、皇紀千六百二十二年、人皇第六十二代村上天皇應和二年柴田郷の一部として伊勢皇大神宮の領地となつたと傳へられてゐる。往古より住民の一部は漁船を以て近海の交通を掌つてゐたが、天正十年徳川家康の渡海により廻船の權威を加へ、地の利之に和して、海の交通上重要な位置を占めたのである。

明治三年十月、當地父老の畫策により、初航汽船廻潤丸をして、四日市、東京間の通商運輸を開かした。是が四日市港に於ける汽船運用の嚆矢であつて、亦四日市、東京間航路開通の創始である。この汽船航路の開通は當地方の交通に一大變革を來し、船舶貨物の増加激甚となり、四日市の名稱は世上に喧傳せらるゝやうになつたのである。



明治五年十一月、當地の先覺稻葉三右衛門、舊港の開鑿を企畫し、同六年三月工を起し、紆餘曲折實に拾有貳年、同十七年其の功を全うした。此の舉は、當所海の交通に一時期を畫したるのみならず、新港開鑿の機運を醸成し得たのである。

地の利を占めた天與の我四日市港は人工の斧鑿により彌々其の本領を發揮し、明治二十二年七月には特別輸出港に、同三十年八月には特別輸入港に指定せられ、同三十二年八月遂に開港場となつた。此の間に於て、市の商

工業益々殷賑を來し、同三十年八月當所に市制を布くに至つたのである。

かくの如く、我市は先賢父老の畫策により年と共に順調に發展を見たのであるが、之を大船巨舶の收容關係に照しても、之を後方地域の交通範圍に徴しても、大築港計畫の議は漸く世論を動かす様になり、我市先覺の熱心なる活動と、縣當局の好意ある舉措と相待ちて、新港開鑿の議熟し、明治四拾參年七月起工式を擧げるに至つた爾來貳拾有六の星霜と壹千萬の巨資を投じて、昭和十一年三月之が完成を見るに至つたのである。

特別輸出港に指定せられてより已に四十八年、市制施行してより年を閱すること正に四十年、熟々我市の狀勢を大觀するに、人口の増加率に於ても、將た商工業の進展率に於ても、我國内後進の市に及ばざるものあるのみならず、開港當時の如く我市の名が中外に喧傳せられざるやの感ありて、そは當所父老先賢の深憂とする處であつた。

昭和九年六月、吉田勝太郎を市長として迎へた。吉田市長職に就くや銳意治を圖り、亦工場の誘致に着眼して畫策する所あり、更に當市空前の大事業たる博覽會の開設を企畫し、市内先賢に謀つた。この舉は、國産品の世界的進出に對する列國の重壓に對抗して我國産を彌々振興するに於て、我築港の完成を記念して社會的恩惠に酬いんとするに於て、將た我が四日市港を江湖に紹介せんとするに於て、大方の賛同歡迎する所となり、昭和十一年三月二十五日、春水漸く緩まんとする頃より、櫻花爛漫の妍と相映じ、新緑滴り薫る五月十三日に至る前後五十日間、開設の動機に深く意義を有する四日市港頭に於て開設された。

本市がこの空前の快舉を企畫するに當つては、商工省、陸軍省、海軍省の熱烈なる後援と懇切なる指導とを辱うしたのみならず、本縣當局を首めとして本縣内各郡市、全國各府縣、遠く滿洲國、臺灣、朝鮮、北海道、樺太、南洋各方面の關係當局並に佛敎眞宗當局の絶大なる賛同と支援とを受け、關係同人協力一致の努力に對し多大なる激勵を與へられた事は洵に感激に堪へないのである。

本博覽會開設に要した總豫算は金七拾萬壹千九百五拾圓、出品點數實に拾四萬參千點、出品總人員參千七百人本市としては未曾有の偉觀を呈し、現代産業の精、近代科學の粹を鍾め、各館建築の人工美と、柳綠花紅の自然美と互に相映發して絢爛壯麗を極め、正に國産振興に關する主眼を遺憾なく發揮し得たのである。

而して入場總人員六拾七萬餘人、驚異と感激の裡に多大の効果を收めて終了したことは、衷心より愉悅を禁ずることが出来ないと同時に、支援と指導に全靈を打込まれたる關係當局に對し重ねて最大なる敬意と感謝の念を捧げ、永く本誌に録して記念する次第である。以下編を分ちて本博覽會の全貌を概説せんとするに當り、本博覽會が一時の感激に値したといふに止まらず、聊なりとも、此開設により、國産の振興と、我四日市港の特殊性と並に今後本市の産業的進出に對し影響を持つことを得るならば當に本市の至幸たるのみならず、亦實に國家の慶事であると思ふ。

趣意書

今や我が國は世界經濟界の一大轉機に乗じ、國産品の海外進出は古今未曾有の勢を示し、幾多の舊勢力を壓倒して世界の市場に溢れ、將に國際貿易戰線に颯爽たる王者の威風を示さむとす。是に於て列國の視聽は期せずして我が國産品に集中し、卒然として窃に經濟封鎖を策して成らず、百方術策を弄して我が商品の進路を遮斷し防遏せむとするに汲々たり。斯の如きは固より新興の途上に於て避くべからざる當然の試練にして毫も辭せざる所なりと雖、顧れば内に幾多の經濟的難局を孕みて時局匡救の策未だ成らず、天惠豊かならずして物資輒もすれば不足を告げむとし、原料の供給亦必ずしも容易ならず。此の國情を以てして敢て列國の重壓を凌ぎ、益々輸出貿易を振興して國際經濟界に雄飛し、以て新興日本の實力を中外に發揮し、皇化を八紘に光被せむとする、一に國

民の奮闘努力に俟たざるべからず。

翻つて、我が四日市市の経済的實勢を見るに、最新の設計になる港灣修築工事並に之に伴ふ海港施設概ね完備して、貿易港としての面目全く整ひ各種生産業亦頗に勃興して輸出入額は連年激増し、昨年末現在に於て其の貿易額全國の第六位にあり、新興港灣都市として、又商工都市として名實共に國際的商港たるの實力を備へ市勢今や一大躍進の途上に在り、是に於て本市は港灣施設完成の記念事業として、昭和十一年陽春踰蕩の候を卜して國産振興四日市大博覽會を開設し、以て國産の振興、輸出の進展を資け、聊か新興日本國勢の發展に貢献する所あらむとす。

惟ふに本縣は 畏くも全國の崇敬比びなき

神宮御鎮座の靈地にして、且吉野朝の柱石北畠親房卿及び皇學の泰斗本居宣長大人其の他忠臣烈士の遺蹟は到る所に國史の精華を語り、又志摩及南紀地方一帶の絶景、赤目瀧、香落溪等伊賀の奇勝、二見浦、鼓ヶ浦等の長汀曲浦、剩へ本市郊外、霞ヶ浦、湯の山温泉等の景觀を始めとし、他地方に於て見ることを得ざる名勝舊蹟隨所に天下の觀光客を迎へ、加ふるに近代的の設備を誇る交通機關は四通八達して探勝に訪古に缺くる所なし。

冀くは敍上の趣意を諒せられ、新興日本帝國國産振興の爲に、奮つて本事業に参加せらるゝと共に、熱誠なる御高援を賜り、以て本博覽會所期の目的を達成せしめられむことを。謹みて大方各位の清鑑を仰ぐ。

四日市市主催

國産振興 四日市大博覽會長

四日市市長 吉田勝太郎

昭和十年四月

泗港大觀

四日市港廻船の事は往古より行はれてゐたが、徳川家康の渡海により由緒ある廻船として一層權威あるものとなつた。即ち慶長五年より廻船二十五艘に對し、地子高八石四斗八升を免ずるの特典を與へられ、文祿、慶長の役、朝鮮へ出師の際及び寛永時代將軍還御の節には伊勢國十三ヶ浦の觸主となつて其の威を示した。御傳馬開始以來陸上交通の繁榮と相待つて益々隆盛を極め、以て明治の初年に及んだのである。

明治の初年、當地の先覺稻葉三右衛門舊港の修築を企畫し、拾貳年の歲月と巨額の私財を投じて之を完成し、更に縣は、貳拾有六の星霜と壹千萬金を投じて新港を鑿築し、昭和十一年三月之が完成を見たのである。

四日市築港施設概要

一、防波堤總延長	一、六四六・六*
内 旭 防 波 堤	一、〇九一・〇
舊 港 防 波 堤	四八三・六
日本板硝子假防波堤	七二・〇
一、航 路 延 長	六五五米
幅	一三六・四米
水深	九・一米
一、船 溜 總 面 積	一、〇二二、三四九平方米
内	五八六、三二四平方米
水深	九・一米
水深	八・二米

泗港大觀

緒論

一、運河總延長	三〇一、九六六平方米	水深	七・七米
內	四〇、一五九平方米	水深	七・〇米
	三四、〇五五平方米	水深自	〇・六米 至二・五米
	五、一六四米		
	二、六六四米	巾	深 二・四米
	二、五〇〇米	巾	深 自〇・六米 至〇・二米
一、埋立地總面積	八九五、九〇〇平方米		
內 尾上町埋立地	五六、六四七平方米		
第一號埋立地	二七一、七三五平方米		
第二號埋立地	三九五、七四八平方米		
第三號埋立地	一三〇、四三九平方米		
旭地先第一號埋立地	四一、三三一平方米		
一、荷揚護岸總延長	三、三三九米		
內 第一號地物揚場	一、三三八米	深	二・四米
第二號地物揚場	一、五一米	深	二・四米
第三號地物揚場	一一一米	深	二・四米
其他ノ物揚場	三七九米	深	自〇・三米 至一・五米
一、上屋及倉庫			
上屋棟數	二十五	面積	二七、一七一平方米

內 普通上屋	一八棟	面積	一二二、二四四平方米
保稅上屋	七棟	面積	四、九二七平方米
倉庫棟數	三〇四棟	面積	七八、二九四平方米
內 普通倉庫	二九七棟	面積	七五、七二三平方米
保稅倉庫	七棟	面積	二、五七一平方米
一、航路標識			
燈臺 一ヶ所	指導燈 二ヶ所	柱燈浮標 一個	其他ノ浮標 十二個
一、繫船浮標	八個		
內 壹萬噸級船舶用繫船浮標	五個		
三千噸級船舶用繫船浮標	三個		
一、繫船岸壁及棧橋			
繫船岸壁	二ヶ所	延長	二一四米三
繫船棧橋	二ヶ所	延長	四九六米七
小船用棧橋	一〇ヶ所	延長	八三米三
一、臨港鐵道總延長	九、三二〇米	水深	自七・〇米 至八・三米
第一號地間延長	四、二九〇米	水深	九・二米
第二號地間延長	五、〇三〇米	水深	自〇・二米 至三・〇米
一、貯木場及貯炭場			
貯木場面積	二九、〇六三平方米		
泗港大觀			

緒論

内水面面積 一、七五七平方米

陸上面積 一七、三一六平方米

貯炭場面積 三三、八八一平方米

一、起重機

第壹號埋立地 モノレールテルフアー 揚力 貳噸 壹臺

クレーン 揚力 壹噸 壹臺

第貳號埋立地 モノレールトランスポーター 揚力 壹噸半 壹臺

水平式クレーン 揚力 參噸 壹臺

水平引込式クレーン 揚力 五噸 壹臺

一、曳船

小船用曳船 三隻

大型船用曳船 壹隻

一、船舶給水

第二號埋立地棧橋 水栓 五個

第二號埋立地岸壁 水栓 四個

給水船 壹隻

一、最近三ヶ年間四日市港入港船舶數

年次	内外別		計
	外國貿易	內國貿易	
昭和九年	隻數 二二〇	隻數 一〇、六九二	總噸數 一、一〇一、六六〇
同十年	三三八	一〇、七三三	一、一五〇、八〇二
同十一年	三七	一〇、八五三	一、二〇二、九六〇
計			隻數 二一、九三三
			總噸數 二、四三三、三〇〇

一、最近三ヶ年間四日市港輸移出貨物

年次	輸移出別		計
	輸出	移出	
昭和九年	數量 五五、七三噸	數量 一四、二一九噸	價額 三三、二六、五二円
同十年	三六、四九	一九五、〇二六	三三、〇一、七七六
同十一年	四九、四八四	二〇四、八七八	三二、六〇、一〇三
計			數量 一九六、九一〇噸
			價額 三九、五三〇、三五円

一、最近三ヶ年間四日市港輸入貨物

年次	輸移入別		計
	輸入	移入	
昭和九年	數量 二五、七〇三噸	數量 四一、八三六噸	價額 七九、〇八、八三円
同十年	二五、七一七	五七三、三六八	九九、九三七、四五五
同十一年	二五、〇二四	七〇五、九七三	九七、九一六、八四三
計			數量 七六、四四四噸
			價額 二七、〇八、八四三円

泗港大觀

四日市港現況

一、戸口	戸數壹萬貳千九百參拾貳戸、人口六萬八千七百五拾四人。	大豆	八拾萬圓
一、四日市港	外國貿易七千萬圓ニシテ全國第六位ナリ。	石炭	百貳拾萬圓
一、外國貿易	主ナル輸出品	其他	貳百參拾萬圓
陶磁器	貳百萬圓	計	六千參百五拾萬圓
綿布	四拾萬圓	一、産業	
油類	百萬圓	1. 主要ナル産物	
肥料類	百貳拾萬圓	毛絲	壹千貳百萬圓
其他	參百貳拾萬圓	綿布綿絲	九百五拾萬圓
計	七百八拾萬圓	陶磁器	六百五拾萬圓
主ナル輸入品		製油	四百萬圓
羊毛	參千五百萬圓	電線	壹百萬圓
棉花	千八百萬圓	肥料	貳百萬圓
製油原料	四百五拾萬圓	護謨製品	百八拾萬圓
飼料類	百七拾萬圓	其他	五百四拾萬圓
		計	四千貳百貳拾萬圓
		2. 會社及工場	
		會社	百四拾八
		工場	百五拾

第一編 企畫準備

博覽會開設の要望

築港の完成と伸び行く四日市

中部日本に於ける重要な貿易港たる我四日市港は、二十有六の星霜と總工費壹千萬圓を投じて港灣修築工事を行ひ、昭和十一年三月之が竣成を見たのである。而して最近羊毛工業を始め製陶製油等各種産業は、本市を中心として目覺しく發展し、市勢頓に躍進し、新興の氣運横溢するの盛況を示した。本市は港灣修築工事の完成を記念し、我國産業界の現況に鑑み、國産の振興、貿易の伸展を策して國家に貢献し、以て社會的恩惠に酬い、併せて本市の盛況を中外に宣傳せんが爲め、昭和十一年三月二十五日より五月十三日まで五十日間、四日市港頭に會場を選び、國産振興四日市大博覽會を開設した。

博覽會開設の要望

博覽會開催に關しては、嘗て昭和五年戸野市長時代市民一部の間に、上水道完成、市廳舎新築並に港灣工事の第一期竣成等の記念事業として開設すべく論議せられたるも、機運之に伴はず、實現するに至らなかつた。爾來年を追ひ、港灣修築工事の完成並に諸般の設備の充實するに従ひ、四日市の眞價を中外に認識せしむる爲め、博

博覽會開設の要望

覽會の開催は、市民の翹望する所なりしも、機運熟せず市の財政は容易に之が具體化を許さなかつた。

市長の決意と準備費の可決

昭和九年六月、吉田市長の就任を見るや、早くも本市の現状及將來性に鑑み、我四日市市の躍進に拍車を加へ事業として、博覽會の有意義なることを認め、恰も港灣修築工事は昭和十年度を以て完成するを以て、此の社會的恩恵に酬ゆる爲め、博覽會開設の適切なるを思ひ、一大覺悟を以て開催の決意をしたのである。

斯くて、市長は昭和十一年度市費豫算編成に當り、課長會議に於て先づ其の意志を發表し、市費支出豫算案中に博覽會開設準備費金五千圓を計上し、昭和十年二月二十一日開催の市會に於て満場一致の承認により、愈々昭和十一年陽春花々しく開催する事となり、四日市市民多年の宿望が漸く具體化されたのである。

市長の活動

博覽會の事業は其性質上大衆を目標とするものなる故に、其事業の遂行は實に容易の事ではない。勿論四日市市當局のみにては其成果を完全に收め得るものではない。内は舉市一致精神的團結を以て、外は縣當局、政府を始め、日本全國さては滿洲、南洋に至るまで絶大の援助を仰がねばならないのである。此の精神的圓滿なる協調を得ることは、主催者として尋常一様の苦心ではなかつた。吉田市長は勸業課員をして準備事務を進めしめ、一面には、昭和十年三月六日、市内實業會館に於て開かれた四日市商工會議所役員會に出席して博覽會開設に就て協賛を求めたるを始めとし、同月七日開催の四日市商工會議會に於て、同月十一日四日市商工會議所議員懇談會に於て一致協力を要望し、其他市内町總代會、縣當局、政府當局等あらゆる方面に向つて協賛援助を懇請するなど、必死の活動を續けたのである。

經營の大綱と豫算

趣意書と開設要項の決定

昭和十年四月、博覽會開設趣意書（前掲）竝に開設要項を定め、同月十二日、全國各府縣、各市竝に全國商工會議所等に開設趣意書竝に開設要項を添へ、出品に關する依頼狀を發し、茲に本格的準備時代に入つたのである。

國產振興 四日市大博覽會開設要項

- 一、主 催 四 日 市 市
- 二、名 稱 國 產 振 興 四 日 市 大 博 覽 會
- 三、會 期 昭 和 十 一 年 三 月 下 旬 ヨ リ 五 月 上 旬 ニ 至 ル 五 十 日 間
- 四、會 場 四 日 市 港 頭（約五萬坪）
- 五、目 的 本 邦 内 外 ニ 於 ケ ル 物 産 ノ 現 狀 及 産 業 資 料 等 ヲ 展 示 シ、國 產 ノ 振 興 並 ニ 貿 易 ノ 伸 展 ヲ 圖 リ、併 テ 今 ヤ 國 際 的 商 港 ト シ テ 躍 進 ノ 途 上 ニ ア ル 四 日 市 港 ノ 眞 價 ヲ 發 揮 シ 以 テ 一 般 産 業 界 ノ 發 展 ニ 寄 與 ス ル 所 ア ラ ム ト ス
- 六、經 費 豫 算 約 七 拾 萬 圓
- 七、諸 施 設 見 込 概 要

國產振興館	産業本館
陶器館	農林水産館
交通觀光館	國防館
迎賓館	宗教館
	水族館
	演藝館
	郷土産業館
	海港館
	教育館
	道、府、縣、市其他各方面特設館等

經營の大綱と豫算

計畫の研究と會名決定

全國的に渉る本事業は、用意周到なるを要し、微を穿ち細を極めて調査研究を爲し、所謂萬全の策を講じ所期の目的を達成せねばならぬ。されば本計畫に參與すべき市會議員を當時開催中なりし横濱、吳、熊本各市の博覽會を視察せしめ、重要な事項の報告を基礎とし、數回の準備委員會を重ねて計畫の大綱を決定した。會の名稱は會の生命である。會の内容を顯現するに於て將た宣傳の效果に於て重要な使命を有するものである。初め海港博覽會と命名する豫定なりしが、種々研究の結果、國産振興四日市大博覽會と決定を見たのである。

博覽會豫算諸規程滿場一致可決

昭和十年五月三十日、博覽會豫算、同會則、諸規程を議定すべく市會を開いた。吉田市長、案の説明を爲し、一人の反對者もなく滿場一致を以て可決確定した。即ち總經費金五拾萬壹千九百五拾圓、昭和十、十一年の二年繼續事業として可決を見たのである。

國産振興四日市大博覽會經費豫算書

收入

科 款	項 目	昭和		計	種 目	種 類	附 記
		十 年 度	十 一 年 度				
一、博覽會收入		六、〇一〇	一一、二六〇	一七、二七〇			
	一、會場收入	六、〇一〇	一一、二六〇	一七、二七〇			

					一、陳用列料棚	三、五〇〇	
					二、使陳用列料臺	九、〇〇〇	
					三、土間使用料	六、〇〇〇	
					四、賣店使用料	一三、〇〇〇	
					五、使館外土地	三、〇〇〇	
					六、入場料	一六、〇〇〇	
					七、門鑑料	八〇〇	
二、補助金		六〇、〇〇〇	一	六〇、〇〇〇			
	一、國庫補助金	一〇、〇〇〇	一	一〇、〇〇〇			
	二、縣費補助金	五〇、〇〇〇	一	五〇、〇〇〇	一、縣費補助金	五〇、〇〇〇	

第一編 企畫準備

科目	項目	昭和十年度	昭和十一年度	計	種目	金額	附記
三、寄附金	一、博覽會寄附費	100,000	—	100,000	一、博覽會寄附費	100,000	
四、繰入金	一、市費繰入金	60,000	60,000	120,000	一、市費繰入金	120,000	
五、雜收入	一、雜入	50	10,600	10,650	一、賣上手數料 二、賣却用品 三、其他雜入	3,000 7,000 60	
合計		326,000	185,800	511,800			

支出

科目	項目	昭和十年度	昭和十一年度	計	種目	金額	附記
一、事務費	一、給料及雜給	19,953	22,008	41,961	一、給料	9,900	
	二、需用費	4,326	18,100	22,426	二、雜給 三、旅費 四、慰勞費	15,960 12,000 3,500	
					一、備品費	9,926	
					二、消耗品費	3,600	
					三、通信運搬費	4,000	

經營の大綱と豫算

國產 振興 四日市大博覽會會則

第一章 總則

第一條 本會ハ國產振興四日市大博覽會ト稱ス
 第二條 本會ハ内外ニ於ケル物産ノ現狀及産業資料等ヲ展示シ國產ノ振興並貿易ノ伸展ヲ圖リ併テ國際的商港トシテノ四日市港ヲ紹介スルヲ以テ目的トス
 第三條 本會ハ四日市市之ヲ主催ス
 第四條 本會ノ會期ハ昭和十一年三月二十五日ヨリ同年五月十三日迄トシ四日市市ニ於テ之ヲ開設ス
 第五條 本會ノ事務局ハ當分四日市市役所ニ置ク但シ時宜ニ依リ博覽會場ニ移轉スルコトアルヘシ
 第六條 本會ノ出品區域ハ全國道府縣、朝鮮、臺灣、樺太、關東廳、南洋廳管下トス但滿洲國、ソビエツト聯邦、濠洲ヨリノ出品其ノ他ノ參考品ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 組織

第七條 本會ニ總裁及副總裁ヲ推戴ス
 第八條 本會ハ名譽顧問及顧問ヲ置キ會長之ヲ推薦ス
 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	一	名
副會長	若	干
參事	若	干
評議員	若	干
委員	若	干

第十條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク

事務總長	一	名
理事	若	干
事務員	若	干

前項ノ外必要ニ應シ事務囑託ヲ置クコトヲ得
 第十一條 會長ハ四日市市長之ニ當ル
 第十二條 副會長其ノ他ノ役職員ハ會長之ヲ囑託又ハ任命ス
 第十三條 會長ハ會務ヲ統轄シ本會ヲ代表ス
 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス
 參與ハ重要ナル會務ニ參與ス
 評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ會務ヲ審議ス
 委員ハ會長ノ委囑ニ依リ會務ニ關與ス
 事務總長ハ會長ノ命ヲ承ケ會務ヲ總理ス
 理事ハ上司ノ命ヲ承ケ會務ヲ分掌ス
 事務員ハ上司ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス
 第十四條 本會ノ事務處理ノ爲必要ニ應シ部及係ヲ置クコトヲ得
 部、係ノ設置ハ會長之ヲ定ム

第三章 出品

第十五條 本會ノ出品ハ即賣品、賣約品、非賣品及參考品ノ四種トシ其ノ部類左ノ如シ
 一、製作工業品

二、化學工業品
 三、機械、電氣工業品
 四、農、林、水産物及鑛業品
 五、特許及發明品
 六、學術材料及美術工藝品
 七、海洋、港灣
 八、交通、觀光及保健
 九、國、防
 十、其ノ他

第十六條 出品物中左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ鑑査ヲ行ヒ其ノ優良品ニ對シテハ特ニ國產振興品タルコトヲ表示ス

一、輸入品ニ對抗シツ、アル國產品
 二、輸入品ニ代用シ得ヘキ國產品
 三、輸出ヲ獎勵スヘキ國產品
 鑑査ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ出品スルコトヲ得ス

一、風俗又ハ秩序ヲ紊シ若ハ衛生ヲ害スル虞アリト認ムルモノ
 二、他人ニ損害ヲ及ホシ若ハ公衆ノ嫌忌ノ感ヲ與フルモノ
 三、發火其ノ他危險ノ虞アリト認ムルモノ
 四、其ノ他陳列ニ適セスト認ムルモノ

第十八條 出品物ニシテ其ノ出品陳列後ニ於テ前條ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ取換若ハ陳列場所ノ變更ヲ爲サシ

メ又ハ撤去セシムルコトアルヘシ

第十九條 出品人ハ本會ニ於テ配當シタル陳列場所ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 出品物ノ荷造、運送、搬入出、陳列裝飾並動力其ノ特別ノ裝置ニ要スル費用ハ總テ出品人ノ負擔トス但シ本會ニ於テ特別ノ事由アリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 本會ハ出品物ニ對シ相當ノ保護ヲ爲スト雖天災地變又ハ水火災盜難其ノ他不可抗力ニ因リテ生シタル一切ノ損害ニ對シテハ其ノ責ニ任セス

第二十二條 出品物ハ審査ヲ行ハス出品人ニハ感謝狀ヲ贈呈ス

第四章 觀覽

第二十三條 本會ノ觀覽時間ハ毎日午前八時ヨリ午後五時迄トシ夜間開場ノ場合ハ午後六時ヨリ同十時迄トス但シ時宜ニヨリ之ヲ伸縮シ又ハ觀覽ヲ停止スルコトアルヘシ

第二十四條 本會ノ入場料ハ左ノ如シ

晝間	大	人	四	十	錢
	現役下士官兵	小	二	十	錢
	(六歲以上十二歲未滿)	六歲未滿	無料		
夜間	大	人	二	十	錢
	現役下士官兵	小	十	五	錢
	(六歲以上十二歲未滿)	六歲未滿	無料		

第一編 企畫準備

三十人以上ノ團體又ハ教員引率ノ學生、生徒ニ對シテハ入場料ヲ割引ス其ノ割引率ハ會長ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第二十五條 觀覽人ニシテ風紀秩序ヲ紊シ又ハ他人ニ迷惑ヲ及ホシ若ハ出品物ニ危害ヲ加フルカ如キ行爲アルトキハ入場ヲ拒絕シ又ハ退場ヲ求ムルコトアルヘシ

第二十六條 觀覽人ハ畜類ヲ牽キ又ハ自動車若ハ荷物ヲ携帯スルコトヲ得ス

第二十七條 觀覽人ハ看守又ハ係員ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ出品物ニ手ヲ觸ルルコトヲ得ス

第五章 購買

第二十八條 出品物ヲ購買セムトスルモノハ看守人ニ其ノ旨申出ヘシ

第二十九條 出品物ヲ購買シタルモノハ即賣品及代金拾圓未満ノ賣約品ニアリテハ其ノ代金ノ全額、拾圓以上ノ賣約品ニアリテハ其ノ代金ノ半額以上ノ手附金ヲ支拂ヒ其ノ領收證ヲ受クヘシ現品ノ交付ハ即賣品ニアリテハ即時之ヲ行ヒ賣約品ニアリテハ會期終了後五日以内ニ領收證書及殘金引換ニ之ヲ行フモノトス

前項期間内ニ賣約品ノ引取ヲ爲ササルモノハ解約ト看做シ手附金ハ出品人ノ所得トス

國產 振興 四日市大博覽會處務規程

第一條 本會ニ關スル事務ハ總テ會長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル者ノ決裁ヲ經テ之ヲ施行スルモノトス

第三十條 出品物ノ賣上代金ハ閉會後三十日以内ニ清算シ之ヲ出品人ニ交付スルモノトス

第六章 雜則

第三十一條 出品人、場内營業人及其ノ使用人ニ對シテハ別ニ定ムル入場券又ハ門鑑ヲ交付ス

第三十二條 出品物ハ本會ノ承認ヲ受クルニ非サレハ撮影若ハ模寫スルコトヲ得ス

本會ニ於テ出品物ヲ撮影若ハ印行スルコトアルモ出品人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三十三條 本會ノ許可ヲ受クルニ非サレハ陳列館及其ノ他ノ建設物内ニ於テ火氣ヲ用フルコトヲ得ス

第三十四條 會場内ニ於テ自營館又ハ賣店、飲食店、觀覽物、遊戲物其ノ他ノ營業ヲ爲サムトスル者ハ別ニ定ムル規程ニ依リ會長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十五條 會場内ヨリ物品ヲ搬出スル者ハ本會所定ノ搬出票ヲ携帯スヘシ但シ會場内ニ於テ買求メタル即賣品、携帶品ノ類ハ此ノ限ニ在ラス

附則

第三十六條 本會則ニ定ムルモノノ外出品其ノ他博覽會開設ニ必要ナル事項ハ會長之ヲ定ム

第三十七條 本會則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本會ノ事務ヲ處理スル爲メ左ノ各部ヲ置ク

一、庶務部

- 一四、各部ノ連絡ニ關スル事項
- 一五、給仕小使ノ取締ニ關スル事項
- 一六、制服、徽章、入場券、優待券、特別入場券、門鑑等ノ調製並ニ發行ニ關スル事項
- 一七、新聞及通信ニ關スル事項
- 一八、其ノ他ノ主管ニ屬セサル事項

二、出品部

- 一、出品勸誘ニ關スル事項
- 二、出品整理ニ關スル事項
- 三、出品申込及受授ニ關スル事項
- 四、出品場所ノ配當割ニ關スル事項
- 五、出品物ノ保護並ニ館内取締ニ關スル事項
- 六、賣約ニ關スル事項
- 七、出品物殘品引渡ニ關スル事項
- 八、看守人ノ監督ニ關スル事項
- 九、運賃並ニ乗船車賃金割引交渉ニ關スル事項
- 一〇、倉庫管理ニ關スル事項
- 一一、出品陳列裝飾ニ關スル事項
- 一二、陳列ケース及臺其ノ他陳列場ノ設備ニ關スル事項
- 一三、館内外ノ裝飾ニ關スル事項
- 一四、其ノ他意匠圖案ニ關スル事項
- 一五、鑑査委員並ニ鑑査事務ニ關スル事項
- 一六、鑑査ノ結果報告並ニ編纂ニ關スル事項
- 一七、鑑査狀ニ關スル事項

處務規程

- 二、出品部
 - 三、宣傳部
 - 四、經理部
 - 五、工營部
 - 六、警備衛生部
 - 七、儀式接待部
 - 八、特營部
- 第三條 各部ニ部長一名、副部長及事務員若干名ヲ置ク部長ハ理事又ハ囑託ヨリ之ヲ任命ス
- 第四條 各部ノ分掌事務概要左ノ如シ
- 一、庶務部
 - 一、文書ノ收受發送及保管ニ關スル事項
 - 二、記錄編纂及報告書ノ調製ニ關スル事項
 - 三、役職員及雇傭員ノ進退賞罰服務ニ關スル事項
 - 四、印章保管並ニ機密ニ關スル事項
 - 五、諸規程ノ制定及變更ニ關スル事項
 - 六、豫算ニ關スル事項
 - 七、會議ニ關スル事項
 - 八、寄附金品ノ採納ニ關スル事項
 - 九、各官衙其ノ他對外交渉ニ關スル事項
 - 一〇、協賛會トノ連絡及各種大會ニ關スル事項
 - 一一、出張ニ關スル事項
 - 一二、宿直ニ關スル事項
 - 一三、感謝狀ニ關スル事項

第一編 企畫準備

- 一八、解説書ニ關スル事項
- 一九、其ノ他出品ニ關スル一切ノ事項
- 三、宣傳部
 - 一、宣傳用船車廣告ポスター其ノ他宣傳用諸印刷物ノ發行頒布ニ關スル事項
 - 二、宣傳用立看板並ニ案内圖ノ建設ニ關スル事項
 - 三、繪葉書及四日市案内記ノ編纂調製ニ關スル事項
 - 四、自動車及空中宣傳ニ關スル事項
 - 五、民謡及映畫宣傳ニ關スル事項
 - 六、標語ニ關スル事項
 - 七、觀覽者誘致ニ關スル事項
 - 八、其ノ他宣傳報道ニ關スル一切ノ事項
- 四、經理部
 - 一、金錢出納並ニ保管ニ關スル事項
 - 二、使用料、入場料其ノ他料金徴收ニ關スル事項
 - 三、決算ニ關スル事項
 - 四、賣約金保管整理ニ關スル事項
 - 五、收入支出内譯日計表調製ニ關スル事項
 - 六、有料入場券及有料門鑑ノ出納並ニ販賣ニ關スル事項
 - 七、入場者日計表調製ニ關スル事項
 - 八、物品出納保管ニ關スル事項
 - 九、物品購入借入ニ關スル事項
 - 一〇、不用品處分ニ關スル事項
 - 一一、職工、人夫ノ傭入ニ關スル事項

- 一二、自動車、荷馬車等ノ傭上ニ關スル事項
- 一三、其ノ他ノ經理ニ關スル一切ノ事項
- 五、工營部
 - 一、會場用地ニ關スル事項
 - 二、陳列館其ノ他附屬建物一切ノ建設營繕並ニ土木ニ關スル事項
 - 三、自營建築物ノ検査監督ニ關スル事項
 - 四、設計監督ニ關スル事項
 - 五、製圖調製ニ關スル事項
 - 六、職工、人夫監督取締ニ關スル事項
 - 七、復舊工事ニ關スル事項
 - 八、式場設備ニ關スル事項
 - 九、電力瓦斯ニ關スル事項
 - 一〇、照明顯燈給水ニ關スル事項
 - 一一、植樹其ノ他庭園ニ關スル事項
 - 一二、通信設備ニ關スル事項
 - 一三、場内運動場娛樂設備ニ關スル事項
 - 一四、其ノ他工營ニ關スル一切ノ事項
- 六、警備衛生部
 - 一、會場内外ノ警備ニ關スル事項
 - 二、消防ニ關スル事項
 - 三、會場内觀覽人取締ニ關スル事項
 - 四、守衛夜警ノ取締ニ關スル事項
 - 五、各館錠前保管ニ關スル事項

處務規程

- 六、交通取締ニ關スル事項
- 七、風紀取締ニ關スル事項
- 八、遺失物取扱ニ關スル事項
- 九、一般衛生並ニ救護ニ關スル事項
- 一〇、場内飲食物ノ検査取締ニ關スル事項
 - 一一、掃除及撒水ニ關スル事項
 - 一二、糞尿及汚物處分ニ關スル事項
 - 一三、掃除人夫取締ニ關スル事項
 - 一四、其ノ他警備衛生ニ關スル一切ノ事項
- 七、儀式接待部
 - 一、儀式ニ關スル事項
 - 二、來賓及參觀人ノ旅館斡旋交渉ニ關スル事項
 - 三、來賓其ノ他送迎案内接待ニ關スル事項
 - 四、記念品贈呈ニ關スル事項
 - 五、各府縣事務所斡旋ニ關スル事項
 - 六、其ノ他儀式接待ニ關スル一切ノ事項
- 八、特營部
 - 一、特設館ニ關スル事項
 - 二、賣店、飲食店、廣告物等ニ關スル事項
 - 三、會場内外ノ個人興行物ニ關スル事項
 - 四、其ノ他特設館ニ關スル一切ノ事項
- 第五條 事務處理上必要ナル帳簿其他ノ様式ハ特ニ規定セルモノノ外ハ各部ニ於テ適宜之ヲ定ムヘシ
- 第六條 本會ニ到達シタル文書又ハ物品ハ庶務部ニ於テ收受

- シ各主務部ニ之ヲ配布スヘシ
- 第七條 現金有價證券其ノ他貴重品及重要書類ハ帳簿ヲ備ヘ主務部長ノ受領印ヲ徴シ其ノ授受ヲ明カニスヘシ
- 第八條 各部ニ於テ發案スル事項ハ總テ關係各部ニ合議スヘシ
- 第九條 各部ニ於テ處理セシ事項ハ其ノ顛末ヲ日誌ニ記錄シ翌朝庶務部長ヲ經テ事務總長ノ認印ヲ受クヘシ日誌ハ閉會後殘務整理濟ノ上之ヲ庶務部ニ引繼クヘシ
- 第十條 經理部長ハ閉會後二ヶ月以内ニ決算報告書ヲ作り會長ニ差出スヘシ
- 第十一條 庶務部長ハ閉會後六ヶ月以内ニ博覽會事務報告書ヲ作り會長ニ差出スヘシ
- 第十二條 市公告式條例ニ依リ告示スヘキ文書ハ庶務部長ヨリ之ヲ市庶務課長ニ回付スヘシ
- 第十三條 市會又ハ市參事會ニ提出スヘキ原案ハ庶務部長ヨリ市庶務課長ニ回付スヘシ
- 第十四條 執務時間ハ毎日午前七時ヨリ午後六時迄トス但シ事務ノ都合ニ依リ時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ
- 第十五條 出勤シタルトキハ出勤簿ニ捺印シ遲參ノ場合ハ遲參簿ニ出勤時刻事由及氏名ヲ記シ捺印ノ上主務部長ノ認印ヲ受ケ勤務ニ服スヘシ
- 第十六條 病氣其ノ他ノ事故ニヨリ缺勤セムトスルトキハ出勤時間前其ノ旨届出ツヘシ病氣缺勤一週間ニ及フトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出テ尙治癒ニ至ラサルトキハ一週間毎

第一編 企畫準備

ニ診斷書ヲ添ヘ届出ツヘシ
 第十七條 執務中病氣其ノ他ノ事故ニヨリ退出又ハ外出セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ直ニ届出ツヘシ
 第十八條 部長ハ各主管ノ文書帳簿、金錢、證券其ノ他ノ物件ニ付保管ノ責ニ任スヘシ
 第十九條 市内出張ノ必要アルトキハ事務總長ノ命ヲ受クヘシ出張中取扱ヒタル事務ノ顛末ハ歸着後文書又ハ口頭ヲ以テ直ニ復命スヘシ
 第二十條 宿直開始及廢止ノ時期ハ事務總長之ヲ定ムヘシ
 第二十一條 宿直ハ事務員中ヨリ二名及使丁二名ヲ以テ毎日之ヲ爲サシムモノトス
 第二十二條 宿直ハ庶務部ニ於テ順番ヲ定メ前日迄ニ關係者ニ通知スルモノトス但シ臨時變更ニヨリ即日通知スルコトアルヘシ

補助と後援

本會は、商工省、陸軍省、海軍省を始め本縣當局其他各方面の熱烈なる後援と懇切なる指導とを辱うしたが、特に經費に關して補助を仰いだのは左の通りである。

國庫補助

四博第五一九號

國產振興ヲ目的トスル博覽會費國庫補助申請書

現下ノ國際經濟情勢ニ鑑ミ國產ヲ獎勵シテ本邦輸出貿易ノ振興ヲ圖ル爲昭和十一年三月二十五日ヨリ同年五月十三日ニ至ル五十日間ヲ會期トシ本市ニ於テ國產振興四日市大博覽會ヲ開設可致候ニ就テハ國產獎勵ノ御趣旨ニ依リ特別ノ御詮議ヲ以テ相當補助金交付相仰度別紙關係書類相添ヘ此段及申請候也

昭和十一年六月十日

國產振興四日市大博覽會主催者

四日市市長 吉田勝太郎

商工大臣 町田忠治殿

(添付書類) 趣意書 博覽會々則 出品規程 館外土地使用規程 賣店使用規程 會場配置圖 事業計畫ノ概要
 自昭和十年度至昭和十一年度繼續費國產振興四日市大博覽會費收支計算表 昭和十一年度國產振興四日市大博覽會
 歳入歳出豫算書

商工省指令一〇工第五三九八號

國產振興四日市大博覽會主催者

四日市市長 吉田勝太郎

昭和十年六月十日附四博第五一九號申請國產振興四日市大博覽會經費ニ對シ昭和十年度ニ於テ金貳千貳百五拾圓交付ス

但シ左記ノ通心得ヘシ

昭和十一年三月十四日

商工大臣 川崎卓吉

記

一、補助金ハ申請書及附屬書類記載ノ事項ニ準據シ國產振興四日市大博覽會費ニ之ヲ充當スヘシ
 二、事業計畫ヲ變更セントスルトキハ豫メ當省ノ承認ヲ受クヘシ

補助と後援

第一編 企畫準備

- 三、商工大臣必要ト認ムルトキハ本事業遂行上必要ナル事項ヲ命スルコトアルヘシ
- 四、收支決算書並事業成績ハ本博覽會終了後遲滞ナク詳細ニ報告スヘシ
- 五、本指令條件其ノ他當省ノ發スル命令ニ違背シ若ハ事業計畫ヲ遂行セサルトキ又ハ經費支出額カ豫算額ニ達セサルコト著シキトキ若ハ計算上著シキ殘額ヲ生シタル場合ニ於テハ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ
- 六、補助金ハ指令請書ノ提出アリタルトキ之ヲ交付ス

縣費補助

四博第五二〇號

博覽會縣費補助申請書

現下ノ國際情勢ニ鑑ミ國產ヲ獎勵シテ本邦輸出貿易ノ振興ヲ圖ルト同時ニ本縣産業ノ實勢ヲ凡ク世人ニ紹介シ縣下産業界ノ進展ニ資シ併テ施設完備セル國際貿易港ノ面目躍如タル我四日市港完成記念事業トシテ昭和十一年三月二十五日ヨリ同年五月十三日マテ五十日間ヲ會期トシ四日市港頭ニ於テ國產振興四日市大博覽會開催可致候ニ就テハ産業獎勵ノ御趣旨ヲ以テ相當補助金交付相成様特別ノ御詮議相仰度左記關係書類相添ヘ此段及申請候也

昭和十一年六月十日

國產振興四日市大博覽會長

四日市市長 吉田勝太郎

三重縣知事 富田愛次郎殿

(添付書類) 趣意書 博覽會々則 出品規程 館外土地使用規程 賣店使用規程 會場配置圖 事業計畫ノ概要
 自昭和十年度至昭和十一年度繼續費國產振興四日市大博覽會費收支計算表 昭和十一年度國產振興四日市大博覽會歳入歳出豫算書

商第八二五號

國產振興四日市大博覽會々長

四日市市長 吉田勝太郎

昭和十年六月十日附四博第五二〇號ヲ以テ申請相成候補助ノ件聽屆ケ本年度ニ於テ金壹萬圓ヲ交付ス
 但シ左ノ通心得ヘシ

昭和十一年三月九日

三重縣知事 富田愛次郎

記

- 一、補助金ハ國產振興四日市大博覽會費ニ充ツル外他ニ之ヲ支出スルコトヲ得ス
- 一、事業ノ狀況並補助金ノ收支ハ該博覽會閉會後六箇月以内ニ報告スヘシ
- 一、經費ノ收支ニ關シ調査ノ必要アリト認ムルトキハ隨時検査ヲ行フコトアルヘシ
- 一、本指令ニ違背シ其他不都合ノ行爲アリト認ムルトキハ本指令ヲ取消シ既ニ交付シタル補助金ノ全部又ハ一部ヲ返還セシムルコトアルヘシ

商第八二五號

國產振興四日市大博覽會々長

四日市市長 吉田勝太郎

昭和十年六月十日附四博第五二〇號ヲ以テ申請相成候補助ノ件聽屆ケ本年度ニ於テ金壹萬七千圓ヲ交付ス
 但シ左ノ通心得ヘシ (條件同前)

昭和十一年四月廿五日

三重縣知事 富田愛次郎

補助と後援

協賛會組織

博覽會の側面にあつて博覽會と不即不離の聯繫を保ち、大衆吸引策の考究、來賓觀覽者の接待、餘興の經營等博覽會の事業を潤色して其成功を助成するのは協賛會の使命である。我が四日市大博覽會の開催に關しては、四日市商工會議所は豫て同一意志のもとに開催を期待されてゐたもので、昭和十年五月三十日市會の議決を経て正式に開催の決定を見るや、伊藤會頭以下役員は種々協議を遂げられ、同年七月九日、市長、會頭發起人となり、協賛會創立協議會を開催する運となり、市會議員、商工會議所議員、町總代正副會長、商工會正副會長、築港利會正副會長等の集合を請ふた。同日午後一時市役所議事堂に於て開會、吉田市長議長席に着き協賛會趣意書並に會則を審議し、満場一致を以て協賛會創立を決議し、協賛會規則に基き商工會議所會頭伊藤傳七氏協賛會長に就任の事に決定、同氏より會長就任の挨拶があつた。茲に國産振興四日市大博覽會協賛會は目出度成立した。この重要な大組織が、かくも和衷協同の誕生を見しことは、如何に市民が博覽會に好感を寄せてゐることを窺ひ知ることが出来る。かくて各部主任役職員を決定し、引續き、寄附金募集、宣傳、其他の協賛事業に邁進せられた。而して役職員の數は會長、副會長、參與、理事、評議員、委員等九百餘名と註せられたが、重なる役員は左の通である。

國産振興 四日市大博覽會協賛會役員

會長	商工會議所會頭	伊藤傳七	募集部長	參與	與	九鬼金平
總務部長	副會頭	堀木忠良	宣傳部長	同	同	同
經理部長	常任理事	田中武	接待部長	副會頭	九鬼紋七	

餘興部長	常任理事	小菅弘	宣傳副部長	同	鳥海善衛
總務副部長	同	永田利一郎	同	同	寺島竹治郎
同	同	廣瀬勘平	同	同	須藤忠藏
同	同	伊濱吉次郎	接待副部長	同	榎並越夫
經理副部長	同	笹岡伊三郎	同	同	藤澤常吉
同	同	鈴木木庄松	同	同	久保村清高
同	同	鷲野宗五郎	餘興副部長	同	絹笠清七
募集副部長	同	伊達貫一郎	同	同	鹽冶助太郎
同	同	熊澤龍太郎	同	同	川村松次郎
同	同	村山清八	同	同	

事務局設置

本會の參謀本部ともいふべき事務局は、準備事務について昭和十年六月一日蓑浦事務總長をはじめ係員の任命と共に市廳舎内に設けられ、廳舎内に於て、會務を進行し、出品勧誘、宣傳等漸次工作進行し、會務の繁忙と共に係員の數も増大強化を圖つた。昭和十一年一月十五日會場建設の必要より工營部他に先んじて會場内に移轉し會場建設に伴ひ自然會場との連絡上不便を生ずるに至つたので、同年二月廿四日事務局全部を會場内に移し、會期中の本據と定めた。其の間職員に多少の異動もあつたが大要は左の通である。

事務局職員

事務總長 主事 蓑浦 二郎
事務局設置

第一編企畫準備

庶務部

部長 藤生正介

副部長 書記 藤田榮三郎

部員

書記 水谷清四郎 同 水谷嘉郎 同 米富貢

同 中村巖 同 西脇寅藏 同 五十棲藤太郎

同 高士惣之丞 同 柳藤七 同 杉谷留三郎

同 寺内義毅 同 桐生隄 同 棚瀬千代子

同 村瀬とし 同 加藤すて 同 佐藤鈴子

同 多田多 同 日沖まつゑ 同 角波清子

同 清水花子 同 井保興

出品部

部長 主事 酒井保興

副部長 技手 山本鐵次

部員

書記 諸岡保太郎 同 伊藤林一 同 生川榮一

同 中村山郎 技手 小林金之助 書記 奥野嘉博

同 高橋主税 同 土岐正康 技手 片岡吉春

同 竹内芳郎 同 野崎泰三 同 中村泰

同 岡田晃 同 星秀世 同 前川清太郎

同 春日部秀山 同 田中保二郎 同 服部孝

宣傳部

部長 主事 西正一郎

副部長 前主事 川瀬仁吉

書記 森新八

部員

書記 伊達實 同 宇野董 同 野呂正二

同 紀太峯雄 雇 鈴木大三 同 平松嘉十郎

同 須藤宗一 同 澁谷定一 同 川口孔

同 大矢徳太郎 同 田中太郎 同 牧野敏夫

同 大鳥重雅

經理部

部長 前收入役 國安院武之助 收入役 白木佳郎

副部長 書記 山田喜市

部員

書記 武藤正近 同 松岡清八 同 富永賢三

同 村木喜代次 同 生川半四郎 同 川田利一

雇 畑恒吉 同 後藤友右衛門 同 山岸光雄

同 村木ひさ子 同 鈴木喜久枝

工營部

部長 技師 小田川多利松

副部長 同 夏池春吉

部員

書記 宮崎耕三郎 技手 齋木慶太郎 書記 水野正憲

同 伊藤英雄 技手 福間榮悅 同 中森留次郎

同 西川千太郎 同 深津宗三郎 同 山菅喜美男

同 松本千一 同 奥井忠太郎 同 松本忠良

同 白木正夫 同 樋口守 同 市河義雄

雇 村木正一 同 喜多幸男

事務局設置

第一編 企畫準備

警備衛生部	技手 生澤慶二郎	囑託 松田吉治	同 木塚清
	同 福井力松	同 中山庄助	
部長 主事 内山猛雄			
副部長 技師 鈴木美信			
部員	書記 伊東忠一	同 藤林長一	同 松林信男
	技手 中尾武夫	書記 坂崎三四郎	巡視 今井重一
	同 橋本卓男	同 伊藤信吉	同 廣田米一
	雇 駒田早苗	同 柳田景正	同 伊藤繁太郎
	集金人 伊藤甚太郎	同 米倉林吾	
儀式接待部	部長 主事 樋口兼吉		
	副部長 書記 三宅蜜治郎		
部員	書記 石田宗作	同 中山萬十郎	同 藤田喜則
	同 村山松之助	同 中村武郎	同 森田政右衛門
	同 山本長太郎	同 河合涉	同 石川文靈
	同 長谷川芳郎	同 辻藤一郎	同 北川渡
	同 藤井善三郎	同 出口鐵郎	同 西川捨男
	同 近藤捨	同 山路文三郎	雇 丹羽新一
	同 白井正秋	同 荒木岡治郎	同 横山貞市
	同 伊東萬七	同 高木はつゑ	

守衛看守女事務員の採用

昭和十一年一月十八日、守衛、看守、女事務員の採用内規を定め之を募集した内規は左の通である。

守衛看守女事務員採用内規

- 一、採用人員
- 守 衛 三十名。看守 百貳拾名。女事務員 五名
- 二、採用資格
- 守 衛 高等小學卒業以上ノ學歷ヲ有スル年齢滿貳拾歳以上四拾歳以下ノ男子
- 看 守 同上年齡滿十六歳以上貳拾五歳以下ノ女子
- 女事務員 高等女學校卒業(本年三月卒業見込者ヲ含ム)以上ノ學歷ヲ有スル年齢十七歳以上三十歳以下ノ女子
- 三、採用條件
- 本人身元證明書ヲ徴シ市内ニ確實ナル身元保證人一名ヲ要ス
- 守衛看守女事務員の採用
- 四、採用期日 自昭和十一年三月二十日至同年五月十八日
- 五、採用考査 各採用資格(學歷)程度ニヨル口頭試問體格檢査
- 六、志願手續及期日 履歷書添付志願書ヲ一月三十一日迄ニ
- 四日市役所内四日市市職業紹介所宛提出
- 七、考査期日 守衛ハ二月七日午前九時ヨリ看守ハ同日午前十一時ヨリ女事務員ハ同午後三時ヨリ
- 八、採用發表 各本人ニ採用通知ヲ二月十五日迄ニ發送ス
- 九、願書様式 (略)
- 三、給 料
- 守 衛 日給平均 壹圓參拾錢



第一編 企畫準備

看守 同 七拾錢
 女事務員 同 壹圓
 二、勤務時間
 守衛 自午前六時半 至午後六時(宿直勤務)
 看守 自午前七時 至同
 女事務員 同

三、試驗委員
 委員長 加藤助役
 委員 蓑浦主事 藤生主事 酒井主事
 內山主事 山本技手
 委員會書記 諸岡書記 水谷嘉書記

看守人の配置

看守人の配置は、各館の主任者及責任者に依て、多少の異動あるも、標準として十小間を以て一人の看守人としたのである。即ち即賣箇所多少にも依り、又出品者の費用によつて増員された箇所もあり、爲に小間數のみが唯一の標準でない事は勿論である。左記は當初の概數であつて、其後の異動は勿論である。

産業本館一號館	二五人	海港館	四人	蠶絲館	六人
同 二號館	一二人	歴史館	四人	萬古陶磁器館	六人
同 三號館	一二人	觀光館	四人	臺灣館、滿洲館、朝鮮館、四日市館、 農林機械館及協贊會主催の有料館等 は各自營看守を置いた。	
三重縣館	一九人	ミイラ館	一人		
國防館	八人	東京館	六人		
近代科學館	七人	ラヂオ館	四人		
佛敎館	六人	南洋館	四人		

第二編 工 營

會 場

敷 地

貳拾有六の星霜と經費壹千萬金を投じて完成したる我が四日市港修築事業を記念とし、國產振興、貿易躍進を策して以て此の社會的恩恵に酬いんとするのが我が大博覽會開設の趣旨である。されば其の會場を四日市港頭に定むることは、最も時宜に適ひたることであり、而も其の敷地の廣袤實に五萬坪を以てしたることは、各種工營物の按排配置に餘裕あらしむるに於て、工營關係同人の感激踊躍に堪へぬ所である。

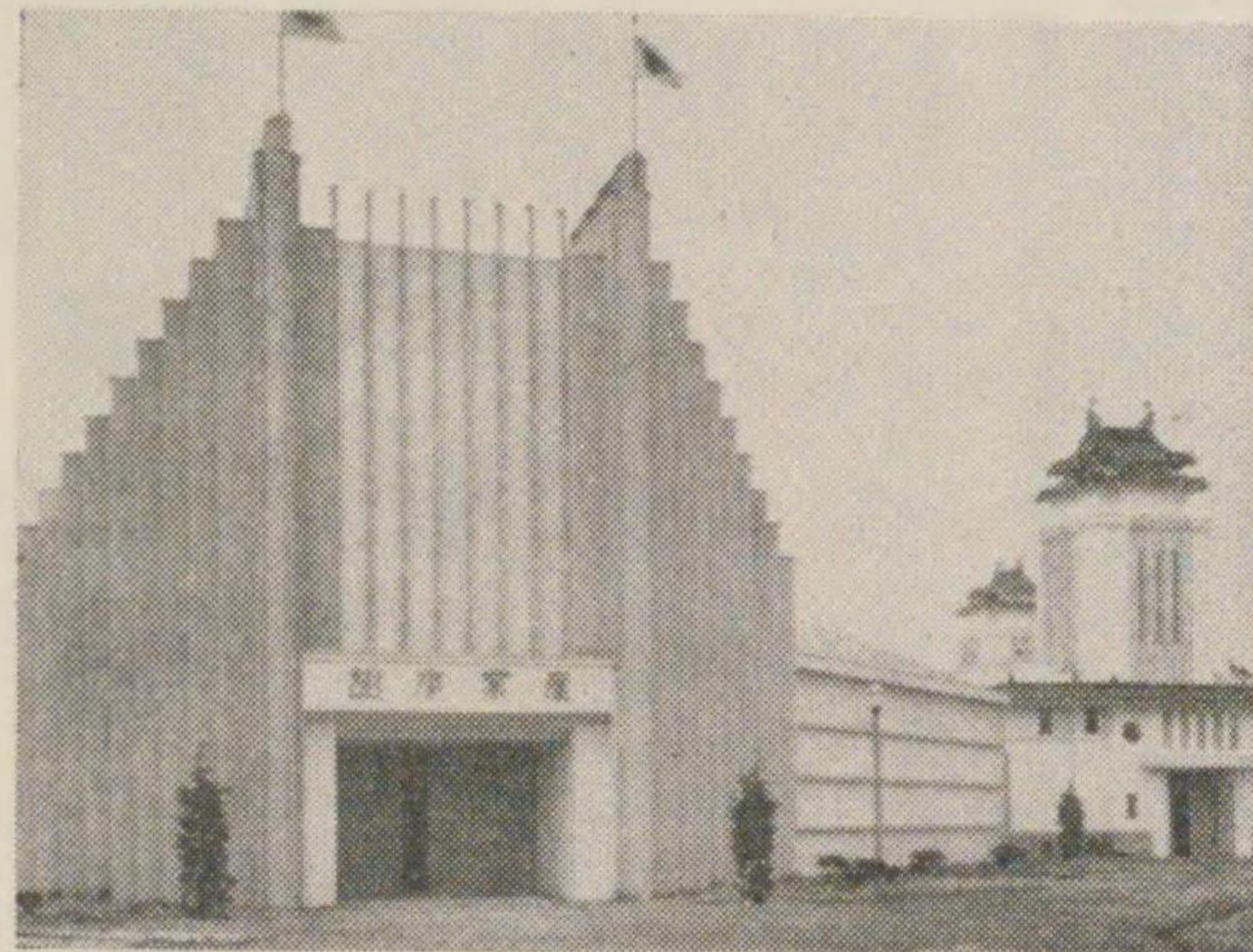
本會場は、西に秀麗なる鈴鹿連峯を眺め、港灣施設の完璧の爲に恩賴を賜ひたる神風の伊勢の海の奥深く、旭日ゆたかに輝きて金龍躍る四日市港に面し、東方遙に模糊として尾三の連山を望む景勝の地である。而して、縣道を距て、東西に會場を設け、陸橋により巧に兩會場を連結せしめたのである。該敷地は其の一部は縣有他の一部は民有に屬するを以て、先づ縣の諒解を求め、一面民有地は其の所有者と交渉の結果、所有者の多大の厚意に依り無償貸與として借入契約を締結し得たことは、本會の感謝措く能はざる所である。

會 場 の 配 置

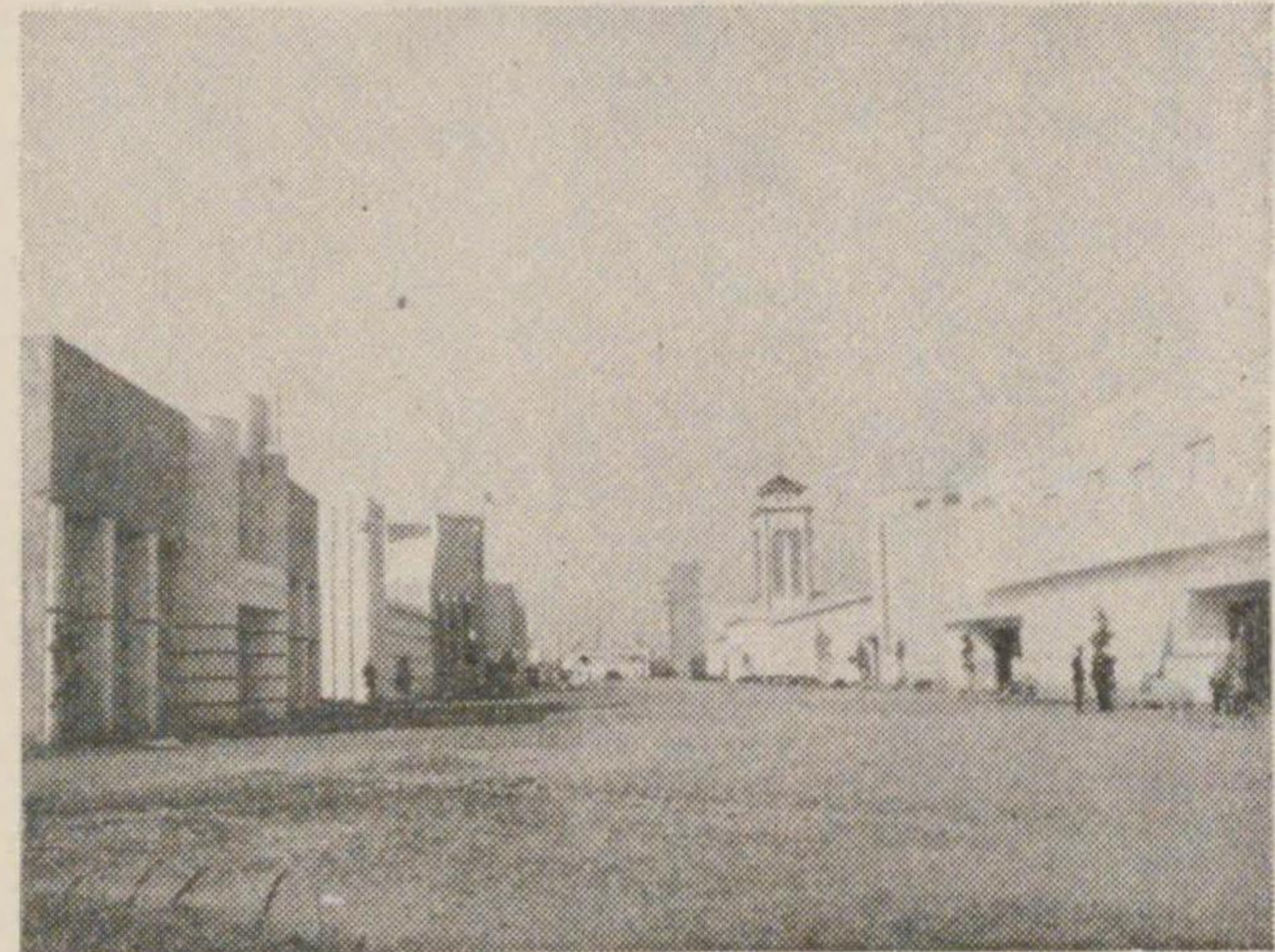
省線四日市驛より博覽會の爲に舗装せられた道路上停車場に近く色彩華麗にして豪壯なる歡迎門を建て、それ

より近き將來大廈高樓の櫛比し行人雜沓の巷となる港道兩側には蜿蜒會場に至る數町に誘導塔を建設し、正門前兩側には場外賣店を設けた。千歳橋を渡れば放射線狀に天空を摩する雄大なる正門は巍然として中空に聳え、左右兩翼下に切符賣場を設置した。

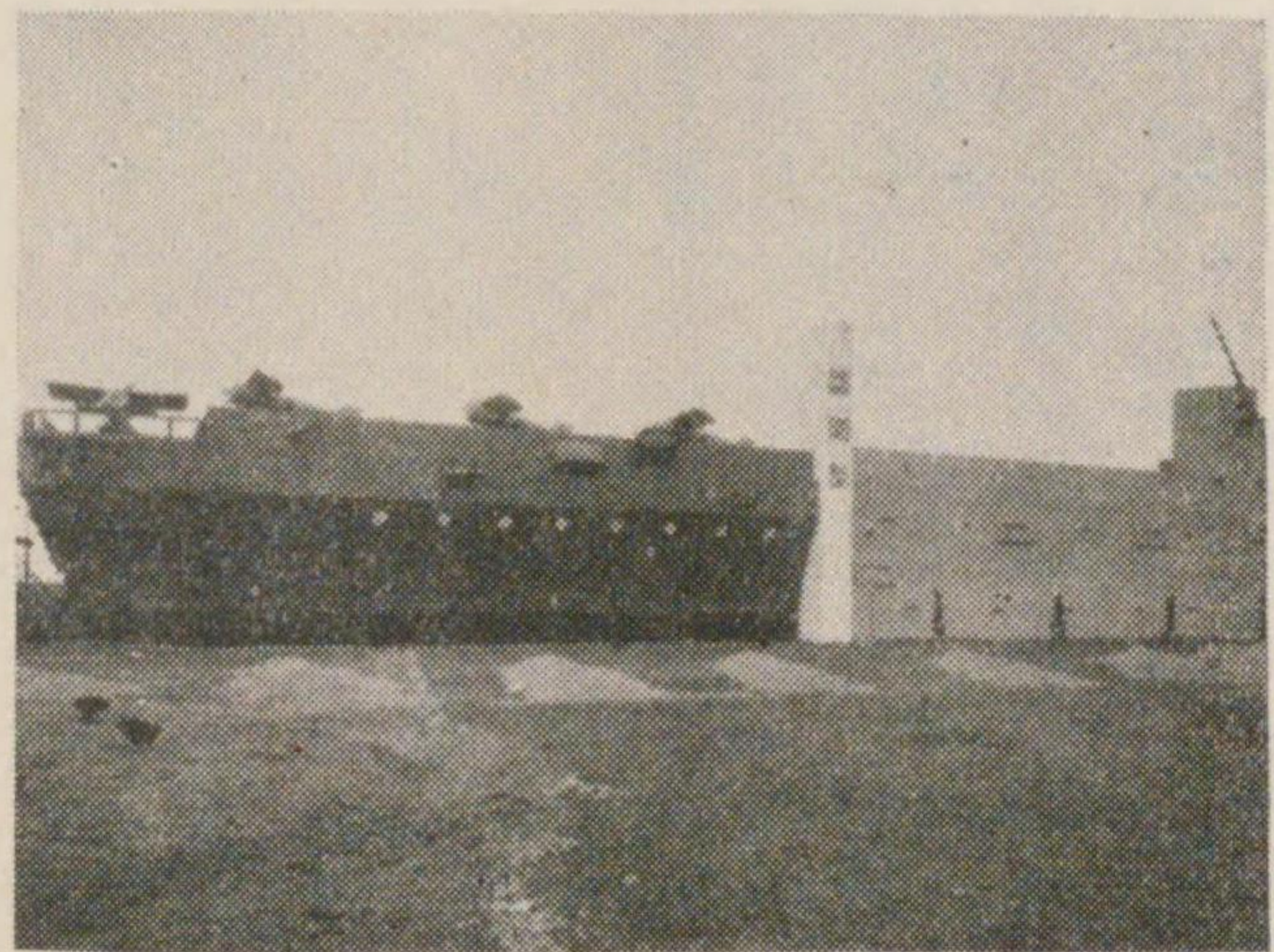
正門を過ぎ左して東會場の改札口を入れれば滾々として清水を噴く大壁泉を右に眺め、近代文化の一大殿堂を誇る産業本館第一號館あり、道路の右側には産業本館第二號館第三號館あり。産業本館第一號館に隣して近代建築美を誇る近代科學館、次に高連山地の中段に熱帶植物繁茂する南の寶庫臺灣を物語る臺灣館あり。日本帝國の興廢を賭けた無盡の資源を包蔵する滿洲國の産業風俗を展示し、支那式建築の輪奐の壯麗と共に一層其の偉容を發揮する滿洲館、遙か正面に東京館あり、滿洲館を右折して百濟文化を顯現する青丹の色美しき極彩色の朝鮮館、



館 本 業 産



館 京 東 ・ 館 學 科 代 近



館 防 國

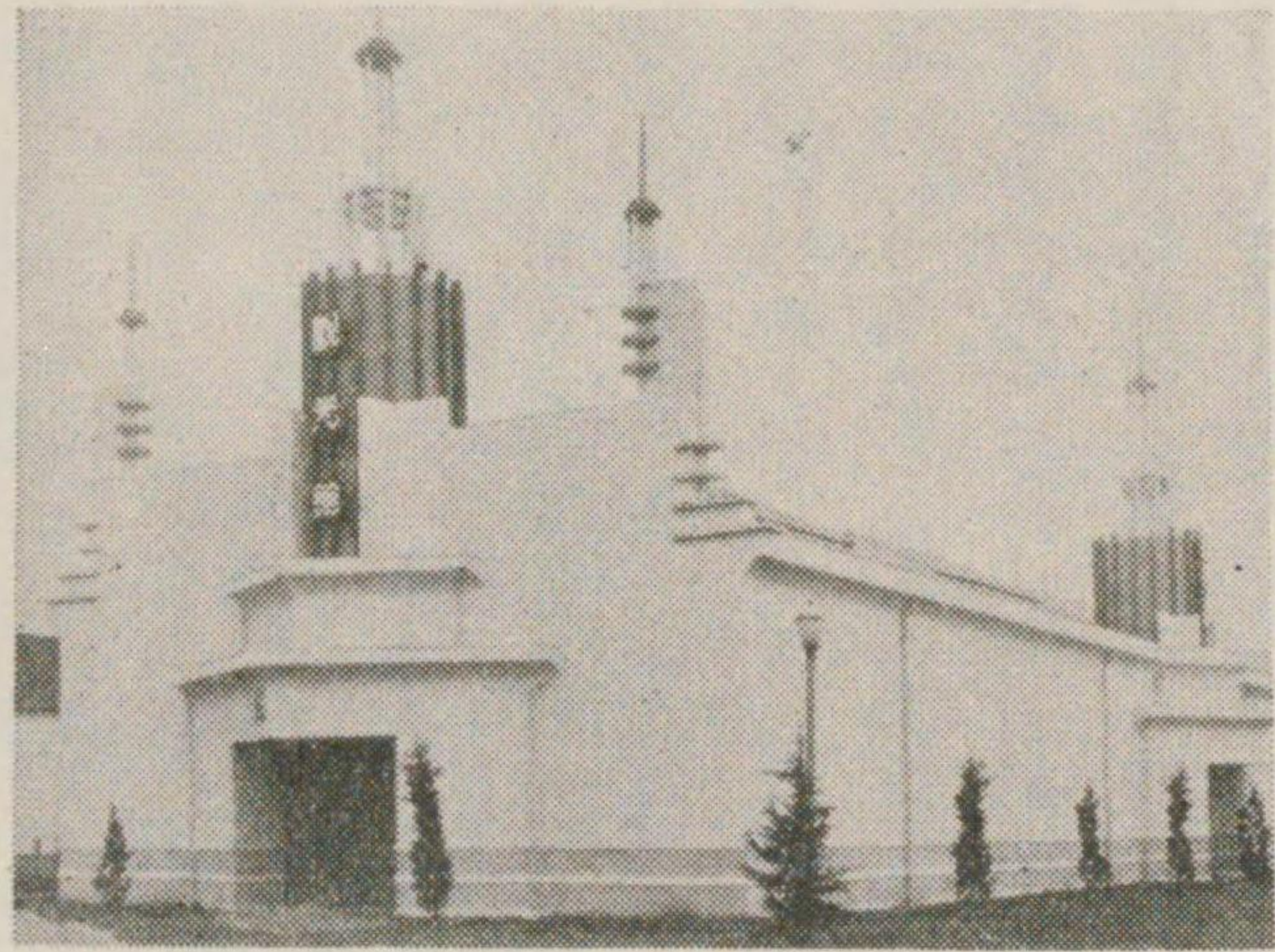
現下非常時を強調する國防館を繞りて海國日本を現實に認識せしむる海港館あり。次にミイラ館を配し、國防館の前道路を距て、表に熱帶植物を配し、内部南洋諸島のパノラマと建築の様式とは巧に我國海の生命線を知らしむる南洋館あり。次に金鯨燦として輝く愛知名古屋館を見る。産業本館二號館の後部にラヂオ館あり、其の間に瀟灑なる休憩所を配し、後方に演藝館あり、正面右手に日光館、海女館等の特設館を位置せしめ、此間に休憩所飲食店等を整然と配置した。又防波岸壁を利用して生鯨館を設置し、其北側海面に向つて伊勢灣を一眸の内に望み得べき展望臺を建設し觀衆の疲勞を醫するオアシスたらしめた。

産業本館二號館の背面より左折して盆栽植木の逸品を陳列し、斯道の愛好家をして垂涎たらしめた。趣味の園特設館國産振興館及び新聞館を左右にして西會場に至る陸橋を架設した。

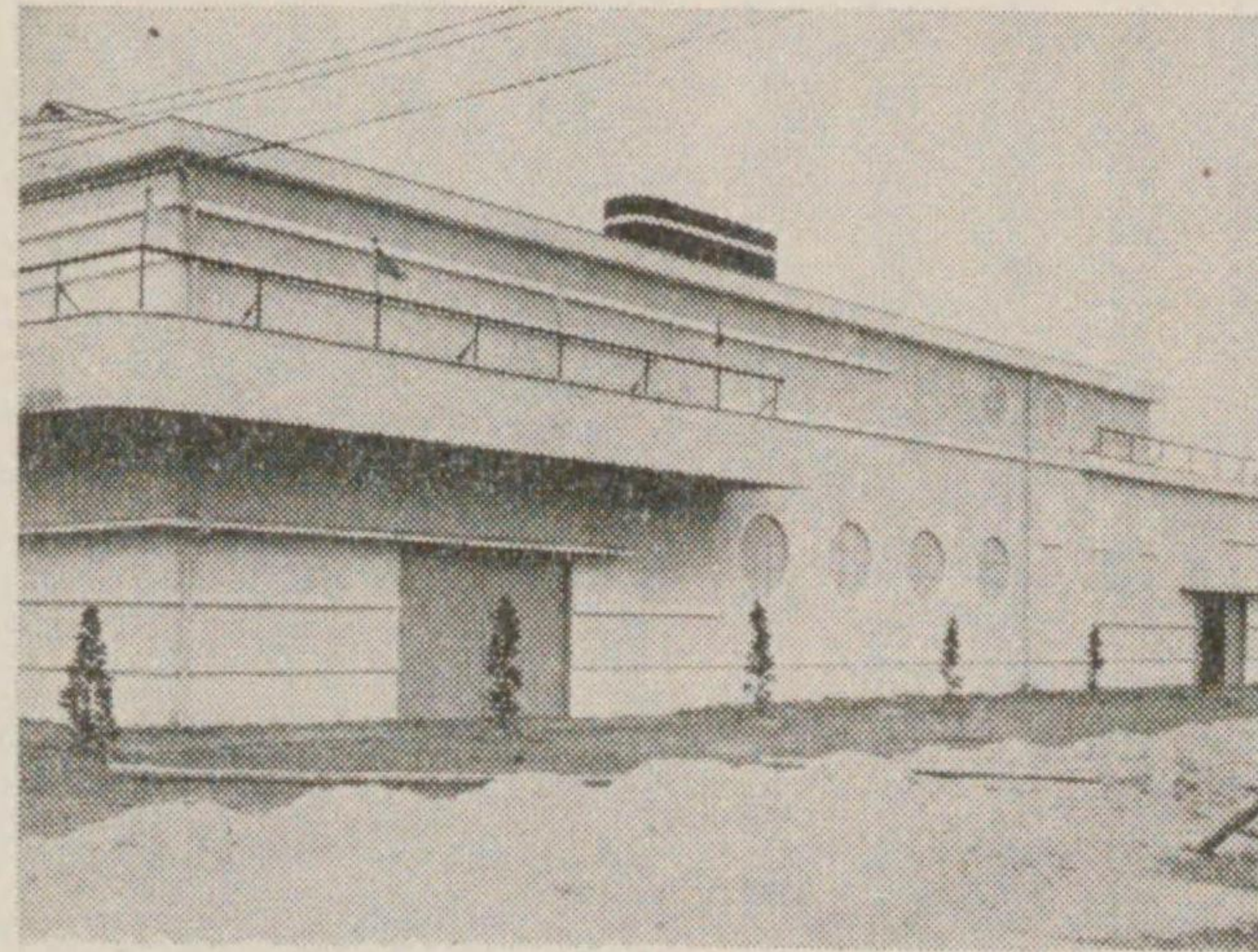
西會場を正門右手の改札口より入れれば西側に場内放送塔あり、流れ出づるメロディは觀衆の心を浮き立たせ、壁泉より間斷なく放出する水簾は晃々として壁面に映じ自ら清涼の感を覺えしめる。西側運河に沿ひ三重縣館東に觀光館を置き、郷土特産萬古燒の竈を摸したる異彩を放つ萬古館、南端に外國餘興場を設け、正面東にスマーナ肥料館あり。臨港線の鐵道踏切を渡れば絢爛たる物質文明に陶醉せる觀衆は佛陀より心魂に呼び掛けられ、襟を正して飄然と人生の眞面目を認識し自覺の境地に導く大佛像と佛教館あり。東南の一角を占めて放射式の座席を有し絶えず各種の演藝を以て觀衆にデビウする野外演藝場、前方右側に蠶絲館左側に歴史館あり。其前方に市内日刊新聞社共催に係る子供の國あり。羊毛工業館に隣して農林機械館、前方道路を距て、四日市商工館あり其間に休憩所、喫茶店飲食店等を配置し、花卉樹木を植ゑ、千紫萬紅の花壇を配した。

東西兩會場を繋ぐ陸橋上に立ち正門を正面に左右會場を見れば、各館それら各種各様の姿態を以て、各其の特色を發揮し、外部の色彩は、點綴せる緑の植樹と群青の天空と相映じて眞に壯麗極りなき偉觀であつた。其の他會場に配置したる建物は正門を過ぎ直行して一町の街角にある既設建物を利用し事務局を置き、事務局と正門

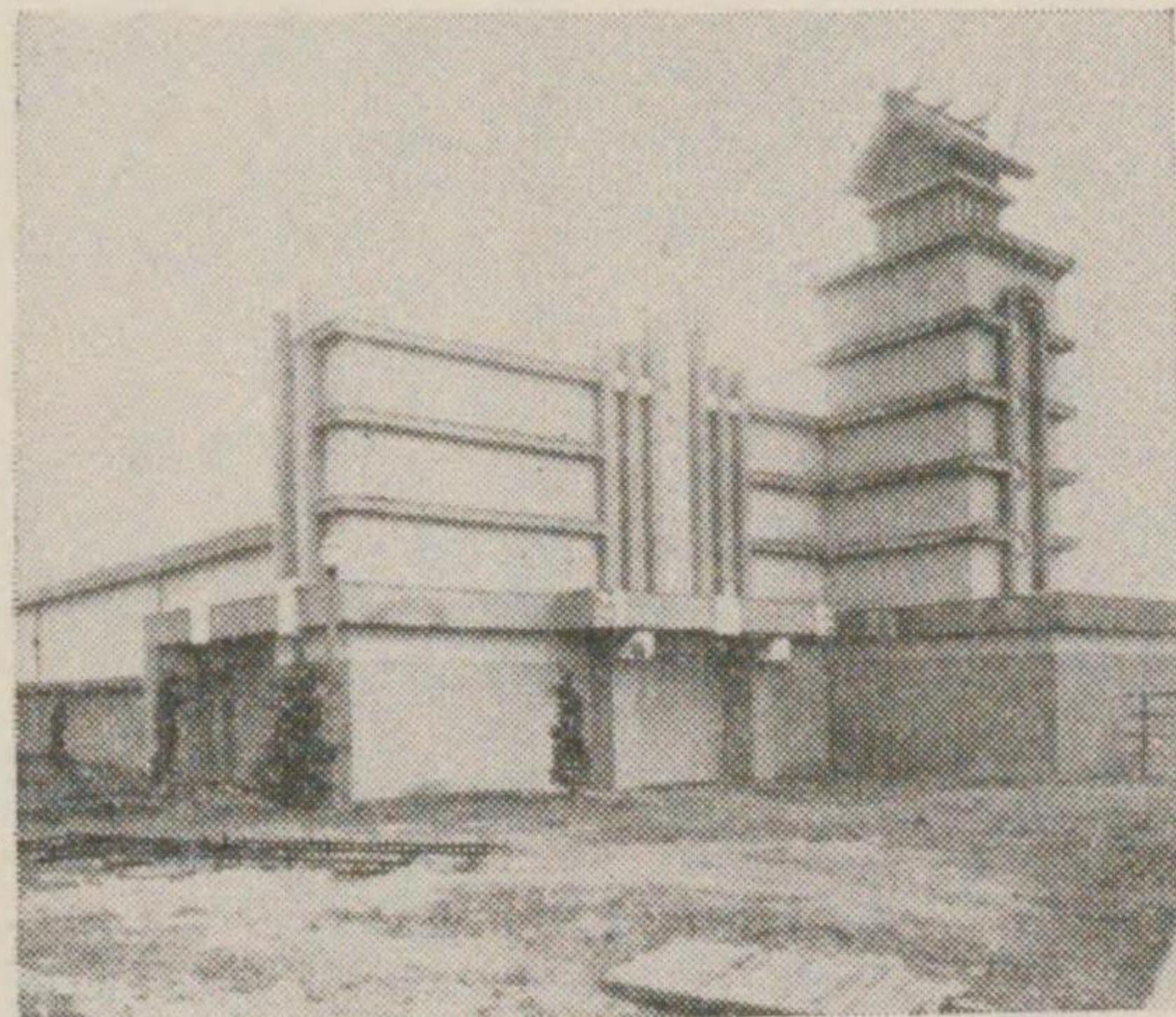
との間縣道北側に郵便局出張所、警察官派出所、消防手詰所等を配置した。其他の諸建物は一々之を列記するの繁を避け巻頭配置圖を以て之に代へることとした。



館 光 觀



館 港 海



館 縣 重 三



館 教 佛

建 築

設計の概要

抑も博覽會の設備は短日月の使用に供せらるゝに過ぎぬものである故

に本會も會期五十日の使用に堪へるに足る設備を目的として設計したのである。其の構造は概して木造假建築化粧小屋とし、屋根は板張の上に亜鉛引小波板鐵板葺、一部建物は「ルーフィング」葺とした。而して本會場は臨港地なる故に春季強風の襲來を考慮し、三重縣築港事務所の風速測定表を参照し、風壓に對する強度計算の下に構材の寸法を定め筋違方杖撥打等緊結金物を充分に使用し、地杭は地松末口四寸長十二尺以上と定め杭と土臺との連絡は柱と共に内外面より短冊鐵を用ひ、「ボールド」締とし更に添杭は地下六尺乃至九尺迄掘下げ筏、算盤或は根搦み地形の上に構築し、出來得る限り堅牢を計り、會期中の萬全を期した。

壁體は柱及間柱胴差等の外に筋違を入れ外壁は葎簾張或は貫下地等を混用し漆喰塗とし、仕上は「ガンマー」又は色漆喰仕上とし、床は三和土叩とした。

上記の如く風壓より來る堅牢の度を考慮し、又大體に於て梁及び小屋組等を工程能率上一律としたる爲に之から來る單調さを救ふ爲特に正面入口の裝飾に意匠を強調し變化を求め各館の夫々に特異なる表現を與へ壁面は單色或は數色の「カセイン」塗とし立體的の陰影と色彩の調和とはよく之等の缺點を補ひ會場を美化せしむることとしたのである。

工事の施行

工事の施行は總て請負とし公入札及指名入札として市内居住の主なる請負人と特に博覽會建築に經驗ある請負人數名を市外より選定參加せしめて入札をなさしめ、而して最低入札者を落札人として工事を下命し入札に關する心得は三重縣工事執行規程を準用し、工事契約は總て賃貸借契約とした。賃貸借契約書は左の通である。

賃貸借契約書

四日市市主催國產振興四日市大博覽會ニ必要ナル建物ニ付賃借人國產振興四日市大博覽會長四日市市長吉田勝太郎ヲ甲トシ賃貸人 ヲ乙トシ賃貸借契約ヲ爲スコト左ノ如シ

第一條 賃借建物ノ場所 四日市市千歲町一番地
第二條 賃借建物ノ名稱及用途
國產振興四日市大博覽會
別紙圖面及仕様書之通り

建坪 坪 合 棟

第三條 賃借料金

第四條 契約保證金

第五條 賃借建物ハ契約締結當日ヨリ五日以内ニ工事ニ着手シ昭和 年 月 日迄ニ竣功スヘシ

第六條 乙ハ契約後直ニ工事進捗ノ工程表ヲ提出シ同表ト相違ナク竣功スヘシ但シ甲ニ於テ工程表ニ不當ト認ムルモノアルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ

第七條 甲ハ乙カ竣功期限内ニ工事完成ノ見込ナシト認ムルトキハ甲ハ乙ニ代リ之ヲ施工ス

・前項ノ費用ハ之ヲ乙ノ負擔トシ甲ヨリ乙ニ支拂フヘキ金額ヨリ之ヲ控除ス

第八條 賃借建物ノ竣功シタルトキハ其ノ旨届出係員立會ノ上之カ受渡シヲナスヘシ

第九條 前條建物ハ受渡シノ日ヨリ 日間甲ニ於テ之ヲ

使用ス

第十條 使用中ニ於ケル賃借建物ノ破損雨漏其ノ他ノ事故ヲ生シタルトキハ甲ノ指示ニ從ヒ乙ノ費用ヲ以テ速ニ復舊修理ヲナスヘシ

前項ノ場合ニ於テ甲ノ指示ニ從ハサルトキハ甲ハ乙ニ代リ之ヲ施工シ之レニ要セシ費用ハ乙ノ負擔トシ甲ヨリ乙ニ支拂フヘキ金額ヨリ之ヲ控除ス

第十一條 天災事變水火災ノ爲賃借建物ニ危害ヲ及シ又ハ危険ノ虞アルトキハ乙ハ適當ノ修理及最善ノ防禦工事ヲ施工スヘシ若シ甲ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當施工スルコトアルヘシ但シ之ニ要セシ費用ハ乙ノ負擔トシ甲ヨリ乙ニ支拂フヘキ金額ヨリ之ヲ控除ス

第十二條 賃借建物使用後乙ハ 日以内ニ該建物ヲ撤去シ敷地ヲ原形ニ復舊スヘシ

前項期間中正當ノ事由ナクシテ賃借建物ヲ撤去セサルトキハ甲ハ乙ニ代リ之ヲ施工ス

前項ノ場合ニ要セシ費用ハ乙ノ負擔トシ甲ヨリ乙ニ支拂フヘキ金額ヨリ之ヲ控除ス

第十三條 賃借料ハ左記ノ通り支拂フモノトス

第一回 4/10 棟上終了後

第二回 5/10 工事竣功引渡シ終了後

第三回 1/10 博覽會終了復舊工事完了後

第十四條 契約保證金ハ博覽會終了復舊工事完了後還付ス

第十五條 賃借建物ハ甲ノ承諾アルニ非ザレバ乙ハ之ヲ他

人ニ讓渡スルコトヲ得ス

第十六條 前各條ノ外總テ大正十三年十月二十八日三重縣告示第四百九十九號三重縣工事執行規程ヲ準用ス

第十七條 乙ハ甲ノ爲ニ第二條ノ建物ヲ第三條以下各條ノ條

起工及竣功

會場建設物の配置、建築設計既に成れる昭和十年十二月上旬、産業本館一、二、三號及海港館を始として順次請負に付し、同月中旬漸く起工を見るに至つた。斯くて工事期間は開會迄僅々二ヶ月餘を有するのみで、而も本年は十數年稀なる嚴寒に際會し、荒天風雪相踵で襲來し四日市港頭廣袤五萬坪の空地は防風の遮蔽物の何物も無い。寒氣凜烈なる作業場に於ける工程は遅々として進まず。工營部員は焦燥と杞憂の日を重ねたが工事請負人の責任感と最後の努力により克く此の難局を打開し、最終の旬日に於て工程頗に進捗し、開會當日迄に工事の竣功を見るに至つたことは本會工事の大なる成功として他に誇示する次第である。是等重なる建設物の工程を示さば左の通である。

建設物工程一覽

建設物	着手年月日	竣工年月日	請負人
表示塔	十年八月九日	十年八月卅一日	黒崎城平
産業本館第一號	同 十二月廿八日	同 十一月廿八日	八日市屋清太郎
同 第二號	同	同	同
同 第三號	同	同	同
海港館	同	同	同
近代科學館	同 十二月廿二日	同 二月廿六日	理工社今野實

觀光館	十年十二月二十二日	十二年二月廿六日	理工社今野實
三重縣歷史館	同	同	同
三重縣防館	十一年一月九日	二月廿八日	八日市屋清太郎
國防館	同	三月十一日	乃村工藝社乃村泰資
佛敎館	同	二月廿八日	同
ラヂオ館	同	二月二十日	黒崎城平
野外演藝場	同	三月十五日	同
東京館	二月二十日	三月十五日	理工社今野實
正符賣場	同	三月二十日	同
守衛兼電氣係員詰所	二月七日	二月廿五日	伊藤千太郎
改札口	二月廿九日	三月二十日	乃村工藝社乃村泰資
警官消防詰所	二月三日	三月十五日	伊藤千太郎
會場周圍外堀	同	三月十五日	同
東驛前案内場	同	三月廿四日	同
ミイラ館	同	三月廿四日	池田卯之助
會場内植樹及花壇	同	三月廿四日	光本彦一郎

主要建物の構造

産業本館第一號館

本館は東會場改札口を入つて正面左に位置し東に向つて建設した。言ふ迄もなく第二、第三號館と共に産業日本の粹を集めた文化の殿堂に相應しく東洋趣味を以て其の威容を示現すべく設計に際し、特に意を用ひた。建坪五百坪、桁行三百六十尺、梁間四十八尺の木造平家建とし塔屋を付し屋根は小波板鐵板葺、一部スカイライト装置軒高地盤上より軒桁上端迄十九尺、總棟高三

十尺、塔屋を七十二尺とした。外壁は葎簀下地漆喰仕上色漆喰仕上とし正面支關南側入口は貫下地白漆喰仕上とし塔屋は貫下地ラス張白漆喰仕上柱形木部はガンマー塗正面側面軒高パラベット上端迄四十二尺正面中央の塔は高く中天に聳へ嚴として會場を俯瞰し、其色彩の美は碧空と相映して豪壯なる建築美の表現である。

産業本館第二・第三號館

本館は産業本館第一號館の正面に路を距て、建設し、左は二號館右は三號館を配置した。一號館の東洋趣味を基調としたるに對し之は西歐建築の粹を取り立體的感を深める、線は一號館と對立する様建築美の調和に考慮した。建坪は夫々二百五十餘坪、平家建切妻造り屋根小波型鐵板葺塔屋建パラベット桁行西側棟九十九尺、二號館北面三號館南面棟は各桁行百八尺、梁間四十八尺にて軒高地盤上より軒桁上端まで十九尺、總棟高三十尺とし正面入口塔屋パラベット上端迄四十二尺二號館南側三號館北側妻入口パラベット上端迄地盤上より三十六尺正面塔屋パラベットは一號館と均衡を取る事に努めた。

三重縣館

本館は西會場改札口の右手東に面して建築し三重産業の粹を集め神宮所在地を表示する爲屋上に社殿を安置し、外部裝飾には歴史三重を物語る神寶鏡を配して建物全體をして森嚴さを表現せる様式である。運河に映する投映は千歳橋上より見る者をして一幅の繪巻物を見る感を抱かしめた。

桁行二百五十二尺、梁間四十八尺、建坪三百五十一坪七合五勺にて軒高地盤上より軒桁上端迄十九尺、總高三十尺にて屋根は亞鉛引小波板一部「ルーフィング」並に平板張りスカイライト装置とし外部漆喰塗正面及左右入口は貫下地漆喰塗色漆喰仕上とす。塔屋は下部を三間四方上部を一間四方中央部に於て二間四方とし總高地盤上より五十四尺外部貫下地ラス張漆喰仕上色漆喰柱形は蛇腹彫刻物鏡型等はガンマー塗仕上とした。

海港館

本館は東會場防波岸壁を背面に西方に向つて建設し汽船のメーデンデッキを模し平凡なる内に海港館としての使命を充分に發揮し得る様考慮を拂つて設計した。木造平家建建坪百六十八坪、軒高地盤より軒桁上端迄十六尺七寸乃至二十五尺、桁行百二十六尺、梁間四十八尺屋根ルーフィング葺一部スカイライト装置外部色漆喰仕上とす。

屋根勾配の殆んど無き本館の如き建築物の堅牢さを具現せしむるに特に考慮しトラスを組んで棟を支ふるに中心柱二本と通り柱に方杖を以てのみ屋根全體より来る重壓を支持し二本の内部柱が出品裝飾に障害を來さなかつた事は出品配置と相容れた建築である。

近代科

近代科學の精華を網羅し躍進日本の科學陣の進歩發展は本館によつて知る事を得る内容を有する館として検討の結果平凡中に斬新を求むべく考慮し近代様式の外觀を採ることとした。木造平家建切妻造り軒高地盤上より軒桁上端迄十九尺總高三十尺、間四十八尺、桁行百五十尺にて建坪二百坪屋根西洋小屋組勾配四寸ルーフィング葺外部漆喰塗銀仕上ガンマー塗とした。

國防館

東會場朝鮮館の隣に建設せられ現下非常時に際し國防意識を充分宣揚する爲に特に意を用ひ、海軍部は館の外形を航空母艦に模し艦上に模型飛行機三臺を設置して空軍威力の發揚を表示し、陸軍部は近代的防空の完備したる城砦を模し、高射砲を設置して其の威容を示す等の外觀を採つた。建坪二百坪、木骨外部漆喰仕上及平鐵板張り「ベンキ」塗り屋根ルーフィング張り一部天窓造り内部天井及側壁の一部木綿張り床三和土叩き仕上とした。

觀光館

國際的觀光日本の全貌を陳列する本館は西會場三重縣館前に建設され、建築美を構成せしむる爲に三方入口に塔屋を配した觀光船型を模したる木造平家建切妻造り、軒高は地盤上より軒桁上端迄十九尺、總高三十尺、桁行百五十尺、梁間四十八尺、建坪二百坪を有し、屋根亜鉛引小波鐵板葺一部「スカイライト」装置にして外部漆喰塗銀仕上腰は漆喰仕上とした。外觀の美は三重縣館の古代趣味豊かな館に配するに簡素明朗にして配色の明るさを以てし觀光館としての特徴を發揮せしむる様に努めた。

赤十字館

本館は觀光館の南に位置し、總坪數二十七坪、之を赤十字資料陳列室(九坪)、無料休憩室(七坪五合)、第一救護室(五坪二合五勺)、第二救護室(二坪二合五勺)の四室と別に便所廊下(三坪)を設備し、デオラマ、繪畫、圖表及寫眞等赤十字資料の陳列及

び一般救護の施設に便なる様建設され屋上に高塔を配し、之に赤十字章及館名を圖表し、頗る瀟灑な建物である。

三重縣歴史館

歴史三重の誇、人物史蹟に豊富なる史蹟を盛る本館は重大なる意義を持つた建物なるが故に之等を外形の上に充分具現さす爲に屋根は神殿造を模して清楚なる様式を採り歴史館として最も良き感じを盛る様にした。館は木造平家建切妻造り亜鉛引波板葺兩妻側及側面和風亜鉛引平板葺屋根型造り、パラベット付き建物で軒高地盤上より軒桁上端迄十九尺棟高三十尺、桁行八十四尺梁間四十八尺車寄二坪四合にして建坪百八坪である。

佛教館

本會隨一と自他共に許す佛教館は、慈眼溫容を垂れ給ひ觀覽大衆に慈悲精進を奨め轉迷開悟の道を説くかの如き崇高なる大佛の尊像を建立した。其の臺座の高さ四間御像の丈十三間正に日本一の大佛像であつて海は遠く對岸より陸は數里の遠方より望見することを得る雄大なる佛像で、館との調和を得る爲に特に意を用ひ本館を單層佛閣造りとした。軒高地盤上より軒桁上端迄十七尺、總高三十一尺、建坪百五十七坪、向拜六坪二ヶ所を附し屋根亜鉛引平板葺青銅色塗り外部漆喰仕上柱型朱色仕上にて西會場に一異彩を放つ建物である。

正門

幅員十五間の縣道を壓し巍然として天空に聳え恰も巨人が天に向て踊躍奮起せんとするが如きは我大博覽會の正門である。大膽にして放奔豪壯にして雄大なる壯麗無比の正門は洵に明朗にして躍進的な近代四日市の印象を觀客にはつきりと感受せしむるに充分な建築物である。外側の尖塔は地盤から尖端迄七十四尺、内側尖塔は地盤上から尖端迄五十二尺、中央通路上に於ける高さ桁上端迄二十五尺五寸、路面より十五尺五寸である。此等の塔屋は亜鉛引平板張として門洞體は上部葎簾張下部貫下地色漆喰仕上とし放射線に段階を附した尖塔は銀赤二色の「ベンキ」塗仕上げとした。入口正面に「四日市大博覽會」と表示し、夜間は之に赤色ネオンを配し、文字の下部にアーチ形に特殊の彩色を施し夜間は外側塔全體に一千尺の赤色、内側塔は五百尺の青色ネオン管を以て並行せる方射線上に光彩を放たしめ之を繋ぐに中央は青色兩側塔屋との間は赤色ネオン管を以て外廓線を表示し正面の夜景は一段の光彩を添へしめたのである。

建築

水道敷設及び道路排水工事

水道敷設

會場敷地には既に上水道配水管が敷設されてゐる。されば之が延長工事は既設の口径百耗鐵管より各分岐し、口径五十耗鐵管を延長埋没して給水に便ならしめたのである。又防火用として既設消火栓三ヶ所の外更に要所に三ヶ所を設置した。會場内外の賣店及特設館等よりの給水申込は三十三栓で設備費は使用者より工費の全額を徴收し又給水料は十立方米迄は金六拾五錢とし一立方米を増す毎に金九錢宛を徴收した。

其他一般觀衆用として手洗栓五箇及び給水栓八箇を各所要個所に配置し、又場内の景觀を添へる爲東西兩會場に各一ヶ所宛大噴水栓を設置した。

道 路

東會場は入口より産業本館迄、西會場は入口より三重縣館迄は幅員十間延長各二十四間の大路を設けた。之より各館に至る幹線道路は幅員五間延長五百六十七間とし東西兩會場を連繫する爲に橋體長十七間七分幅員三間の陸橋を縣道上に架設した。之に特殊の意匠を施し。近代式橋梁に模し夜間は之にネオンを配した。又各館を繋ぐ道路は幅員を三間とし延長千六拾間各道路共砂利又は砂を二寸の厚さに撒布した。

西會場中央を縦斷する臨港引込線路には横斷踏切工事を施し、踏切以外の兩側には遮斷柵防護工事を施して危険を防止し會場入口の大路と幹支線道路とを整然たる連絡を保たしめた。

又場外は省線東驛前より會場正門に至る延長五百九拾六間幅員十二間の縣市道の中間五間には「アスファルト」

乳劑鋪裝を縣市共同にて施工した。

排 水 設 備

會場敷地は其中間に幅員十五間の縣道介在し之を隔て、東西兩會場に區分したのである。此地一帯は埋立地なる爲略平坦であるが細部に亘つて地均をなし、東西兩會場共周圍に巾一尺深二尺の排水側溝を設けて所要個所は一尺角の盲暗渠千二百四拾七間を取設けた。又土管内徑一尺のもの八十一本、同内徑八寸のもの二百三十七本同内徑五寸のもの千四拾六本を埋設して周圍の排水溝に誘導する様設計した。されば開會中屢々大雨を見たるも何等支障を生ぜず完全に其の機能を發揮したのである。

電 氣 設 備

施 設 の 概 要

電力の供給は合同電氣株式会社より之を受け、配電線工事及電氣工事も亦總て同社に委託して開會中損料を以て使用することとした。電氣料金は本會施設の分に對しては前記會社との間に特定料金を契約し努めて經費の輕減を圖り、出品者の負擔に屬する分も亦一般料金低廉に別表(次頁)の如く契約し工事も豫め一定額を設けて會場内諸經營者の利便を圖ることとした。

電 氣 工 事

電氣工事は逓信省電氣工作物規程に依り施工し、場内には末口一六〇耗—一八〇耗電柱三十八本を使用し、柱水道敷設及び道路排水工事・電氣設備

間距離は五〇米以下とし、電柱根入は柱長の六分の一以上とした。又高壓電線には太さ三、二耗以上、二耗十九本撚第二種絶縁電線を使用する等普通工事として施行した。又停電を可及的防止する爲に所要基點柱迄高壓晝夜間線二回線を入れて切換装置とした。尙引込線は保安警備夜間燈の操作上一館一引込を原則として操作を便にすると共に館の美觀を損傷せぬ位置を選定することとした。

場 内 出 張 所

合同電氣株式會社は場内電氣設備の受付、故障修理を迅速に施行する爲會場内正門東側に出張所を開設して開期中晝夜間共に係員を常置して場内の保安と需要者への奉仕に努めた。

イ、定額電燈料並に電球紛失破損償代金

燭 別	電 燈 料		電球辨償價 格一個ニ付
	會期中料金(五十 夜又ハ五十晝間)	會期超過料金(一 夜又ハ一晝間)	
五 燭 光	一・一二	〇・二	三・〇
十 燭 光	一・五七	〇・四	三・〇
十六 燭 光	二・九〇	〇・六	三・五
四十 燭 光	三・八〇	〇・八	三・五
六十 燭 光	五・五八	〇・八	六・五
二百 燭 光	九・三七	一・四	一・八〇
三百 燭 光	一四・〇五	二・一	二・七〇
五百 燭 光	二六・七五	三・九	四・四五
千 燭 光	四四・五九	六・五	七・六〇

○取付工事費

一、電 燈 一燈に付 金貳圓五拾錢
一、ネオン並に電飾工事費等は其の都度見積に依ります。

ロ、從量電燈料

容 量 別	會期中最低使用 量(五十晝間)		會期中最低料金 (五十晝間)		最低使用量超過 トシ時ニ付
	キログワット時	キログワット時	十	十	
三 アンペア	三五	三五	一三・〇〇	二・三四	
五 アンペア	五五	五五	一九・五〇	〃	
十 アンペア	一一〇	一一〇	三九・〇〇	〃	
十五 アンペア	一六五	一六五	五八・五〇	〃	
二十 アンペア	二二〇	二二〇	七八・〇〇	〃	
廿五 アンペア	二八〇	二八〇	九七・五〇	〃	
三十 アンペア	三三五	三三五	一一七・〇〇	〃	
四十 アンペア	四四五	四四五	一五六・〇〇	〃	

○工事費

内線工事費は見積に依ります。

○計器損料

會期中 一個に付 金貳圓

第三編 宣 傳

宣傳計畫と其の目標

宣傳は博覽會の成果を決定すべき重要な機構であつて、之が適否巧拙は、觀覽者の誘致に、將た出品の勧誘に、其他あらゆる機構に至大の影響を有つものである。而して之が計畫實行は、經費と効果に最も大きな結果を齎すもので、本會宣傳部に於ては精密なる研究と最善の計畫を樹て、機に臨み變に應じ各方面に宣傳を行つたのであるが、其の宣傳の目標は左の通である。

機會把握は宣傳の第一義である。凡そ人の動く所、文書の往復する所一として宣傳に關係せないものは無い。されば、宣傳部に於ては、常に細心の注意を以て之が實行に當り、機會ある毎に之を把握して逸せざるやう努力したのである。博覽會の名稱を決定するにも、會期を發表するにも、多大の苦心を拂ひ、關係當局は、總て博覽會を中心として、開會一年前より各種の會合を利用し、會合に於ける挨拶、日常の話題に至るまで、宣傳第一をモットーとしたのである。

近重遠輕は經費を尠くして効果を大ならしむる所以である。されば本部に於ても先づ本市を中心として北勢の町村に主力を置き、次に本縣内各市町村、中部日本の大郡名古屋市、近畿地方、全國……植民地といふやうに、随つて僅少の費用と時間で來泗し觀覽し得る地方に宣傳の主力を注ぎ、漸次この條件に遠ざかるに従ひ宣傳の手を緩め、適宜な處置を採ることとしたのである。

宣傳計畫と其の目標

第三編 宣傳

時期により宣傳内容を定め、之が内容を時期に適合せしむることは、宣傳の効果をより大いならしむる所以である。本會宣傳部に於ても特に注意を拂ひ、宣傳時期を大要左の三期に分ち、各宣傳内容を時期に適合せしめたのである。

第一期 前年四月より同十月までを第一期とし、本博覽會の趣旨、名稱及會期に關する注意喚起に努め、一面本博覽會の生命たる出品勧誘の宣傳に主力を注いだ。

第二期 前年十一月より本年二月までを第二期とし、主として博覽會の内容を周知せしめ、第一期宣傳の効果を徹底することに努めた。

第三期 三月初旬より會期終了までとし、主として博覽會觀覽欲を刺戟し、多數の觀覽者を誘致する方法を講じたのである。

各種宣傳形式中、新聞紙の報道は其首位を占むるものである。市内日刊三新聞を始め市内各新聞、市内に支局を有する各新聞及全國の各新聞は常に貴重な紙面を割愛せられ本會の宣傳上最高の收穫を齎したことは本會の多とする所である。

宣傳計畫の目標は概ねこの通である、幸に大方の御支援と、本宣傳部としても不眠不休の活動により、博覽會入場人員六拾萬突破の理想を實現し得、有終の美を收めたことは、宣傳部の聊満足する所である。

宣傳事項の豫定

種類	第一期	第二期	第三期	會期
ポスター、マーク、小旗等 ニ依ルモノ	第一期 自八月 至八月	第二期 自九月 至十二月	第三期 自三月 至三月	會期中
	ポスター、自動車マ ーク	ポ ス タ ー	車内ポスター、自動 車マーク人力車小旗	車内ポ スター

宣傳部員執務内規

- 一、本部ハ事務ノ進捗ヲ圖ル爲事務分擔ヲ別紙(略)ノ通り定ムト雖モ全部員協力互助以テ宣傳ノ實ヲ擧グルモノトス
- 二、事務分擔者ハ分擔事務ニツキ調査研究ヲ遂ゲ部長副部長ノ指揮ヲ受ケ忠實迅速ニ事務ヲ處理スベシ
- 三、他者ノ分擔事務ニ屬スル事項ヲ受ケタルトキハ其都度之

宣傳ポスター

第一回ポスター

博覽會則を制定し其の實行を發表したのは昭和十年四月の初であつた。即ち先づ第一回ポスターを製作して、
宣傳ポスター

繪 葉 書	繪 葉 書	繪 葉 書、 四日市案内 記	新聞廣告、ラヂオ放 送、案内圖	新聞廣告ラヂオ放送
立看板新聞廣告ラヂオ放送	看 板		自動車、飛行機、兒童 チンドン屋、會場圖	自動車、飛行機、兒 童、チンドン屋
ピラ、會場圖、民謡	懸 賞 發 表		驛辨包裝紙、マツチ	スタ ン プ
スタンプ、包裝紙、燐寸	スタンプ商店包裝紙		觀 覽 勸 誘	
作 文 宣 傳		計 劃 通 知	學校、工場、青年團	
團 體 誘 致		縣人會連絡、學校、 工場、青年團	氣 球	
煙 火、 氣 球			煙 火、 氣 球	
街路裝飾、指導標			裝 飾、 指 導 標	

- ガ分擔者ニ引繼グベシ
- 四、各員ノ計畫事項ニシテ其ノ事務分擔者ナキ場合ハ之ガ計畫者ノ擔任事務トス
- 五、文書作製發送及展覽會其他臨時事務並ニ重要事項ハ全員協力シテ實行スルモノトス

同年五月左の通り關係各方面に配布し、次で各地に出品勧誘を初めたのである。

- 印刷部數 四千枚 大さ 全紙縦半截
- 圖案及印刷者 四日市港を表徴し之に博覽會の事項を記入す
- 發送先 四日市市 米田喜一
- 全國各市府縣、重なる會社銀行、縣下及近縣學校會社重なる商店私設鐵道驛

ポスター圖案の懸賞募集

宣傳ポスターの圖案の良否は、宣傳効果に影響するのみならず、圖案募集それ自體が宣傳を兼ねるを以て、之を一般懸賞募集に附することとし、昭和十年四月十二日賞金五百圓を懸け、左の募集要項を發表した。

ポスター圖案懸賞募集規程

- 一、意匠
 - (1) 國際的商港タル當市ガ開催スル國產振興四日市大博覽會ニ對スル氣分ト興味ヲ喚起シ觀覽者誘致ニ有効ナル魅力ヲ有スルモノ
 - (2) 左ノ文字ヲ記入スルコト
 - 國產振興四日市大博覽會
 - 會期 昭和十一年自三月二十五日 至五月十三日 五十日間
 - 會場 四日市港頭
 - 主催 四日市市
- 二、圖案用紙及大さ
 - 紙質強靱ナルモノニシテ長サ曲尺三尺五寸、巾二尺五寸
- 三、色刷度數 七色以内
- 四、送付先
 - 四日市市役所内 國產振興四日市大博覽會事務局
 - 五、審査及賞金
 - (1) 圖案ハ權威アル専門家ニ委囑シ嚴正ニ審査決定ス
 - (2) 一等ヨリ三等マデヲ當選トシ、當選者ニハ左ノ賞金ヲ贈呈ス
 - 一等 壹人 參百圓
 - 二等 壹人 百五拾圓
 - 三等 壹人 五拾圓
- 六、締切 昭和十年六月十日
- 七、發表 昭和十年六月二十日

右ノ外選外佳作若干名ニ賞金又ハ賞品ヲ贈呈ス

八、應募者心得

- (1) 應募圖案ハ之ヲ返戻セズ、應募圖案ニ關スル一切ノ權利ハ本市之ヲ取得ス
- (2) 應募圖案ノ荷造及運賃ハ應募者ノ負擔トス

應募圖案の審査長及審査員

審査長	京都高等工藝學校教授	霜 鳥 正 三 郎
審査員	鐵道省 副參事	丸 山 武 治
	三重縣工業試驗場技師	岡 尾 嘉 夫
	松坂屋宣傳部長	刈 田 貞 一郎
	名古屋鐵道局旅客係	鈴 木 恒 雄
	四日市高等女學校教諭	林 憲 亮
	四日市商工學校教諭	坂 井 喜 三
	同	三 枝 惣 太郎

ポスター審査内規

- 一、審査ハ應募總數四百四十二點ノ全部ニツキ之ヲ行フ
- 一、各審査員列席ノ上審査長ノ指示ニ從ヒ左ノ方法ニヨリ審査ス
- イ、應募圖案全部ヲ豫選シテ甲乙ニ分類ス
- ロ、甲類ヲ展覽ノ上入選候補六點ヲ選出スルコト
- ハ、右集計入選ヲ第一類トシ展覽ノ上更ニ採點ヲ行ヒ順位

宣傳ポスター

- 一、審査長ハ入選及佳作候補トシテ一等、二等、三等ト佳作十席迄ヲ順位ヲ附シテ會長ニ報告スルコト
- 一、入選及佳作ノ決定ハ審査長ノ報告ニ基キ會長之ヲ決ス
- 一、右發表ハ六月二十日トス

ヲ定ム

應募圖案審査報告

四日市大博覽會ポスター懸賞募集に對し今回應募せられたる點數は四百二十三點に達し、其内一點審査辭退を差引計四百二十二點にして、審査員の比較的優秀と認めしもの百十八點を選び之を廣く展覽することとし、更に慎重審議の結果一等一點、二等一點、三等一點、佳作十點計十三點を選出して之を入賞する事とした。

應募作品を通じて努力の作頗る多く、一般に此種競技に見る諸作に比して遜色なき出來榮を認め得たるは審査員一同の共に甚だ欣快とする所である。

作品を通じて歐米の作風に據るもの多かりしが、又日本趣味の發揮に努めたる新傾向と見るべきものも可成多かつた事も喜ばしい現象であつた。

概して色調描寫法構圖等も勝れたるものも多かつたのであるが、一方ポスターの使命として重要な文字の可讀性を缺き、或は左書右書を混用せるもの等のあつた事は遺憾である。又構圖意匠に優秀であつても全體から來る感が博覽會といふ進出的な明朗な氣分と一致せぬものもあつた様である。

此種ポスターの使命は徒らに専門的に高踏的であるよりも博覽會を廣く宣傳する意味に於て大衆にも了解せられ、其言はんとする所を率直に物語り、而も興味あり魅力あるものたると同時に卑俗であつてはならない。此意味に於て今回入選せられたものは相當目的に適ひたる優秀なるものと言つてよいと思ふ。終りに應募諸彦の勞を深く謝するものである。一々の作品に就ての詳細は別に述べる。

昭和十年六月十六日

審査長 審査員名連記印

四日市大博覽會長 吉田勝太郎殿

懸賞ポスター入選作並解説

一等 賞金 參百圓 長崎市 吉川 莞爾

博覽會場、港、工場、空ヲ表ハシ會場ヨリ上空ヲ見上ゲタル構圖ニシテ建築、船、飛行機等ヲ用ヒテ視野ノ新味ヲ出シ、活動的ノ空氣ヲ以テ明朗ナル調子ヲ大膽ニ描ケル所ニ魅惑誘致ノ力ガアル。

二等 賞金 百五十圓 長崎市 中山 文孝

一等入選作ニ比シ近代圖案ガ多ク西洋趣味ニシテ看慣レタル傾アルニ對シ特ニ日本趣味ノ取材ト色調描法ニヨリテ簡明ニ海港ト産業ヲ象徴シタル明朗ナル非凡ノ點ヲ採ル。

三等 賞金 五十圓 大阪市 小畑 六平

防波堤ノ強キ斜線ト之ニ並置サル、船及ビ博覽會の建物ノ一部ヲ用ヒタル構圖法ヤ、新味アリ「ポスター」トシテノ迫力アルモノト認メル。

佳作 謝

三重縣 中島進 京都市 武田十子男 名古屋市 加藤清 同市 石黒一彦 長崎市 中山文孝
同 中島種夫 廣島縣 米田次郎 長崎市 吉川莞爾 京都市 福永俊吉 岐阜市 佐藤鑑一

第二回ポスターの發行

昭和十年八月、左記要項により發行した。

一、圖 樣 第一等當選ポスターを採用す (本誌卷頭所載)

一、印刷枚數 五千九百枚

宣傳ポスター

第三編 宣傳

- 一、大 全 紙
- 一、印刷者 松阪市 日本出版株式會社
- 一、發送先 全國各市、府縣、道廳、學校、重なる會社、遊覽地の著名旅館、重なる神社佛閣、縣下私設鐵道各驛

鐵道省關係は名古屋鐵道局の承認を得て、局名を以て全國各主要驛近畿各驛に配付掲出を依頼し主催四日市市に代ふるに名古屋鐵道局と記し又ポスターを撮影したる寫眞數十枚を作製して、各新聞社に配布し紙上に掲載方を依頼した。

第三回ポスターの發行 (昭和十一年一月)

印刷數 壹 萬 枚
 發送先 松阪市 日本出版株式會社
 全國道府縣廳、各市役所、各市商工會議所、主なる會社工場、名勝地旅館、主なる神社佛閣、近府縣各學校、縣下各私設鐵道驛、各町村役場、各團體事務所、各學校、著名會社商店、官公署

鐵道局用ポスターの發行 (昭和十一年一月)

四日市大博覽會宣傳の爲名古屋鐵道局専用のものと同局の選定により御用印刷會社にて印刷の上發行せられた。
 印刷數 壹 千 百 枚
 發送 名古屋鐵道局及大阪鐵道局管内一等驛以上は三枚
 二等驛二枚、三等驛以下一枚、全國主要驛二枚又は一枚宛
 部を現したもの

圖樣 懸賞三等當選ポスター防波堤、港及博覽會場の一

懸賞應募ポスター優作品展覽會

百花妍を競ふ應募作品は、全國斯道の大家が心血を注いだ力作であり、一般の參考資料とするに足るを以て、博覽會大宣傳の目的を以て、左記日程により、宣傳部員數名出張、ポスター展覽會を開催したが、豫想外の人氣を煽り各會場共非常な盛會であつた。

ポスター巡回展覽會日程

七月 二、三 日	四日市市	實業會館
七月 八日、八月廿一日	同	四日市市公會堂
八月 十七、十九、二十日	名古屋市	松坂屋
九月 廿一、廿二日	宇治山田市	三重縣商工獎勵館
十月 十四、十五、十六日	大垣市	商工會議所
十一月 三、四 日	津市	商工會議所
十二月 自三日 至七日	松阪市	信用ビル階上

歌謡宣傳

小唄懸賞募集

凡そ大衆の感觸に慫へるには、眼による繪畫の宣傳と耳による歌謡の宣傳との二者を逸してはならない。殊に

歌謡宣傳

後者にあつては、其の歌詞歌調が時代人に快感を與へる限り、耳より直に口に移され、個人に深い感銘を與へると共に大衆に傳播する強い力を有つのである。本會の宣傳に當つても勿論是に留意し、昭和十年六月左の要項に依つて一般に宣傳小唄の懸賞募集を發表した。ポスター圖案の懸賞募集といひ、是といひ、懸賞募集其の事が既に一種の宣傳であることはいふ迄も無いのである。

小唄懸賞募集規程

一、趣旨

四日市大博覽會氣分ヲ強調シ現代的特色ヲ加味シタル
國產 四日市情緒豊ナル小唄ニシテ且人口ニ膾炙セル曲譜ニテ謠
 ヒ得ヘキモノタルヘシ

二、審査及賞金

- 1 本會宣傳部ニ於テ選歌決定ス
 - 2 一等ヨリ三等マテヲ當選トシ當選者ニハ左ノ賞金ヲ贈呈ス
 - 一等 一人 金五拾圓也
 - 二等 一人 金貳拾圓也
 - 三等 一人 金拾圓也
- 右ノ外選外佳作若干名ニ賞品ヲ贈呈ス

全國各地より應募した數は、實に百參拾貳篇であつて中には作曲をなして投稿せる熱心家もあり、左記審査員の慎重な審査の結果次の如く夫々當選者を定め、昭和十年七月二十五日之を發表した。

懸賞小唄審査員

審査長	四日市高等女學校長	原 卯一郎	審査員	四日市高等女學校教諭	蛭田昇二郎
審査員	四日市商業學校教諭	村上國市	同	同	毛利益吉

3 締切 七月十五日

4 發表 七月二十五日

5 送付先 四日市市役所内國產 四日市大博覽會事務局

6 應募者心得

- 1 半紙判罫紙ヲ用ヒ文字ハ解明ニ記載スヘシ
- 2 應募者ニハ適用スヘキ曲譜(可成作者ヲモ併記)ヲ明記スヘシ
- 3 送付先宛名ノ傍ニ「懸賞應募小唄」ト朱書スヘシ
- 4 應募數ハ制限セス應募者ハ別紙ニ住所氏名ヲ明記スヘシ
- 5 應募歌ハ之ヲ返戻セス應募歌ニ關スル一切ノ權利ハ本會之ヲ取得ス

文藝協會四日市支部長	中村徳之助	四日市市稅務課長	多湖周一
四日市市學務課長	西 正一郎	同 土木課長	小田川 多利松
同 秘書課長	菱浦二郎	同 水道課長	内山 猛雄
同 庶務課長	藤生正介	同 收入役	國安院 武之助
同 勸業課長	酒井保興		

懸賞小唄審査發表

壹等入選	賞金五拾圓	四日市市諏訪町	川 瀨 一 郎
貳等入選	賞金貳拾圓	四日市市住吉町三丁目	若 村 貞 一
參等入選	賞金拾圓	神戸市林田區腕塚町九丁目	熊 淵 ゆ り 子
選外佳作	賞 品	津市丸之内櫻町	柴 田 純
同	賞 品	静岡縣田方郡伊東町	福 田 信 男

審査概況

審査ノ初メ先ヅ審査員會同シテ大綱ヲ決定ス即チ應募歌稿百參拾貳篇全部氏名ヲ省略シタル印刷トナシ應募規程第一項ノ趣旨ヲ規準トシ各自佳作拾篇ヲ選ビ豫選歌ニハ百點法ニ依ル採點ヲナシ審査係長ハソノ報告ニ基キ詳細ナル統合表ヲ作製シテ決定會議ノ資料トシタリ、カクテ審査員全員會同統合表ニ表ハレタルトコロト各自ノ所見トニ依リ慎重審議ノ結果別記ノ如キ入選歌三篇及選外佳作二篇ノ決定ヲ見タリ。

尙入選決定ニ際シテハ豫メ専門家ニ就キ歌曲適用上支障ナキヲ確メタリ。

一 等 適用曲譜 四日市音頭

- (一) ハアー花は咲いたしヤツコラサノサ
景氣は出たし出たし出たしサツサヤツコラサ
おらが四日市チヨイト春が来た春が来た
(はやし) 博覽會じやものヨイヨイヨイトナア
- (二) ハアー海にや黒船ヤツコラサノサ
濠洲通ひ通ひ通ひサツサヤツコラサ
可愛や波止場のチヨイト横に着く横に着く
(はやし) 博覽會じやものヨイヨイヨイトナア
- (三) ハアー街のネオンはヤツコラサノサ
夜毎に燃えて燃えて燃えてサツサヤツコラサ
晝は浮き立つチヨイト人の波人の波
(はやし) 博覽會じやものヨイヨイヨイトナア
- (四) ハアー三瀧堤にヤツコラサノサ
春風吹けば吹けば吹けばサツサヤツコラサ
- (五) 人の情のチヨイト花も咲く花も咲く
(はやし) 博覽會じやものヨイヨイヨイトナア
- (六) ハアー男意氣かよヤツコラサノサ
工場の煙煙煙サツサヤツコラサ
空に躍るはチヨイト鯉のほり鯉のほり
(はやし) 博覽會じやものヨイヨイヨイトナア
- (七) ハアー伊勢参りかヤツコラサノサ
湯の山行きか行きか行きかサツサヤツコラサ
寄らにやなるまいチヨイト四日市四日市
(はやし) 博覽會じやものヨイヨイヨイトナア
- (八) ハアー思案橋とはヤツコラサノサ
昔の名残名残名残サツサヤツコラサ
今じや相生チヨイト千歳橋千歳橋
(はやし) 博覽會じやものヨイヨイヨイトナア

二 等 適用曲譜 四日市音頭

- (一) ハアー躍る四日市ヤツコラサノサ
日の出の勢ひ勢ひ勢ひサツサヤツコラサ
港舞臺のチヨイト、あですがた、あですがた
はやし 「おらが博覽會ヨイヨイヨイトナ」
- (二) ハアー港一つばいヤツコラサノサ
大船小船小船サツサ、ヤツコラサ
寄せて繁昌のチヨイト花が咲く花が咲く
はやし 「おらが博覽會ヨイヨイヨイトナ」
- (三) ハアー會場かゞやくヤツコラサノサ
日本のちからちからちからサツサ、ヤツコラサ
お國自慢のチヨイト腕だめし、腕だめし
はやし 「おらが博覽會ヨイヨイヨイトナ」
- (四) ハアー晴れた船路にヤツコラサノサ
寶を積んで積んで積んでサツサ、ヤツコラサ
戀の一夜をチヨイト四日市、四日市
はやし 「おらが博覽會ヨイヨイヨイトナ」
- (五) ハアーひらく花火はヤツコラサノサ
七色十色十色十色サツサ、ヤツコラサ
街にや灯の海チヨイト人の波、人の波
はやし 「おらが博覽會ヨイヨイヨイトナ」
- (六) ハアーはやせおとれやヤツコラサノサ
博覽會音頭音頭音頭サツサ、ヤツコラサ
伊勢の天空チヨイト花の傘、花の傘
はやし 「おらが博覽會ヨイヨイヨイトナ」

躍進四日市

高橋翔太郎 作詩 吹込 豆千代
江口夜詩 作曲 伊藤久男
松平 晃

一 空の鳥さへ みな來て覗くよ

街は文化の 街は文化の

博覽會

躍進 躍進 サアサ謳へよ 四日市

二 濠洲がよひを 横附させて

みなと繁昌の みなと繁昌の

ひとはやし

躍進 躍進 サアサ謳へよ 四日市

三 御代は萬代 萬古のけむり

咲いた菜の花 咲いた菜の花

黄金色

躍進 躍進 サアサ謳へよ 四日市

四 山車は二十七 若い衆は總出

祭衣装の 祭衣装の

程のよさ

躍進 躍進 サアサ謳へよ 四日市

港小唄 「躍進四日市」

レコードの發賣 港小唄として「躍進四日市」を協賛會と共に選定し、コロムビアレコード會社にて之を吹込の上一般に發賣した。

小唄舞踊振付 先の當選歌博覽會小唄は從來の四日市音頭の振付により、躍進四日市小唄は、コロムビア舞踊部河野氏の振付により市内各花柳界は勿論各宴會場其他一般家庭にまで大流行を來し、大に宣傳の効果を擧げた。

新聞宣傳

新聞紙は社會の耳目であつて、何れの事業に論なく、其の宣傳効果に於て正に王座を占むるものである。本博覽會の諸宣傳も各新聞社の絶大なる援助を受け、宣傳上最高最大の收穫を齎したことは、是等新聞社の理解ある記事及寫眞掲載の賜と信ずる。又茲に特記すべきは大新聞社記者を以て組織せられたる市政記者團の献身的活動により、本博覽會の宣傳に貢献せられたことであつて本會の感謝する所である。而して本宣傳部が各時期に於ける新聞宣傳の着眼とする所は左の通である。

第一期 昭和十年四月より同八月まで、各新聞によりて汎く博覽會計畫の宣傳。

第二期 同年九月より同年十二月まで、主として市内新聞により内容宣傳。

第三期 同十一年一月より同年三月まで、各新聞によりて内容及計畫進行の程度等文章又は寫眞により大宣傳

第四期 會期中、各新聞により文章及寫眞を以て博覽會の内容と盛況の報道。

宣傳に盡力せられたる新聞名

一、市内の部

四日市商業新聞	勢州毎日新聞	三重日々新聞	伊勢毎日新聞	現代民報
伊勢大衆新聞	自治政浄化新聞	時事評論	三重今日新聞	經濟新報
三重酒民日報	勢海新報	三重工業新聞	家庭新報	非常時國民新聞
扶桑新聞	中本酒醬油新報	愛國新聞	四日市商工新報	

新聞宣傳

第三編 宣 傳

二、縣内の部

- 伊勢新聞 三重縣民新聞 伊勢朝報 朝明新聞 三重朝日新報
 - 贅六パツク 伊勢時事新聞 北勢日々新聞 三重自由新聞 伊賀實業新聞
 - 三重合同新聞 伊勢新報 伊賀日報 伊勢商工新聞 同愛新聞
 - 民衆新聞 水平新聞 北勢朝日新聞 津通信社 南勢新聞
 - 三重毎日新聞 三重縣商工時報 三重民聲
- 三、縣外の部
- 大阪朝日新聞 大阪毎日新聞 新愛知新聞 名古屋新聞 名古屋日々新聞
 - 日本電報通信社 報知新聞 名古屋毎日新聞 中外商業新聞 愛知民有新聞
 - 愛知新聞 名古屋通信社 讀賣新聞 東海時報 名古屋朝日新聞
 - 岐阜民有新聞 東海魁新聞 政經時論 東海商工新報 東海興産新聞
 - 新時論

尙本會の爲に、會期直前に於て特輯號、會期中日々の記事を連載せられし各社に對し深甚の謝意を表す。

宣 傳 看 板

博覽會の宣傳價值を大ならしむる爲、名稱、會期、會場を明にした大小、數多の看板を樹立して大衆の注意を喚起した。
一、鐵道沿線の野立看板

1. 請負人

- 建設場所 大阪市 サクラ廣告社
- 名古屋驛附近 岐阜驛附近 大垣驛附近 伏見驛附近 天王寺驛附近
- 木津驛附近 草津驛附近 參急宇治山田驛 四日市驛附近 富田濱驛附近
- 岡崎驛附近 (以上各一)

2. 請負人

- 建設場所 大阪市 巴弘告社
- 參急大阪上六驛 龜山驛附近 津驛附近 松阪驛附近 大神宮前驛附近
- 奈良驛附近 參急宇治山田驛 鳥羽驛附近 (以上各一)

3. 請負人

- 建設場所 揖斐川鐵橋

二、市街地の立看板

1. 請負人

- 建設場所 大阪市 巴弘告社 (トタン一枚大のものに博覽會を表象せ
る圖繪に會期會名等を記入したもの)
- 桑名町 阿下喜町 上野町 四日市東驛 日永追分 名張町
- 關町 神戸町 久居町 家城村 松阪市 相可町
- 龜山町 柿野町 磯部村 長島町 尾鷲町 木本町
- (以上各一) 津市 大垣市 (以上各二)

2. 請負人

- 建設場所 四日市市 平野看板店 (四日市港を現はしそれに會期會名等を記入したるもの)
- 建設場所 一身田町 二 四日市市 一〇 津市 五 私設鐵道主要驛 一五
- 3. 請負人 大阪市 サクラ廣告社 (會場と鯨の圖に必要文字を表はしたる布製のもの)
- 建設場所 四日市市 二〇 名古屋市 一〇〇 岡崎市 五 一ノ宮市 五 津島町 三

宣 傳 看 板

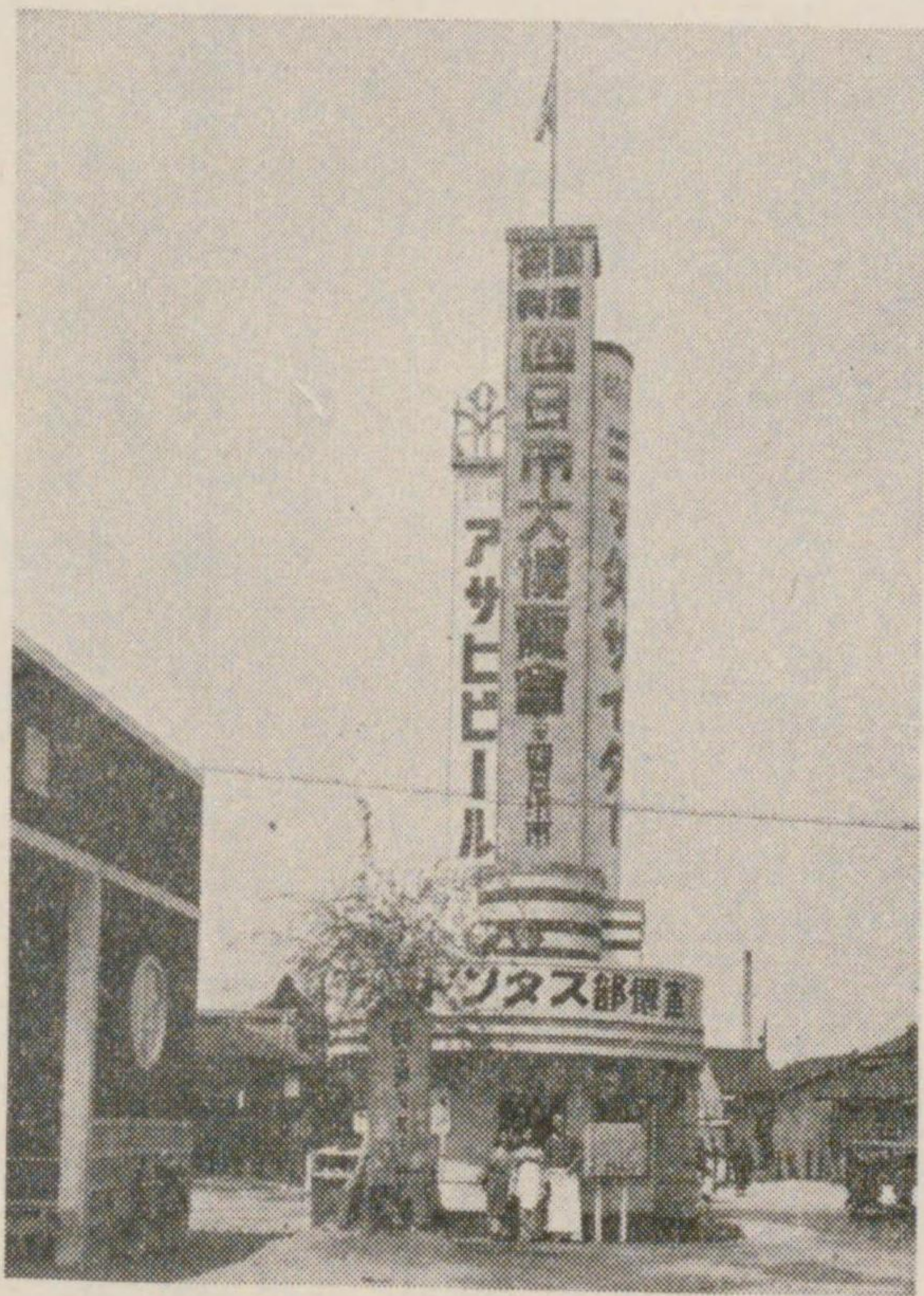
第三編 宣傳

- 瀬戸市 五 岐阜市 一〇 大垣市 一〇 彌富町 三 蟹江町 二
- 豊橋市 一〇 桑名町 三 富田町 二 富洲原町 二 菰野町 一
- 龜山町 二 神戸町 一 白子町 一 私設鐵道主要驛 一五
- 4. 請負人 名古屋市 河内看板店(特別大看板)
- 建設場所 名古屋市 二
- 三、景勝地の看板
- 請負人 (各樹立地の看板店)
- 建設場所 四日市市外霞ヶ浦 白子町鼓ヶ浦 菰野町湯の山 津海岸
- 名張赤目瀧 二見海岸 四日市午起海岸

宣傳塔

博覽會の威容を表現宣傳するに最適のものは塔である。博覽會の發表と同時に四日市西驛前伊勢電廣場を借受けて、先づ大宣傳塔を建設した。

- 一、四日市西驛前大宣傳塔(基部方三間、高八十八尺、三本立の大塔) 請負人 大阪市 巴弘告社
- 記入文字 國産振興 四日市大博覽會
- 期日昭和十一年自三月二十五日至五月十三日



塔傳宣大前驛西市日四

會場 四日市港頭

主催 四日市市

- 二、名古屋市内の宣傳塔 基部二尺角 高十八尺(潮吹せる大鯨の圖に博覽會宣傳必要事項を記入せる美術的作品)
- 建設場所 名古屋驛前 柳橋道路 大須門前町 東新町角 熱田驛前
- 明道橋 舊市廳舍跡 瀧子 大津町 上前津交叉點
- 三、名古屋大ネオン塔 基部九尺五寸角 上部五尺角、高四十二尺(會名を四尺角文字、會期會場を小文字にて記し大文字にはネオンを配す)
- 大名古屋市民各位に四日市大博覽會の關心を持つて頂く爲に鶴舞公園前を借り受けネオン大宣傳塔を樹立す。
- 請負人 名古屋市 河内看板店

景品附前賣券の發行

博覽會の成果は入場券の前賣成績に依りて察知し得るのみならず、博覽會景氣煽揚に頗る効果あり、一面最も良き宣傳となる。されば昭和十年十月より三回に亘り拾七萬枚前賣の計畫を立て、第一回は縣内へ第二回は縣外へ、第三回は市内へ前賣し何れも好成績を收めた。之が詳細は觀覽編に譲る。

文書宣傳並團體勸誘

縣下を主とし近府縣學校、會社、工場、産業組合等に向つて、案内狀及觀客誘致書類を郵送して博覽會見物の誘導に努め又汽車沿道の地は係員を派して宣傳書類を配付勸誘に努めた。殊に團體の觀覽は博覽會に一段の景氣を添ふるものであつて本會の希望する處なるが故に左の方法に依つて其の勸誘に努た。

景品附前賣券の發行・文書宣傳並團體勸誘

一、直接勧誘 博覽會係員の出張、市内學校長等の出張、市内博覽會關係者の出張には、常に關係會社工場、學校等の團體觀覽方を懇請する。又、博覽會前賣券販賣の爲縣内は勿論近府縣に出張せし際極力勧誘した。

二、文書により勧誘 東京、京都、名古屋、大阪等各地の縣人會と連絡して依頼し、又學校、工場、大會社等には數度依頼した。

三、鐵道局の了解のもとに各驛に於て團體募集を依頼した。

案内状は、昭和十年六月以來各方面に十數回に亘り發送した。今は其一、二を示さう。

拜啓 中秋の候愈々御清祥の段奉慶賀候

陳者明春三月二十五日より五月十三日まで五十日間當市主催の下に四日市港頭に於て開催すべき四日市大博覽會に關しては豫てより多大の御高配御援助を辱し洵に難有奉感謝候御承知の通り本市としては正に空前の大事業に付斬新なる企劃の下に最も意義ある博覽會として斯會史上に一新紀元を劃すべく全市民協力一致所期の目的達成に萬全を期し居り申候處以御蔭本縣當局始め大方諸賢より續々絶大なる御協賛御高援を賜り準備着々進行致し居候目下本會に於ては國産振興館産業本館、郷土産業館等産業方面を重視する一方本市の特色を天下に宣傳紹介すべく海港館、萬古陶磁器館、水族館を始め國防館、交通觀光館、近代科學館等に主力を注ぎ次に滿洲館、臺灣館、朝鮮館或は濠洲館、ソヴェト館等の特設館は交渉順調に進捗中にて其の他諸般の設備と相俟ちて愈々盛會を豫想せられ過般開催の吳、熊本、横濱の三博に比し斷然出色あらしむべく銳意努力罷在候併して本縣は長くも神宮御鎮

座の下に在りて九千萬同胞尊崇の靈地として國體宣揚國民精神作興の源泉となるべき責務に鑑み三重縣歴史館及佛教館の二大特設館を設置し聊か教育報國の資料を提供すべく此外特に三重縣教育品展覽會を始め子供の國として興味津津たる斬新奇抜なる子供樂園の施設は教育的價值豐富なるものと自信致し居候就ては明春御地學校修學旅行遠足並御工場慰安旅行等團體旅行實施御計畫の節は學生は五十人以上工場及一般は三十人以上の團體に對し入場料割引の特典も有之眞に効果的の機會と被存候に付御繰合の上精々御觀覽の榮を賜り候様御高配に預り度此段御依頼申上候 敬具

追て本件に關し御用も有之候節は當市役所内博覽會事務局宣傳部へ御照會被成下度申添候

昭和十年十月 日
國産 四日市大博覽會長
振興 四日市市長 吉田勝太郎 殿

拜啓益々御清穆之段奉賀候

擬當市は先年國縣費一千萬圓を投じて港灣の大修築を行ひ今や國際的商港として貿易額全國の第六位を占め且近時之を利用する大會社簇出の有様にて大に活氣を呈し居候に就ては此機に於て港灣の紹介を兼ね國縣に對する感謝の意を表し度來る三月二十五日より五月十三日迄經費七十餘萬圓を投じて大博覽會を計畫致し我國現下の情勢より國民精神の作興と産業振興に重きを置き歴史館、國防館、産業各館、各地特設館等を施設する他特に海港館、水族館、海女館等の施設、軍艦潜水艦の拜觀、文部省練習船の操帆作業、ヨットカッターの競

特別催物又は軍艦、文部省帆船の來航等に際しては、特に附近の關係方面に印刷物作製、案内を行ひ、開會の挨拶、會期限定の挨拶等は其機を逸せず、附近各關係方面に移送して注意を喚起することゝした。文書の一例は左の通である。

拜啓春寒料峭の砌賢臺益々御清祥之段奉大賀候陳者來る三月二十五日より五月十三日迄五十日間市主催の國産振興四日市大博覽會に關しては多大の御高配を辱し洵に難有奉深謝候御高承の通當博覽會は本縣空前の代表的壯舉にして撩亂の春に魁けて堂々開催さるべき一大豪華版に有之候其の施設内容は別紙の通りに御座候得共就中國民精神作興の淵源たる「三重縣歴史館」善男善女隨喜の殿堂たる「佛教館」三重縣産業の精華たる「三重縣館、萬古陶磁器館」羊毛輸入港灣として特徴たる「濠洲羊毛館」南洋群島の模型並に風景のパノラマ及特産物を陳列する「南洋館」躍進海港都市の表現たる「海

文書宣傳並團體勧誘

走、生きた大鯨等海を利用する施設に於て斷然他に出色あらしむ可く市民と共に努力致居候尙當市近郊には御承知の白汀青松の富田濱、白子濱、若葉と櫻の湯の山温泉も好適期と存候間何卒貴下の御盡力に依り各方面へ御吹聴の上多數御觀覽相成候様御高配に預り度此段特に御依頼申上候 敬具

昭和十一年二月 日
國産 四日市大博覽會長
振興 四日市市長 吉田勝太郎 殿

港館、生きた大鯨放泳の生鯨館、海女館、海上各種施設」其の他軍艦、潜水艦の拜觀、文部省練習船の操帆作業、ヨットカッターの競走、國際演藝館の奇抜なる驚倒的外國諸演技、演藝館の内外諸演技及各地郷土藝術等到底他博の追従を許さざる斬新効果的なる機構によるは勿論會期中の催として教育品大展覽會、全國書道展覽會、野州高田の一光三尊靈佛の御開扉其の他萬般の施設を網羅し老幼男女を問はず眞に有意義なる名實兼備の大博覽會にして普く世上に推獎致度候殊に東海の樂園境たる菰野湯の山温泉を指呼の間に控へ春時の景趣亦一入に御座候就ては右御賢察を賜り神宮參拜並當博覽會團

體客誘致につき特に賢臺の御高配御盡力に預り度乍略儀以書中此段御依頼申上候 敬具

昭和十一年三月 日

四日市驛長 佐藤銳太郎
國產 四日市大博覽會長
振興 四日市市長 吉田勝太郎

驛長殿

博覽會開會に當りて

國產 四日市大博覽會長

振興 四日市市長 吉田勝太郎

過去一箇年餘の準備期を要せし我が四日市大博覽會の施設全く成り春光麗らかな本日華々しく開會を見るに至りましたことは市民諸君と共に眞に同慶に堪えない次第であります。抑々本會は國縣費一千萬圓を投じて完成せる四日市築港工事を記念する縣市空前の劃期的大事業にして近時勃然として擡頭せる本市産業の現勢と四日市港の眞價を普く天下に紹介すると共に益々國産を奨励して躍進途上に在る本邦産業貿易の進展に一大拍車を加へんとするものであります。此の壯舉を一度世上に發表するや縣民諸彦は勿論全國的に絶大なる協賛を賜り以御蔭内容外觀共に斷然他博の追隨を許さざる設備成り今や新興四日市市を表徴する正門として東西兩會場に本會獨特の設計に成る各館並滿洲、臺灣、朝鮮、東京、愛知、名古屋の各趣向を凝らせる特設館及協賛會の生鮮館、外國餘興場、演藝館等港頭五萬坪の會場に建設せられ榮光輝く

開會の今日を迎えたことは一に關係各位の御熱誠なる御援助の賜でありまして衷心より深く感謝する所であります。

開會に當り紙上を通じて關係各位に滿腔の謝意を表し會期中尙一層の御援助を煩し本會をして盛會裡に終始せしめ以て所期の目的を達成せしめられんことを切望して已まない次第であります。(以上)

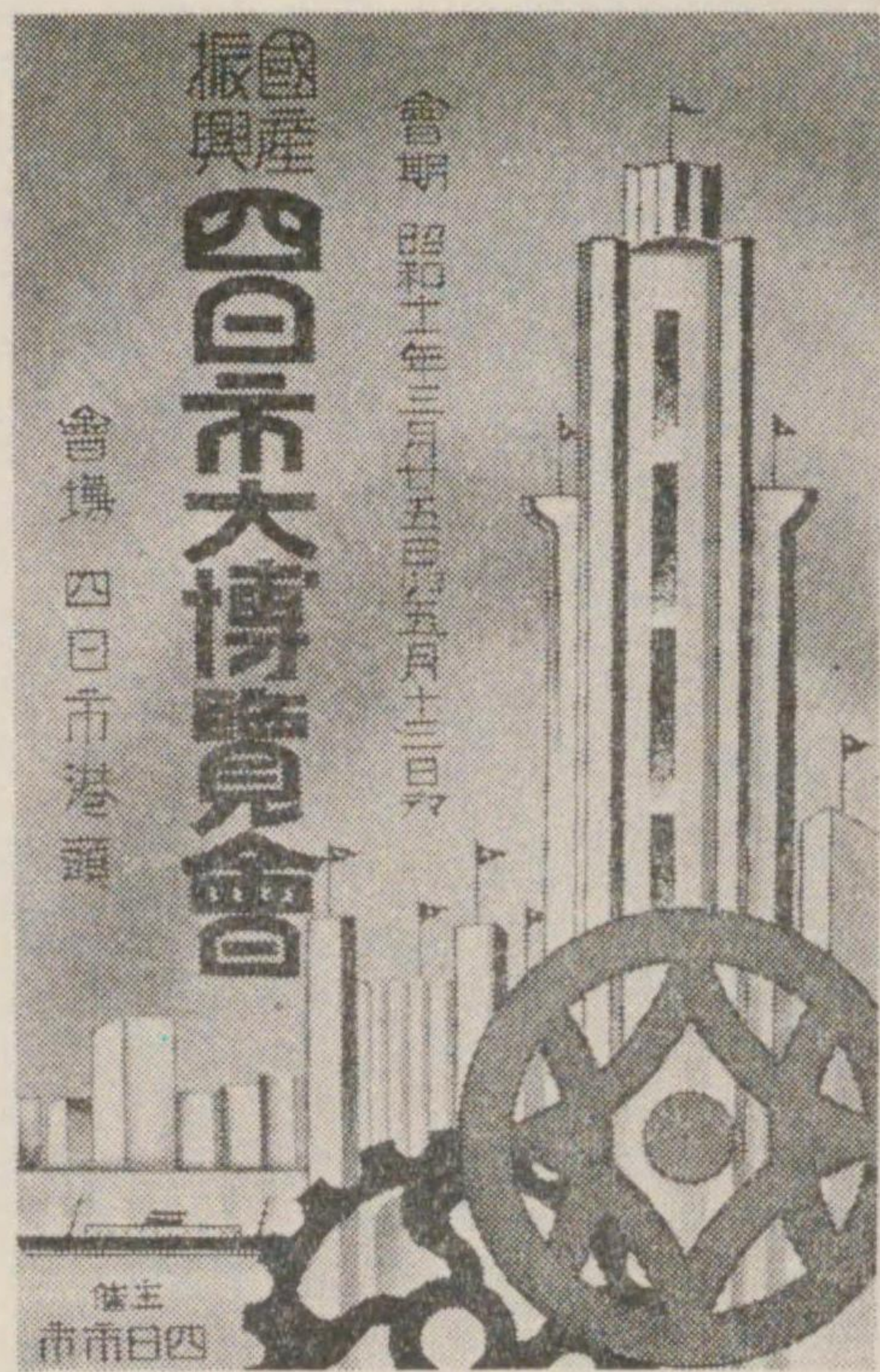
市長談話

博覽會は延期致しません。

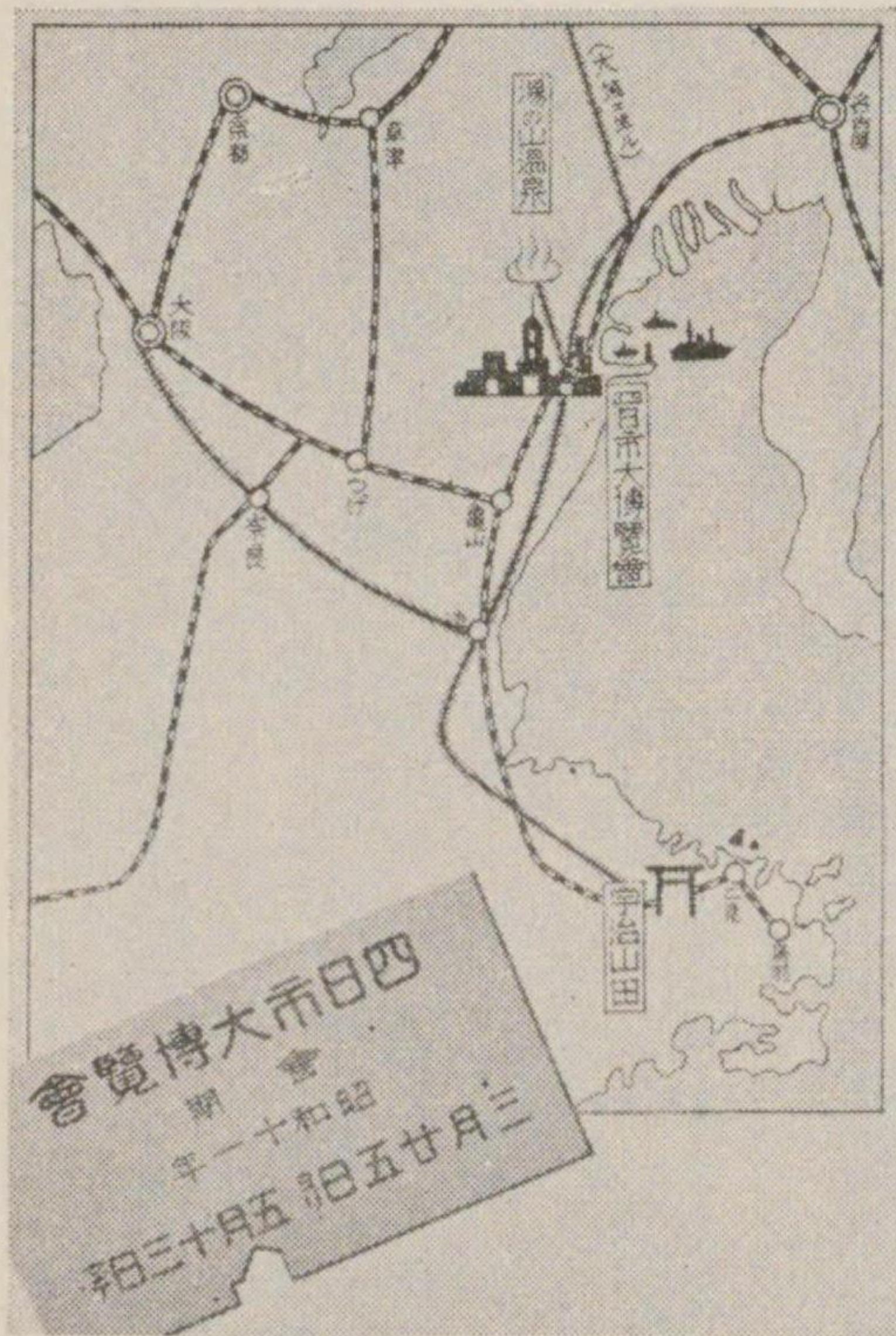
四日市大博覽會も開催以來茲に三分の二を経過致しまして餘す所十數日となりました。此間各位の深き御同情によりまして或は團體を組織して御來觀を頂き連日大入の盛況を呈して居ります事は實に感謝の他ありません。殊に御來觀の方から港灣の優良なる點と博覽會の完備につき御賞讃を頂き且この大博覽會の施設を五十日を以て打切る事は實に惜しい當分延期してはこの御言葉賜る事は市民一同と共に感激に堪へない所であります。

然し今日迄已に全國朝野各方面の方々の御來觀により當市の活況並に港灣の狀況も御紹介申上げる事が出来博覽會の努力も御認識を頂きまして當初の博覽會開催目的達成の見込みも立ちました今日之以上延期等を致しする必要がないと信じますので豫定の通り最後の御奉仕を計畫致し更に各位一層御援助を頂きまして五月十三日を以て華々數閉會を致したいと思ひます。どうか宜敷御願致します。

宣傳繪葉書



(甲)用舞見中暑



(丙)用舞見中暑

宣傳繪葉書

繪葉書を發行して日常通信に使用方を勧誘し、之

に依りて汎く博覽會宣傳の實を擧ぐるに努め、當選ポスター圖案を利用し、各種繪葉書を作製し、大工場、大會社、官廳、諸學校等には直接本會より市民一般には町總代を通じて募集したが、何れも豫期以上の成果を收めた。

一、暑中見舞用繪葉書(昭和十年六月發行)

- 甲 五萬八千八百枚
- 乙 八萬五百枚
- 丙 拾貳萬七千六百枚
- 計 貳拾六萬六千九百枚

二、日常通信用繪葉書

懸賞ポスター二等當選寶船を採用して日常用繪葉書を製作し、各地方の關係者に贈呈して日常通信に使用方を依頼し市内の希望者に對しては實費を以て販賣した。

發行數 拾萬枚

三、年賀用繪葉書

懸賞ポスター二等當選のもの、上部に謹賀新年の文字を金縁白抜にて現す。

発行數 三十萬八千六百六十枚



お願いひ!!!

◆新年の賀状には是非 博覽會宣傳用繪葉書の御利用を!

四日市大祭も間近となり、色々御忙しいこと、存じます。さて四日市大博覽會に就きましては常に非常な御後援に預かりまして深く感謝いたします。

就きましては此の度本會が發行いたしました宣傳用年賀繪葉書を特に御利用下さいまして、博覽會有終の美を納め得る様御援助下さらん事を切に御願申上ます。

同封見本御覽の上精々多數御申込下さい。

「御値段は 百枚に付 金四十五錢 の實費で何枚でもお願ひいたします」。

此の際特に百枚以上御需めの方には御望みにより見本の如く「住所氏名、電話番号、屋號」等を無料で印刷いたしますから御注文と同時に左記締切期日までに御申込下さい。

但住所、御氏名等を印刷御希望の場合に限り百枚以上は五十枚を單位として累加のことに御願ひいたします。

記

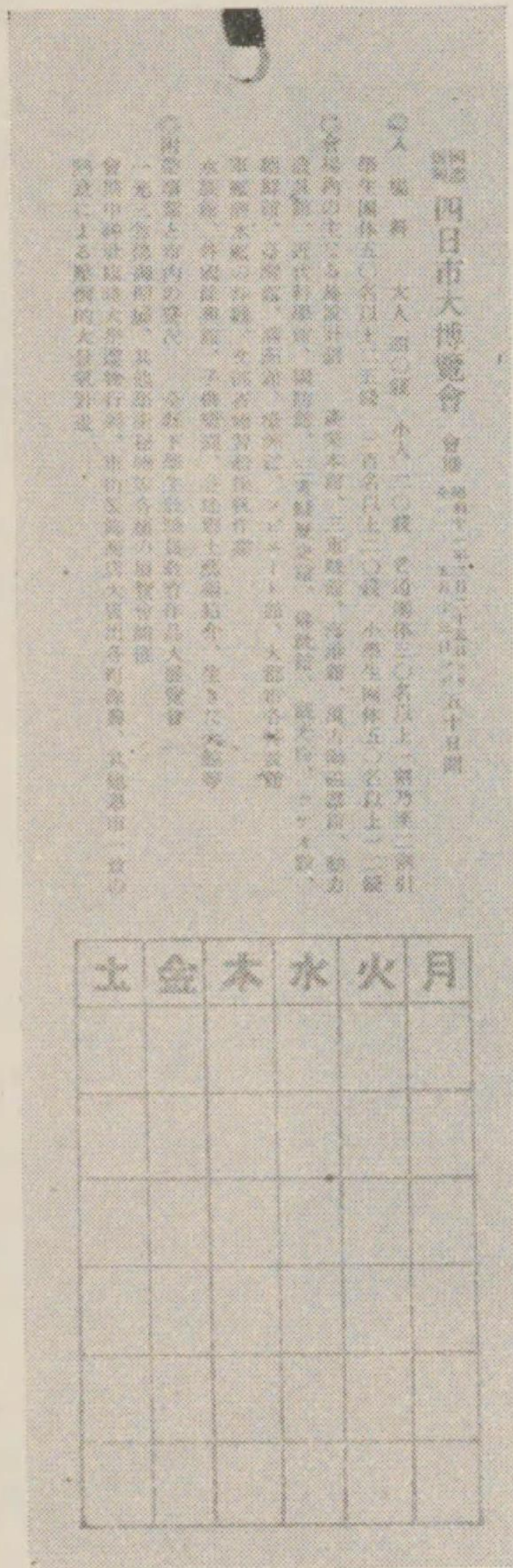
締切期日 十月二十五日

昭和十年九月

國産 振興 四日市大博覽會事務局



宣傳印刷物



裏



表

一、葉 博覽會の内容を紹介する目的を以て第一回は縣下、第二回は近府縣の小學校尋常科の兒童に葉を作製して無料配付を行つた、圖様は左の通である。

宣傳印刷物

1 第一回

印刷 貳拾八萬枚

四日市市山路印刷所

製

發送先 三重縣下各小

學校尋常科兒童全部

2 第二回

印刷 五拾萬枚

四日市市中川印刷所

製

發送先 名古屋市及其

附近、岐阜、大垣方

面、奈良、草津方面

大阪市、京都市の一

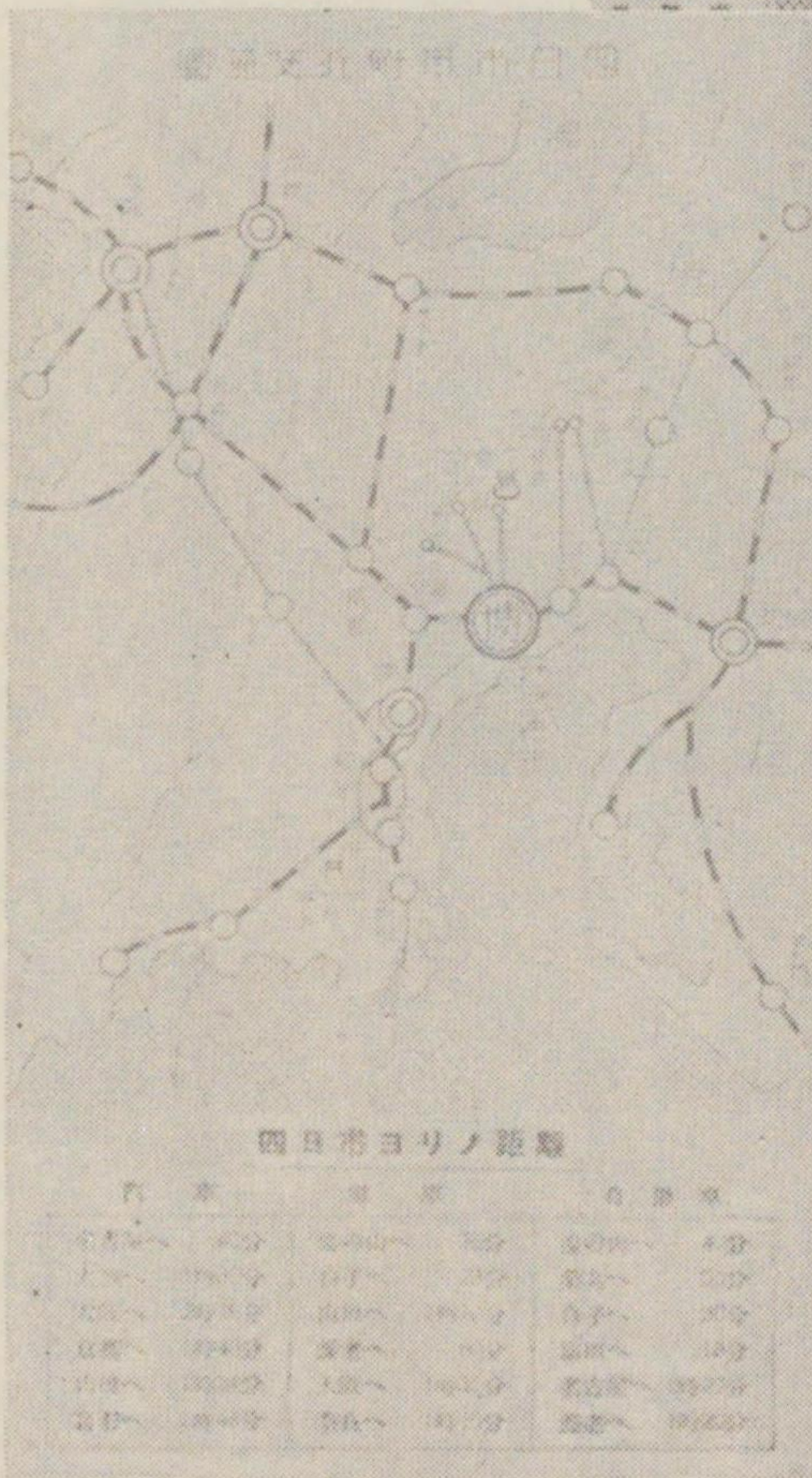
部

二、四日市大博覽會案内 博覽會の要項を記述して早わかりのものを作り汎く各地に配付し、會期に入りては入場者に頒布した。内容記事の題目は左の通である。

會期、會場、各館と其施設、入場料、附帶事業、四日市附近の名勝、旅館案内等。



裏



表

四日市ヨリノ距離			
行先	距離	行先	距離
徳島	100km	高松	100km
松山	100km	坂井	100km
富山	100km	石川	100km
福井	100km	滋賀	100km
岐阜	100km	愛知	100km
三重	100km	京都	100km
奈良	100km	和歌山	100km
鳥取	100km	岡山	100km
広島	100km	山口	100km
徳島	100km	高松	100km
松山	100km	坂井	100km
富山	100km	石川	100km
福井	100km	滋賀	100km
岐阜	100km	愛知	100km
三重	100km	京都	100km
奈良	100km	和歌山	100km
鳥取	100km	岡山	100km
広島	100km	山口	100km

三、市鳥瞰圖 市の現勢、交通、位置等を紹介せんが爲鳥瞰圖七萬枚を印刷して各方面に配布した。

四、躍進四日市 (冊子) 觀覽者に四日市の現況を認識せしめる爲に標記の冊子壹萬冊を調製して贈呈したが、更に之が姉妹篇たる四日市商業新聞社發行の「四日市案内」を購入し各方面に贈呈した。内容左の通り。

寫眞 名工の萬古焼の水差

四日市萬古の由來

運河と跳上橋

諸官廳、學校、圖書館、四日市小唄

昔の四日市、市内の一部

觀光の四日市

記事 四日市の今昔

四日市市外參拜遊覽案内

四日市市港

四日市市祭

港の恩人稻葉三右衛門翁

四日市音頭、博覽會音頭

四日市市の産業

近郊の名所舊蹟旅館案内

五、會場案内 會場案内各種印刷物五十萬部を印刷して入場者は勿論、連日の公會堂に於ける各種大會出席者附帶事業たる三重縣教育品展覽會觀覽者に配布し、博覽會の宣傳を兼ね、觀覽者の便を圖つた。

四日市大博覽會計畫及會場圖

四日市大博覽會場圖 (下部に商店又は本會の廣告を約二萬枚毎に取換記入)

四日市大博覽會全景 (極彩色)會場圖は巻頭に掲ぐ

四日市大博覽會計畫宣傳紙 (抄)

大歡迎!!

豫算總額七拾萬圓

縣市空前の大計畫

國產振興 四日市大博覽會

主催 四日市市



會期 三月廿五日より五月三日まで五十日間
入場料 四日市港頭 約五萬坪
大人四拾錢 小人現役兵二十錢
團體大割引 一般三十人以上 學生特別割引

博覽會の施設は入場料の他に料金は入りませんが協賛會の施設による場内有料館料金左の通り

生 鯨 館 大人二十錢 演藝館 大人廿五錢 小人十五錢
國際演藝館 大人 椅子席 二十五錢 普通席 十八錢

●大博覽會の内容

從來の此種計畫に比し極めて斬新効果的!!

各地優良物産と世界的最新學術の應用展覽
▲産業本館、三重縣館、萬古陶磁器館▲近代科學館、農林機械館、肥料館、羊毛工業館、蠶絲館▲三重縣歴史館、佛敎館、觀光館、ラヂオ館、
▲陸軍館、海軍館、赤十字館、ミイラ館▲東京館、愛知名古屋館、滿洲館、朝鮮館、臺灣館、南洋館▲海港館、生鯨館、艦船。
(軍艦、潜水艦の拜觀、文部省練習船日本丸、海王丸の操帆作業)

▲其他ヨット、ボート、カッター等のレース並巡航船周遊等
▲子供の國、演藝館、國際演藝館、野外劇場等斬新奇抜なる内外諸演藝。

●附帶事業

三重縣教育會四日市市教育會共催
縣下各中小學校學生職員及青年
▲三重縣教育會作品大展覽會 三月三十日より四月廿三日
四日市市教育會主催 四日市大博覽會後援
▲全國書道展覽會 五月一日より五日まで五日間
三重四日市大講主催
▲一光三尊佛御開扉 四月十四日より十八日
是非御參詣を!此機を逸すると十七年拜めません
▲其他史蹟、名勝、學術、秘寶等に關する諸種の展覽會開催

●市内の協賛 全市民舉つて熱意の表現!!

▲神社の臨時大祭、邊物行列の行事▲全市街の裝飾餘興、煙火、氣球等の放揚。
▲各種の作り物其他各町考案の以上の如く壓倒的大景氣計畫。

團體の割引

三十名以上の團體 一割五分引
五十名以上の團體 二割五分引
小學校兒童團體 一割五分引
一、教員の引率せる小學兒童にして五十名以上の團體入場料は一人に付二十五錢、三百名以上の團體入場料は一人に付二十錢
一、教員の引率せる學生生徒五十名以上三百名未満の團體入場料は一人に付二十五錢、三百名以上の團體入場料は一人に付二十錢

六、公德宣傳ビラ

便所内に博覽會宣傳の短冊貼付

公德宣傳
お互に清淨を保ちませう
國產振興 四日市大博覽會
會期 昭和十二年三月二十五日より五月十二日まで
會場 四日市港頭
主催 四日市市

宣傳マツチ

博覽會宣傳の萬全を期すべく、上に掲ぐる公德標語を表示した短冊を全國主なる旅館、學校、官公署、會社、工場、デパート、病院及各驛の便所内に貼付方依頼狀を添へて送致し以て普及宣傳に努めた。

宣傳印刷物



一、博覽會用

マツチに依る宣傳も亦從來開かれた各博覽會の經驗により見逃し難いものである。本會では宣傳用燐寸調製を計畫し懸賞三等當選ポスター圖案(港の圖を採用して二萬個を調製し各種會合に對する臨機宣傳に使用した。
二、一般宣傳用マツチの一面を博覽會の宣傳他の一面は普通廣告を採用したものを用製し會場、各商店、市内旅館、料理店、カフェー其他名古屋市内各所に於て一般に配布した。

片面廣告	表面	博覽會場と要項	裏面	納税奨勵	貳萬個
マツチ調製	同	同	同	湯の山ホテル廣告	壹萬個
種目	同	潮吹の鯨と要項	同	各商店の廣告	七萬個

宣傳提燈

吊下提燈の宣傳價値を認め協賛會と協同して第一回は一月第二回は會期直前の二回に各種調製の上配布す。

一、圖案 上部櫻色に花を白抜

中部は會場略圖

下部水色にて浮模様

文字 祝四日市大博覽會

自三月廿五日至五月十三日協賛會

二、調製種別 大棗形 二千個 特大棗形 二十個

小田原形 七百個

三、配付先 一月 宇治山田驛前各戸、參急上六及

宇治山田驛、伊勢電大神宮前、諏訪驛、

四日市市内、名古屋驛前

三月 前記の外、縣下私設鐵道各驛、省

線四日市驛、岐阜、大垣、豊橋、岡崎、津

松阪、大津各市、津島、彌富、桑名、西桑

名、富田、富洲原、上野、常滑、大野各町

煙火の打揚

博覽會の景氣を添へ宣傳を大にする爲會場附近に於て煙火の打揚を行つた。

一、打揚請負人 鈴鹿郡 田中利郎

河藝郡 伊藤永二

三重郡 伊木利市

三、打揚の區別

開會式日及大佛開眼式日

閉會式日

平常日

土、日、曜

祭、催物、日

六五發宛

五〇發

二五發宛

四五發宛

六〇發宛

四〇發宛

二、煙火の種類

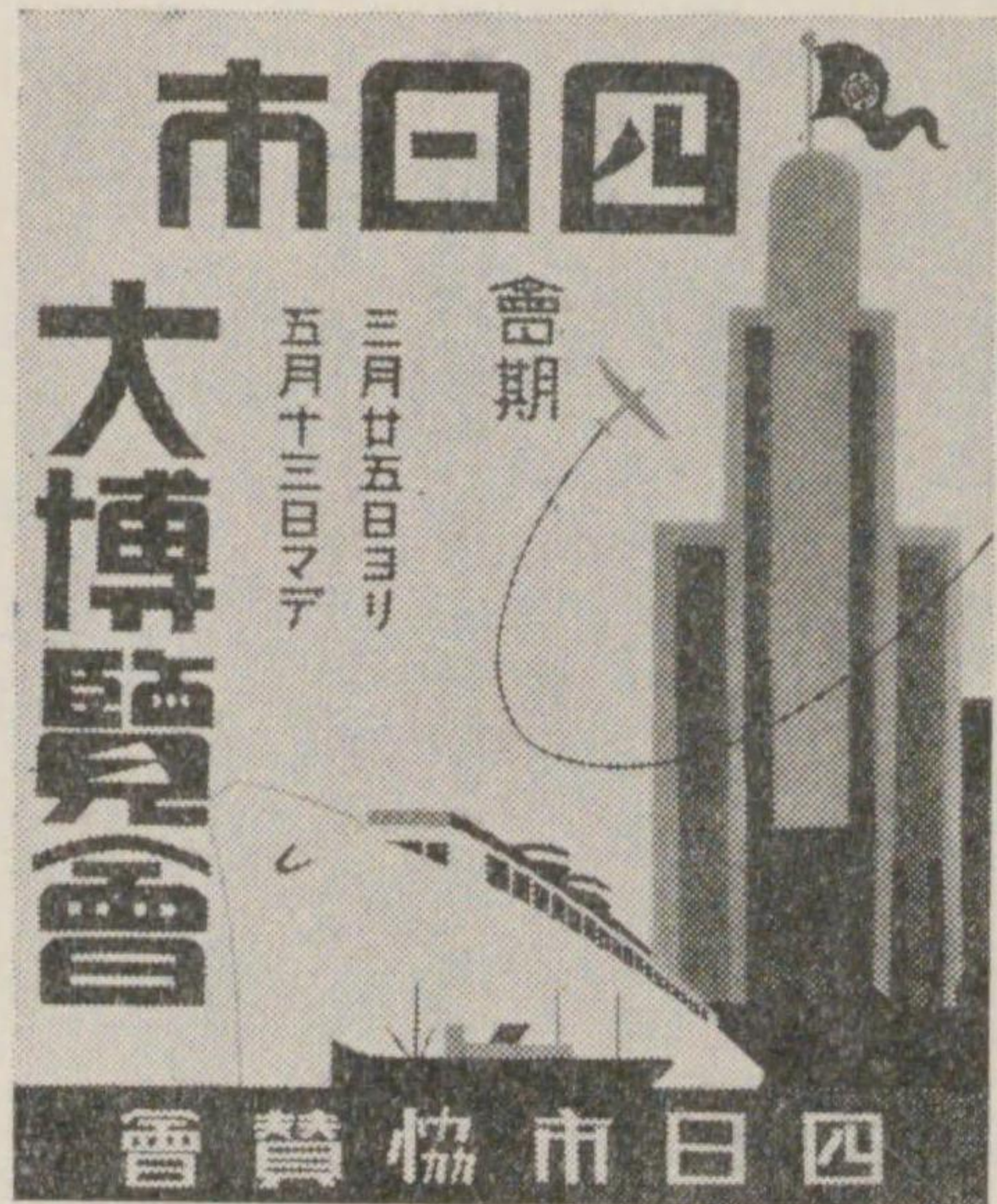
號砲 三寸九〇發 四寸三五發 五寸二六〇發

種物 四寸二五〇發 五寸一九〇發

合計 二〇一五發



(小) クーマンアフロセ



(大) クーマンアフロセ

ゼロファンマーク

近時流行のゼロファンマークを調製し各商店のウインド、出入口自動車、電車等の窓硝子に二月及三月に於て貼付方を依頼し、何れも實施した。

一、種類 大 約六寸の方形 壹 萬 枚

小 約四寸の圓形 壹 萬 枚

二、圖案 大 五色を以て會期と四日市大博覽會の文字及

港と會場の一部を表はす。

小 三色を以て會期と四日市大博覽會の文字と

會場正門を表はしたるもの。

三、印刷調製者 大阪市 敷島ゼロファン會社

四、貼付依頼先 四日市市内 縣下市町

名古屋市 豊橋市 岡崎市

津島町 奈良市 大津市

京都市 岐阜市 大垣市

大阪市 和歌山市 神戸市

其他縣外近地

交通機關利用宣傳

博覽會の開催を世間に周知せしむる方法として、各交通機關を利用することを適切と考へ、各驛にポスターを掲出するの外左の事項に力を注いだ。

自動車利用宣傳

自動車は各地運行自由なる爲宣傳價值も從つて大なるを認め關係者の了解を得て左の通り實施した。

一、宇治山田市參宮バス利用 年末より新春にかけて全國から蟬集する幾十萬の參宮客に宣傳する爲參宮協會の協力を得て左の通り實行した。

十二月末より一月中バスの兩側に會名會期を大きく廣告する。

二月より會期中窓硝子にセロファンマークを貼付する。

二、市内バス利用 八月より會期中會期會名を表はす特に作製したる小ポスター及セロファンマークを窓硝子に貼付した。

三、貨物自動車利用 市内及其の附近の貨物自動車は、名古屋、岐阜、京都、大阪等に日常運行するを以て、其の後部に博覽會宣傳事項を明記せるペンキ塗大鐵板看板の掲示を依頼し八月より會期中九十臺の自動車が之を實行宣傳に努めた。

四、客用自動車利用 大要左の通り、當市は勿論宇治山田、津、松阪の客用車に實施方を依頼し實行した。車の前部又は後部の窓に博覽會宣傳事項を表せる特製小ポスター及セロファンマークを貼付。

特に市内の自動車には會名會期を明記した三角旗二本宛を車體の前部に交叉し景氣を添へた。

五、自動車行進 特別催物又は福引デー等の場合は其の實施に先ち特に協賛會の協力により客用自動車二臺又は

三臺を裝飾し係員の外樂隊、サービスマン、チンドン屋等に乗込ませ、當市を中心に津、名古屋間に毎回

一日行程を以て宣傳に關するビラ約五萬枚宛を散布した。宣傳ビラの一例は左の通である。

飲酒無料券



日市大博覽會場内

中心

千載一遇の盛儀

各宗寺院

僧侶參列

數百の稚兒

佛華供物奉持

行列壯嚴を極む

終つて餅撒を行ふ

三月二十九日午後一時

【雨天順延】

佛大の前館教佛

佛大開眼供養チシ

佛大開眼供養チシ

名古屋市内バス利用

特別ポスターを印刷して左の通り、三月初より會期中までに於て便宜三十日又は四十日間後部に掲示す。

- 一、圖案 會場の圖に宣傳事項を記入した三色刷
 - 二、圖案 吹潮の鯨に宣傳事項を記入した二色刷
- | | | | | | |
|-----|---------|------|-----|-------|-----|
| 掲示車 | 名古屋市營バス | 一〇〇臺 | 掲示車 | 中央バス | 三七臺 |
| 同 | 青バス | 九〇臺 | 同 | 新三河バス | 三〇臺 |
| 同 | 赤バス | 一〇臺 | | | |

私設鐵道に於ける宣傳

縣下各私設鐵道會社の代表者の協議を依頼したが、宣傳に關する事項は左の通りである。

- 一、關係會社
 - 伊勢電鐵 中勢鐵道
 - 參急電鐵 安濃鐵道
 - 志摩電鐵 松阪鐵道
 - 三重合同電鐵 北勢電鐵
 - 養老電鐵 三岐鐵道
- 二、協力實施せられし事項
 - 驛に立看板ポスター等提出の事
 - 吊下提燈により各驛裝飾の事
 - 割引切符發賣の事
 - 團體募集に協力せられし事

車内宣傳

- 一、大阪方面の旅客に宣傳の目的を以て參急電車内に左之通り博覽會寫眞の掲出を爲す。
大阪、山田間直通車 毎日十五列車自二月至三月 四十日間。
- 掲出寫眞 (額縁入) 四日市港の盛觀を表し博覽會必要事項を記したるもの。
- 二、電車乗客に宣傳の爲車内天井にポスターの吊下。

汽船と齒車の圖に博覽會必要事項を記入したる三色刷のもの。

名古屋市電	一〇〇臺	四月一日より三十日間
岐阜電鐵	一〇七臺	四月一日より三十日間
伊勢電鐵・養老電鐵	八三臺	十一月十六日より四月末日迄

驛ホーム宣傳

私設鐵道の各驛は一般裝飾の外驛ホームに實施した宣傳の主なるものは左の通である。

一、四日市驛の裝飾

名古屋鐵道局の認可を得て左の裝飾をした。

- イ、驛舎に宣傳提燈を吊す。
- ロ、プラットホームの兩側に一間毎に博覽會宣傳の美麗なる小田原提燈を吊し其下部に會名を記入せる短冊を下げた。
- ハ、プラットの中通に會名を記したる襜形大提燈十數個を吊し夜間は電燈を以て照明した。

二、電車驛プラットの泗博名稱掲出板 驛名掲示板下部に二色を以て會期會名を表示す。

表示驛	伊勢電鐵	宮川堤	白子	楠	常磐町	公園下	松阪北口
		香良洲	津新地	上野	西富田	朝日	
	養老電鐵	多度	養老	揖斐	西大垣	美濃本郷	
	三重鐵道	菰野	日永				

表示期間 昭和十年十二月より會期中

交通機關利用宣傳

飛行機宣傳

博覽會の景氣を高め人氣を沸かす一策として、飛行機上よりビラの散布、サインの掲出により飛行機宣傳を行つた。

第一回 十月二十日前景氣として當市を中心として北勢六郡の上空を飛翔しビラ一萬枚を散布した。

契約者 四日市市 三重組

第二回 三月二十三、四の二日間會名を表したる五十尺のネットサインを曳きつゝ左記上空を五回又は二回宛旋回し、愛知縣を除く他都市に於ては各種宣傳ビラ五萬枚を散布した。

種宣傳ビラ五萬枚を散布した。

- | | | | |
|-----|-----|-----|------|
| 豐橋 | 岡崎 | 安城 | 瀬戸 |
| 名古屋 | 一ノ宮 | 岐阜 | 大垣 |
| 桑名 | 富田 | 四日市 | 神戸 |
| 白子 | 津 | 松阪 | 宇治山田 |
| 鳥羽 | 久居 | 名張 | 上野 |
| 龜山 | 菰野 | 阿下喜 | |
- 契約者 四日市市 三重日々新聞社
 第三回 四月十、十一の二日間に亘り實行す總て第二回に同じ。

祝航空エジソン
 十日十二月九時開場
 四月日市霞ヶ浦競馬場

國産振興 四日市大博覽會

明春三月二十五日から五十日間

大賞品付 入場券發賣

目下 大景品付 入場券發賣

一等 百圓 三十本 二等 拾圓 百本
 三等 五圓 一千八百七十本

發賣 本年十一月二十日迄
 全年二十八日抽選して景品を渡します

賣切れぬ内に今すぐ御求め下さい

四日市大博覽會事務局

飛行機上より散り布せるチラシ

氣球宣傳

大衆の注意喚起の一方法として左の通氣球宣傳を行つた。

- | | | |
|-----|-------------|--------|
| 第一回 | 掲揚場所 | 名古屋市榮町 |
| 期 間 | 三月廿五日より二十日間 | |
| サイン | 會名及會期 | |
| 契約者 | 津市 有効社 | |
-
- | | | |
|-----|------------|------|
| 第二回 | 掲揚場所 | 博覽會場 |
| 期 間 | 四月十日より會期終迄 | |
| サイン | 外國餘興場 | |
| 契約者 | 大阪市 角 定次郎 | |

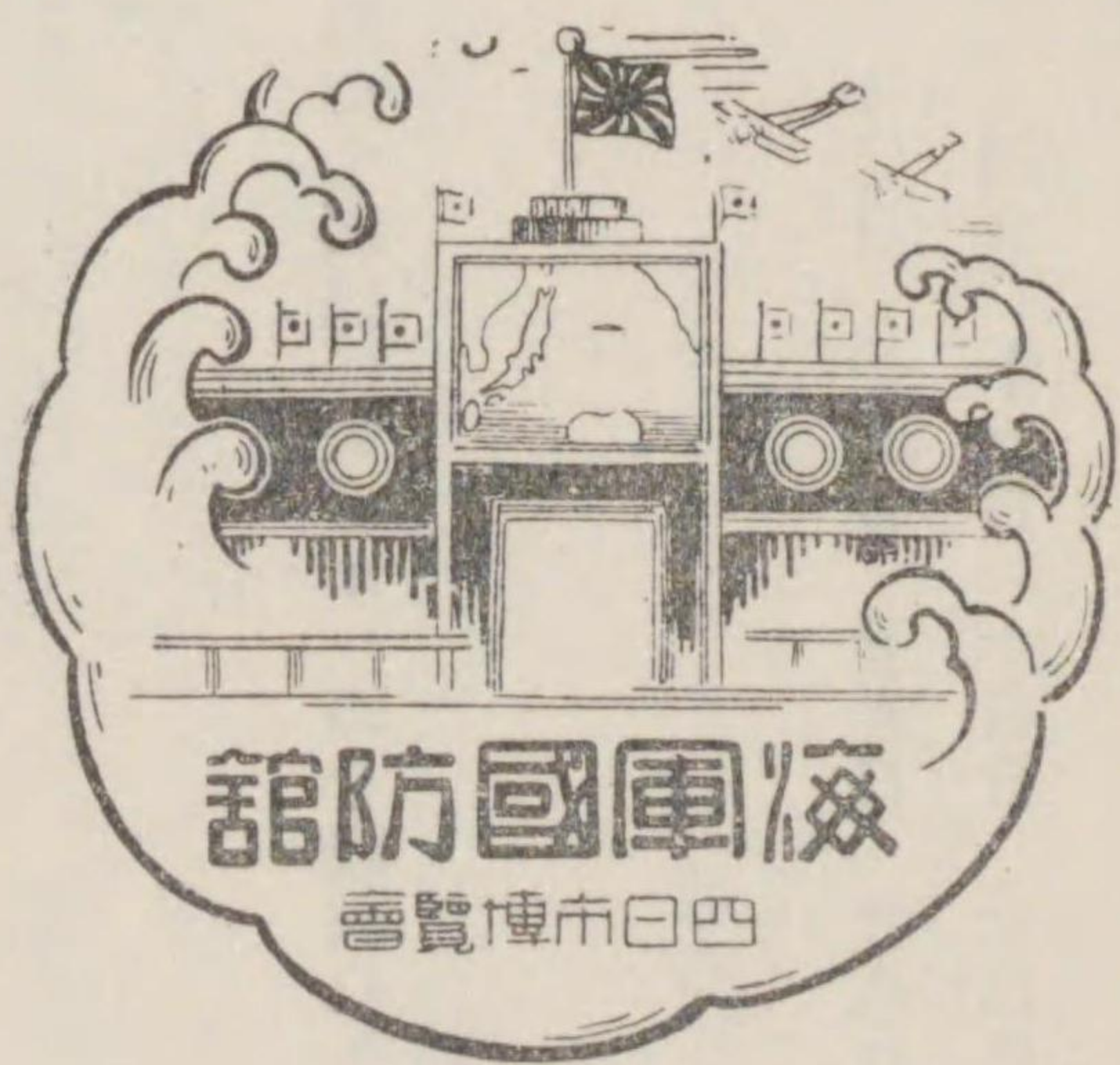
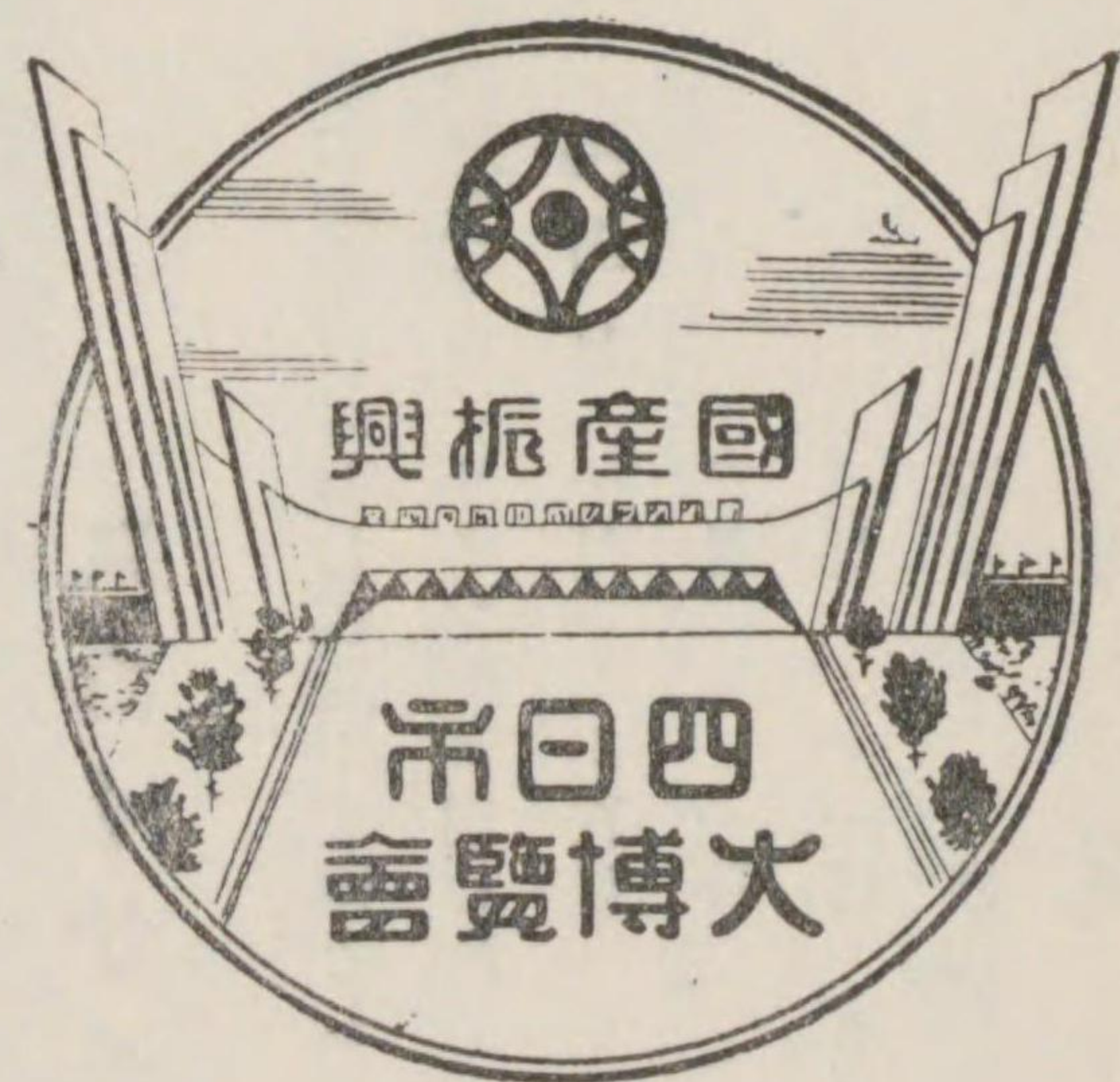
其他市外室山伊藤醬油部に於ては、祝博覽會及自家名のサインにより宣傳と廣告を兼ね會場内にて會期中掲揚した。

スカイサイン

名古屋市民に對し夜間の宣傳として、鶴舞公園前に大ネオン塔を建設したる外、廣小路、榮町角、新愛知新聞社の屋上スカイサインを利用した。

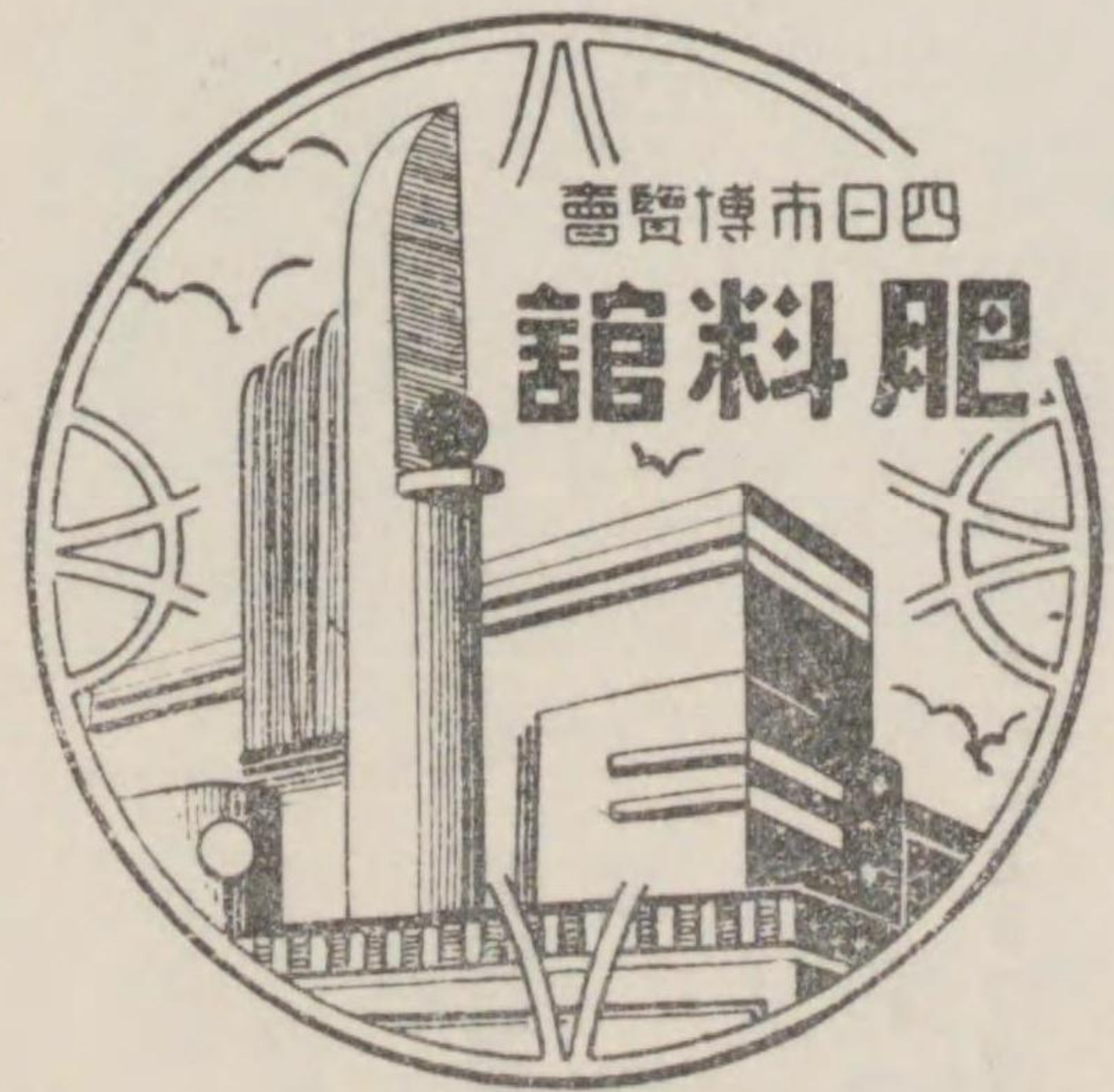
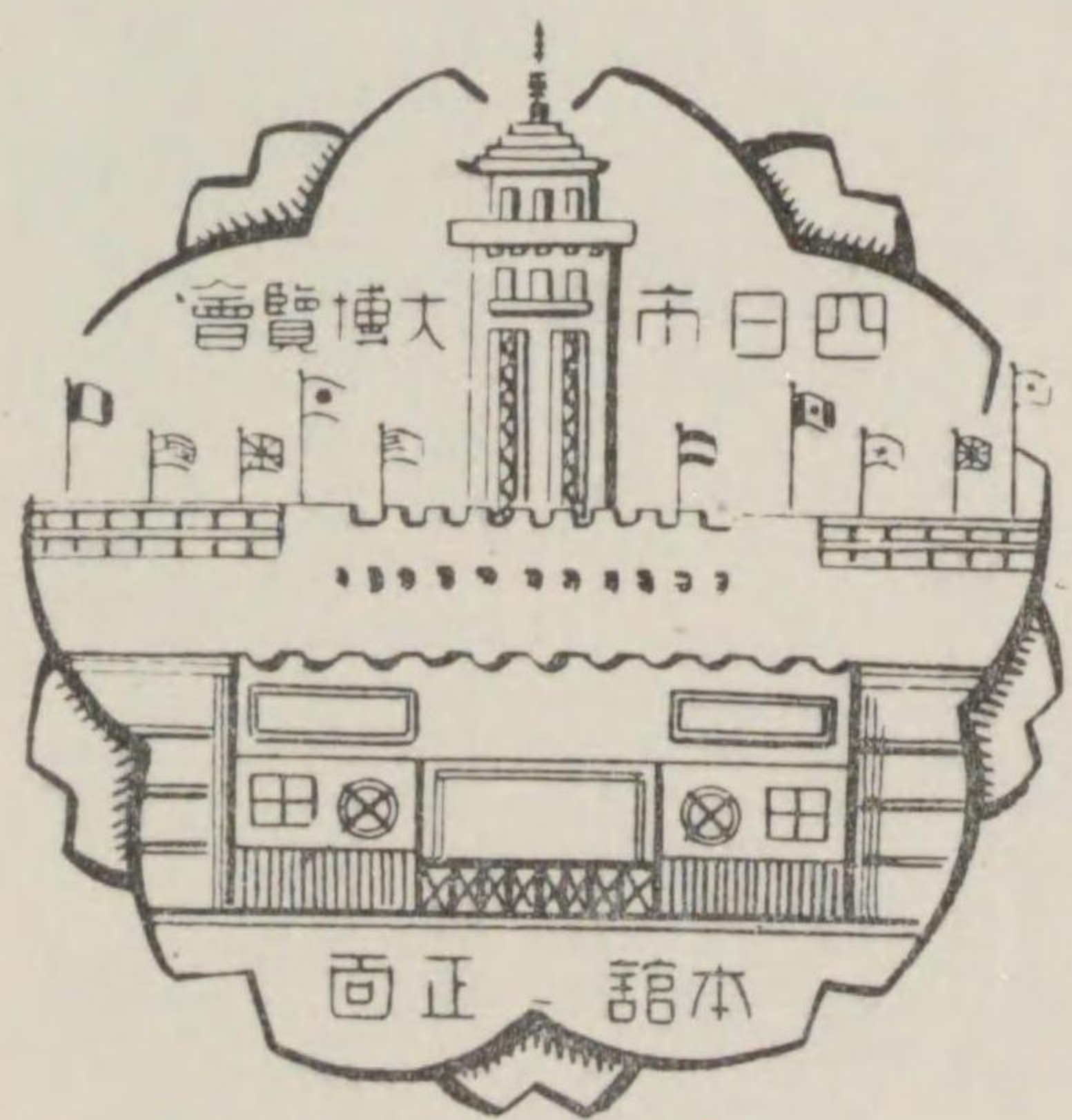
- | | |
|-----|-------------------------------------|
| 掲出日 | 一月 十五日 |
| | 二月 一日 |
| | 三月 一日 十五日 廿三日 廿四日 廿五日 廿八日 |
| | 四月 二日 三日 四日 十一日 十五日 十八日 二十日 廿五日 廿八日 |
| | 五月 二日 九日 |

飛行機宣傳・氣球宣傳・スカイサイン



スタンプ宣傳

博覽會發送の各種書類、市内著名會社商店等の發送書類、商品包裝紙等に本會の宣傳スタンプを押捺使用することは、會の宣傳上頗る効果が多いのである。されば本會計畫と同時に宣傳部では、此に注目し、躍進四日市を如實に象徴した圖案に會名會期を記入したもの、市廳員懸賞募集の結果當選した宣傳標語を記入したスタンプ數個を調製して本會之を使用し、且つ市内著名會社商店の商品及驛賣商品等に使用方を依頼したが何れも本會の趣旨を賛し使用せられた爲め、豫想の遠隔地にまで反響を呼び、非常な効果があつた。



この外當市役所、四日市驛、三重鐵道湯の山驛、省線宇治山田驛前、參宮協會案内所等に記念スタンプ數種を備付け、一般旅客の押捺を自由にした。

左のスタンプ展覽會に出陳して何れも好成績を納め得た。

新愛知新聞主催スタンプ展

國民新聞社主催東京白木屋に於けるスタンプ展

四日市商業新聞社主催スタンプ展

大阪松坂屋に於ける三重縣民新聞社主催のお伊勢參り展

名古屋趣味のスタンプ展

一ノ宮趣味のスタンプ展

省線四日市驛及四日市郵便局に於ては、博覽會を表象するスタンプを調製して押捺せられたことは、本宣傳部の感謝する所である。

福引宣傳

大福引の施設により觀覽者の増加を計ることは觀覽施設上必要なるのみならず、博覽會に一段の景氣を添へるに於て重要な施設である。之が行事に當りては毎回景品を明示したる簡易ポスター數千枚を印刷して各地に配布し、更に自動車宣傳隊により要項を印刷せるビラを配布した。而して福引は前後四回に亘り、第一回は昭和十一年四月廿六日に、第二回は同四月廿九日天長節を卜し、第三回は同五月一日より五日迄五日間、第四回は同五月九日より十三日まで五日間之を行ひ、何れも一般大衆に興味を以て迎へられ、掉尾の大成功を博した。又會期中愛知名古屋館、萬古陶磁器館、臺灣館、三重縣館、蠶絲館の各賣出し及び愛國婦人會の總會等に福引の催しあり何れも、本會宣傳に大なる價値を高めた。詳細は觀覽編に譲る。

其他の宣傳

宣傳計畫の目標に示すが如く、機會把握は宣傳の第一義である、されば會内容の總てを紹介し通報し利用することに於て、苟も宣傳に利用すべき機會あらば之を捉へて宣傳に努めたのである。左に二、三の例を示さう。

ラヂオに依る宣傳 ラヂオによる宣傳は、耳に憑へる廣告としてのみならず、ラヂオの有つ魅力に大きな効果が期待され、更に本邦放送事業が公共的性質を多分に含み營利的個人的なる宣傳は絶対に拒否される所に其の宣傳價值が高められる。幸に本博覽會は日本放送協會の懇篤な支援を受けて開會前に數次の放送を行はれた外博覽會開會の翌日は特に會場の實況放送が行はれ、會況通報に努力せられた。本會は會期中當日の主要行事の概況と明日のニュースを毎日態夫を以て放送局に通告し、七時のニュースの時間に發表を求め觀覽心の誘發に努めたのである。

チンドンヤ廣告 會期中特に福引其他催物に際しチンドンヤを雇入れ、會名入の行燈、旗等を利用し、ビラの散布、口上等により宣傳を行ふた。

貼付紙による宣傳 會の各種催物ニュース等を前日に一定の貼付用紙としてポスターの輪廓を印刷したるものに記入の上自轉車隊を派遣して、毎日數千枚宛を近郷に貼付宣傳を行つた。

驛賣品の包裝 名古屋鐵道局の認可を得て驛賣辨當包紙は、懸賞二等當選ポスター寶船の圖案を用ひしめ、其他の驛賣品に對しても同様包裝紙の改良又はスタンブ捺捺等を實行し宣傳を行つた。

各商店の包裝紙又はマーク等による宣傳 市内各商店の包裝紙又はマーク等は博覽會に因みたるものを用ひしめ又入場券を景品として物品の發賣を行はしめ以て宣傳を行つた。

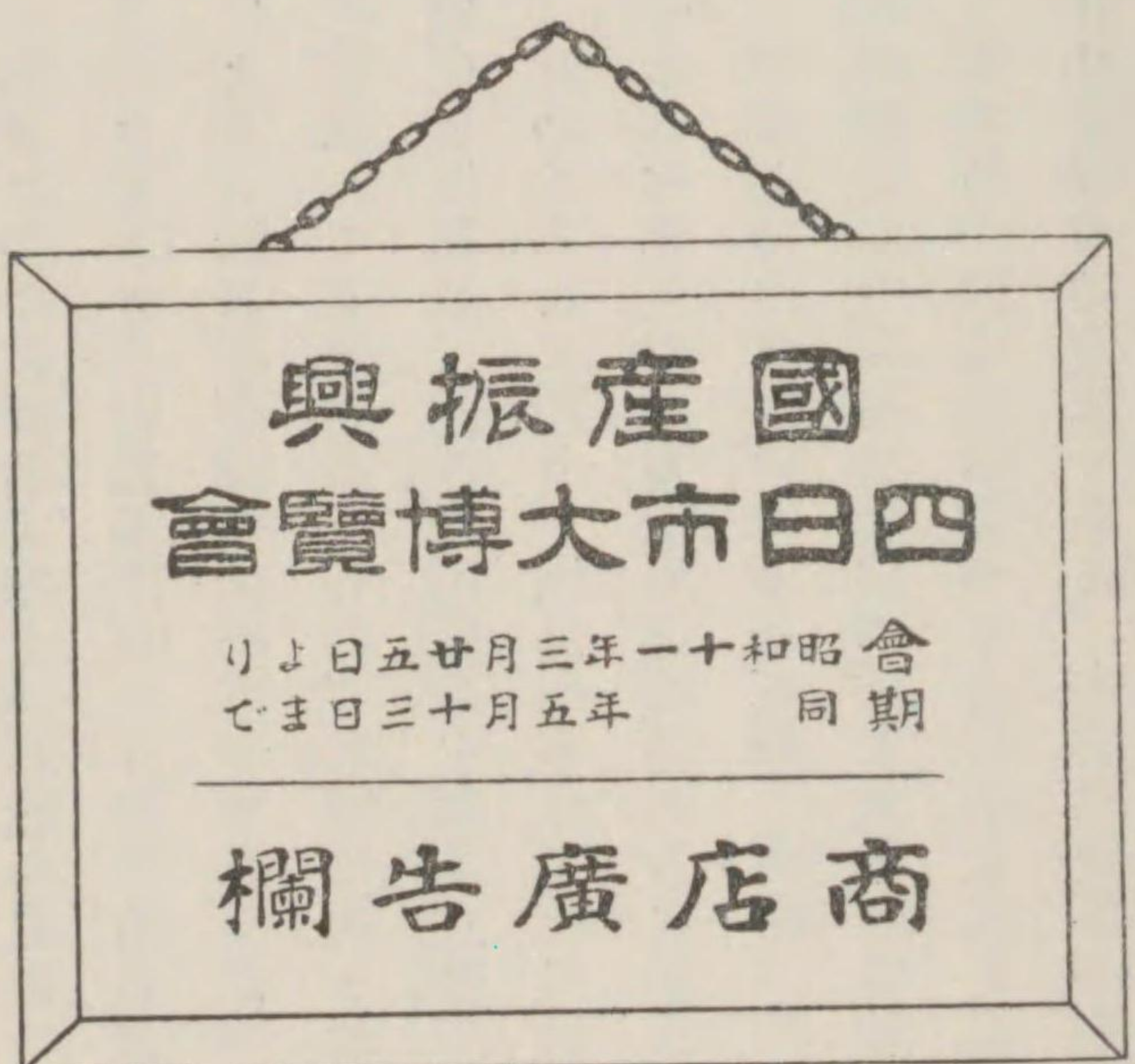
神都案内の利用 宇治山田市參宮協會が、全國主なる參宮團體を組織する地方へ日程計畫の參考として送致する

同會發行「神都案内書」五萬部を共同印刷により印刷し、右案内書に博覽會の事項を明示して宣傳に努めた。

市内商店ウインドを利用する宣傳 會期前市内各商店は、當

市商工會の應援を得て、ウインドを博覽會化する研究を進めたが、我宣傳部は各商店に對し博覽會のポスター、セロファンマーク等を配付して泗博宣傳裝飾を特に依頼した。又市内約百六十の煙草小賣商店ウインドに店主自辨にて上圖の如きナショナル式電氣サイン廣告板の掲出方につき組合長を通じて懇請し之を實行した。

臨時事項を利用する宣傳 左の如き行事につきては決定次第ラヂオ、宣傳ビラ貼付紙、チンドンヤ等に依り觀覽誘致に努めた。



- 1 大連觀光團の來訪 四月廿一日の高脚踊實演
 - 2 臺灣高砂族觀光團の來訪 四月廿七の島民踊
 - 3 東京高等商船練習船大成丸の入港 操帆作業
 - 4 文部省練習船海玉丸の入港 操帆作業カッターレース
 - 5 一等巡洋艦愛宕入港 拜觀許可
 - 6 會場内又は公會堂に行はれた各種會合(別項にあり)
- 附帶事業を利用する宣傳 博覽會協賛の目的を以て開催せられた各種の附帶事業開催の場合は其會場に、博覽會のポスター及要項を掲出し、博覽會場案内圖、ビラ等を來觀者に配布して博覽會への誘致に努めた。(別項附帶事業參看)

第四編 出品

出品蒐集の方針

本會は其の名の示す如く「國産の振興」を主目的として開いた博覽會である。されば、其の出品内容も此の主目的を方針として蒐集すべきものである。熟々世界經濟界の趨勢を達觀するに、輒近我國産業の躍進的なる發達により、國産品の海外進出は未會有の優勢を示し、世界の市場に溢れてゐるのである。之が反動として列國は百方畫策して經濟封鎖を行ひ、我國に對し經濟的重壓を加ふるの實勢である。此の世界經濟界の趨勢に鑑み、彌々國産を振興し、益々輸出貿易を盛にし以て新興日本の聲價を中外に宣揚せねばならぬのである。

此の大方針に則り、出品内容は工業に於ても、農産、水産將た林産に於ても、積極的には、世界の市場に歡迎せらるべきもの即ち輸出獎勵品たるを要し、消極的には輸入代用品、輸入防遏品たるを要するのである。

幸に上局の直接御指導と江湖の積極的御支援とにより、本會としても最善の注意と努力を傾注した爲に、出品總點數實に拾四萬參千點何れも蒐集の方針に適ひ、破天荒の成果を贏ち得たのである。

世界の平和に貢獻すべき大使命を有する大和民族、非常時日本の博覽會に無くてはならぬものは、國防の智識普及に關する施設である。本會は陸軍海軍兩省の絶大の御指導と後援とにより、國防館を設け、之を陸軍海軍の兩館に分ち、之が出品内容は何れも立體動的なるものを選び、一般觀覽者をして我國防の實體を直觀せしむることを得たのである。

産業の發達を畫し、國産品の改良を爲さんには、之が基礎として近代科學の智識を要するのである。されば、近代科學館を設け、我國斬新の機械類を網羅し、近代科學の粹を蒐め、科學の職能を發揮するに相應しい陳列をしたのである。

我國刻下の急務は維新の大道を宣揚し、國體の本義を明徴ならしむるに在るのである。されば、三重縣歴史館を設け、國史の成跡を明にし、國體觀念の明徴、一君萬民舉國一體の宣揚に資したのである。

出品蒐集の方針概ね以上の通りである。而して之が蒐集の範圍は全國各地は勿論、遠く滿洲、南洋の各種民地、濠洲に及び、邦人企業的全貌を蒐めて、今や世界の市場を征服しつゝある我國産業界を大觀せしめ得たのである。

出品 勸誘

博覽會に於ける出品の範圍、出品の量、出品の質の如何は、直に其の博覽會の聲價に影響する所大なるものであつて、成功不成功は出品如何に依つて決定せらるゝといふも過言ではない。従つて出品の勸誘は博覽會經營の任に當る者の最も苦心する所である。

時恰も、昭和十一年度には南は九州福岡の博多博、中國の姫路、津山兩市博、大阪市には大阪毎日新聞社の輝く日本博、北は富山の日滿博、近くは岐阜の躍進産業博と時を同うして開催の發表あり、參加各府縣の豫算にも影響し、出品參加に支障を來すこと必然なるを以て、出品部員は、全力を竭して奮闘を續けたのである。

斯く各地に博覽會を開催せらるゝを以て、出品の勸誘は可成迅速に機先を制するの要あり。昭和十年四月十二日附を以て、次の挨拶狀を各殖民地長官、道府縣知事、全國各市長、各商工會議所會頭等に發送し、五月に入りて全國各方面に第一回ポスターを發送し、次でポスター懸賞募集の依頼狀を發し、矢繼早に全國各地に開催計畫